

チートと転生、あとガ ンダム

ロイ

注意事項

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

あらすじ

生まれ落ちたのはオーブのサハク家、序にチート能力。ああ、これはやれってことですね？神サマ。以前にじファンに投稿してた作品です。

目次

プロローグ	1
いまだ二歳です	3
チートを始めようと思います	8
チート発展中です	14
そろそろ戦争が始まります	18
連合とかザフトとか実はどうでもいい	25
アスハは嫌いです	31
自重は断固拒否します	39
島国の主力が陸戦兵器ってどうよ	45
やっっちゃいました、そして第一歩への準	
備	51
食べ物の恨みは怖い	58
みんな大変、今日この頃	64
今のうちに戦力増強	69
悪いことは何時も同時に起こる	74
何と言うグダグダ	79
あれ（Z A F T 技術）はいいものだ	85
情報をなめるな	90
経済という物は意外とデリケート	95
世界は変わる	100

一番疲れるのはセイラン

オープンから旧オープンへ

バタフライ

シンプルイズベスト

〈DESTINY開始〉国は人が基本

戦う者には揺るぎ無い信念が要る

115

175

会談とは基本的に秘密裏に行うものである

三人目の犠牲者………か？

る

182

護衛は戦えればいい訳ではない

もつとすごい者がいた

戦争を終結させるのは政治家の仕事

デユランダルの限界は近い

134

最大のブレイク

三権分立を思い出して欲しい

兵器は使い方次第

最高で最悪な作戦

一人目の犠牲者

祝日でもマッドは止まらない

二人目の犠牲者

どこのGだコイツら

160

155

147

141

127

120

110

104

221

216

212

206

201

193

189

170

165

世界が決まった日

—————

227

やっぱり人材って重要だ

—————

231

外交は多分難しい

—————

235

大革命の始まり

—————

240

戦争なんだが…これってどうよ？

247

終わりはいつも呆気無い

—————

253

チート知識の使い方

—————

258

皆さん冷めてます

—————

263

一応の終結

—————

268

異世界に行きたい

—————

273

プロローグ

その日、私はいつも通り意識が覚醒し背伸びをしようとしていた、が、体が動かない。

慌てて目を開けるとなんか視線が低い。そして目に入ったのは太陽っぽいのが中心にある見たことがあるようなマークの国旗。それと今は揺りかごの中にいるようだった。

（え、あれってオーブのマーク？しかもオレ今赤ちゃん？あれか？転生憑依系？）

結構混乱しているようだ。十分ほど騒いでたら世話係のおばさんらしき人が入ってきて宥め始めた。ちよつと落ち着いた赤ん坊はまた考え始めた。

（時々聞こえるナチュラルとかコーデイナーとかからしてここはSEEDの世界のようだ、おぼちゃんの腕時計の時間ではいまはC・E・60、まだ戦争は始まっていない。なぜ私がここにいるかは考えるだけ無駄だろう、問題はこれから先の事、どう転んでもオーブは滅ぶ。というかオーブって氏族制度が残ってるんだっただ、どおりで政治家共も無能なのが多い、それに首長のウズミが一番ダメだろ、自爆して責任を押し付けて、ついでにマスドライバーとモルゲンレーテも破壊するって国のトップとして失格す

ぎる)

TVではあのシーンは感動的だが、結局は戦後処理を残った人に押し付け、マスドライバーとモルゲンレーテがなくなったことで、技術立国のオーブはその価値を大いに下げた、戦後の政権がモルゲンレーテを再建できたのは奇跡と言ってもいいだろう。

(アスハ家は政治を主導する家なのに二人共ダメなのはヤバいだろ、しかもオーブは無資源国家、人口も多いとは言えない……… つんでね?)

原作でもオーブは殆ど何も開発出来ていない。MSのハードウェア技術は大西洋連邦のを盗んだだけだし、OSはキラ・ヤマトが作った物を使っている。発展型はそれなりにあるが、肝心の物は全部外部協力?からきている。

(よし、逃げよう、戦争開始までまだ十年もある、スカンジナビアあたりに逃げれば安全だろう。原作でもあそこは戦場にならなかつたはずだ)

イキナリ逃げる決意を固めた主人公だった。

いまだ二歳です

C. E. 62

SIDE ロイ

この前二歳になったロイ・サハクだ。

どうやら最初に目覚めたのは出産直後だったらしい。母は私が生まれて半年で亡くなった、交通事故だそうさ。正直いってそれまでは両親ともあんまり顔を見せなかったが、あの事故の後、父が一気に親馬鹿になった。まあ、子供より夫婦仲を重視するのはどうかと思うが分からもなくもない。実際私は前世ではかなり両親に迷惑をかけた。それに姉のロンド・ミナ・サハクと兄のロンド・ギナ・サハクも可愛がってくれている、家族に不満はない。

それと名前からわかると思うが、私はサハク家の子だ、しかも正統なる血統をもつ唯一の後継者らしい。逃げる算段がいきなりパアになった。あとかなり落ち込んだ、サハク家って確か後々ボロボロになってたし。しかしオーブの五大氏族ともなれば色々介入できるだろう、それに原作知識もある、がんばればこの家だけでも守れるかもしれないと思うとなんとか立ち直した。

サハク家は五大氏族の中で軍事や裏の色々を司る家だ、五大氏族だけあって生活もいい、ただ汚い仕事をいくつも扱っているのが、嫌う氏族も多い。父、コトー・サハクもサハクの働きは見合った報酬を貰ってないと嘆いてた。代々こんなじや別の大氏族を嫌うのもわかる、こちらから見れば自分の手柄を横取りされたようなもんだ、それが100年以上も続いているなら尚更だ。

さて只今パーティーに参加しております、なんかカガリ・ユラ・アスハが7歳になったらしい。流石代表首長の娘のパーティー、豪華さがハンパない、これ国家予算使っていないだろうな……どうでもいいか。しかしウズミ・ナラ・アスハさん、長つたらしい演説はもういいから、あんたも親馬鹿なのはわかったから、料理なんて冷めるところか幾つかは変色してるぞおい。誰だあれ、立ったまま寝てるぞ、ってあの髪型と色はユウナ・ロマ・セイランじゃん！この年でもうダメ人間か？カガリも舞台の上であくびしてるし。

なんか面白いなオーブ五大氏族。あつ、話が終わったぞ。

演説終了とろもに父も含めて五大氏族の首長たちが集まりだした。カガリに話に行くのか？げ！なんかこつちに来た！しかもなんか怖い顔してる、いやあれは見極める表情か。うちの兄と姉は観察もといあいさつして回ってるし。つまりこの国トップ5

を私一人で対処するのかYO!

S I D E E N D

S I D E ウズミ・ナラ・アスハ

ロイ・サハク、サハク家の跡取りにして稀代の神童、わずか2歳で大学レベルの知識をもつ鬼才、どんなコーデイネーターでも出来なかつた事をナチュラルの彼が成し遂げた。

直接見るのは彼が産まれて以来だ。2歳なのにその目からは理性の光が見える、カガリがああの年だったときは純粋な目だった。可愛くないとよく言われるが、それは単なる妬み

だろう。今もそうだ、我ら五人が向かっているのに、慌てもしない、全会場からは既に注目されている、それであの毅然とした佇まい、カガリに不満がある訳ではないが、彼が我が家に生まれていればとよく思う。

さて、話すのはこれが初めてだ。ここまで緊張するとはな、この私が。

S I D E O U T

SIDE ロイ

こわいオツサンたちが目の前に立っているが。ロンゲさん、まあウズミさんだが、なんか迷ってる。どう言う言葉遣いをするか迷ってるらしい。

これで「ボク、お話わかるかな？」なんて言ったらそのヒゲ燃やす。

「君がロイ？サハク君だな、私はウズミ・ナラ・アスハだ、この国の代表を務めている」

こんなもんか、2歳児に硬すぎる言葉遣いは虐めているようで嫌なんだろう。

「ロイ・サハク、サハク家の長子です。まだ政務も軍務も関わっていませんが、今後次第では御助力願うかもしれません。その時はよろしくお願いします、ウズミ様。」

ワオ、話が止んだぞ、そこまで驚きか。確かに言質を取ろうとする2歳児は怖いな。

「う、うむ。君ががんばってくれればオーブも安泰だろう。そ、そうだ、カガリ！ちよつとこつちへ来い」

寝てたカガリが起きて、こつちに来た。フリーダムだな、羨ましいぜ。

「娘のカガリだ。ほら、カガリ」

カガリが睨みながらこつちに向いた。

「カガリ・ユラ・アスハだ、よろしく」

仲良くする気ねーな、ま、子供だからしょうが無いか。(↑ただいま2歳です)

「ロイ・サハクです、今後長い付き合いになると思いますがよろしくお願いします」

挑戦状のつもりで不敵な笑をくれてやった、一方カガリは困惑さみだ、恐らくまだ自分の立場をよくわかっているのだろう。お互いは氏族の後継ぎ、政務や軍務でいやでも会うだろう。

「（よくわからんが）こちらこそ」

そこでウズミが割って入って来た。7歳の娘が2歳児より知能が低い事をさらされるのはメンツにかかわるだろう。

「ロイ君、我々は他を回らなければならぬ。君は存分に楽しんでくれ。」

返事も聞かないで去っていった、顔が引き攣っていたのは近くの6人の秘密になった。（カガリはよそ見してた）

チートを始めようと思います

SIDE コトロー・サハク

息子は天才だ、生まれて三ヶ月で本を読み初め、一年で中学生レベルの問題を解けた、更に一年で一般大学の工学科の問題を解いている。そして精神も成熟するのが早い。先程の受け答えは見事だった、あのウズミが顔を引き攣らせたのもわかる。しかし、こいつはまだマシだ。ロイは2歳の誕生日から突き抜けてしまった。お小遣いに十万ねだったと思ったら三日後には一億になってたし、何故かオーブの名門大学の教授になってたり、そこでとんでもない経済論文を発表したり、悪いことではないのだがすこし自重してくれると助かる。最近、前からあった嫉妬の視線が一部が親の仇を見るような目になった、そういう奴らと付き合うつもりはないので実害はないのだが、胃が痛い。あつ、これ実害だよな。

とにかくロイはよくいい意味で驚かしてくれる、心臓には悪いが。そういえばパーティーの後家族四人で話しがしたいと言ってたな、また何かやらかす気か？先に胃薬を準備しておこう。

SIDE END

SIDE ロイ

パーティーは殆ど人と話さないまま終了した。これからが今日の本番だ、家族に協力してもらわないとサハク家の繁栄はない。

今の私にとって一番重要なのは自分と家族、そして次にサハク家だ。最初は逃げるとか言った私がここまで考えられるようになったのは2歳の誕生日の日に起こった事件に起因する。それまでは影響力を確保するために天才を演じていた、しかし大学の知識が最後にこれ以上の知識はない。そしてあの日、朝起きたら頭に手紙が乗ってた、略すこんな感じへオレ、神。間違つて殺してちゃった。転生とチート能力あげるお。今更死んだとかどうでも良かったが、チート能力は喜んだ。実際は知識だけなんだけど、内容と量がハンパねえ（手紙よると人類が手に入れる可能のあるすべての知識らしい）。ナノマシンとか核融合炉とかはまだいい、経済とか政治知識とかも嬉しい、しかしフォールドとか月光蝶とかやり過ぎだろう、そしてなんと錬金術までもあった。そういうえば錬金術は科学だったな。モチロン早速錬金術を試してみたさ、エドみたいにパンツであわせてから地面に手を付いた、気絶した。実験を繰り返し、大量の精密機械を一気に練成するのは頭脳が耐えられないという結論になった。技術レベルの高さと錬金できる規模は反比例らしい。そして何故か頭の回転も早くなった、分割思考なんて寝なが

ら出来ます。ともかくこれでご都合主義で力も手に入れた。これからずっと私のターンだ！

S I D E E N D

サハク家に屋敷の一部屋に四人が集まった。

まずは集めた本人が最初にいう。

「三人とも集まってくれてありがとう。今から話すのは我が家の今後のことです。ここは盗聴とか大丈夫ですよね？」

「ああ」「うむ」「問題ない」

「まず、十年以内に大規模な戦争が勃発する。」

いきなり爆弾を投下した。

「根拠は？」

コトーが厳しい顔で問うた。

「第一にC. E. 54年に発生したS2インフルエンザです、これによって大多数のコーディネーターとナチュラルが互いに反発感情を持ち始めました。第二に黄道同盟のシーゲル・クラインとパトリック・ザラがプラント評議会議員に当選したことです。」

これにより独立運動が高まっています。最後に決定的なのがこれです、プラントのメイ
ンシステムにハッキングして得た資料です」

ロイは資料を三人に配った。三人は資料を読むと驚愕した。

「なんだ！このふざけたスペックと設計思想は！」

「落ち着けギナー！」

弟を落ち着かせたミナがロイに聞く。

「プラントはこのMSでプラント理事国と戦おうとしているのはわかる、しかしこれは使えない兵器だろう」

配った資料にはMSの設計と開発プランが書いてあった。その計画の緻密さと予算の量でプラントの意気込みが見える。

「ええ、これを使って勝つ為には最低限核と誘導兵器を封じなければなりません。ですがそう都合にいい方法があるんですよ、これです。」

そう言うと、もうひとつの資料を配った。

「セクステイリス市基礎物理学・素粒子物理学者のオーソン・ホワイトが自由中性子の運動を阻害する装置を開発しています、副作用として電波通信が阻害され、誘導兵器が無効になる。これで開戦の条件は整います。」

三人はロイの情報収集能力に舌を巻くと共に、戦争が近づくのを感じた。

「そして戦争にはオーブも巻き込まれるでしょう、モルゲンレーテ、マストライバー、理由はいくらでもあります」

十分予測できたことなので動揺するものはない。

「私の考えはこうです。まず今から、サハク家は財産、技術、戦力を貯めます。そしてオーブ危機にて力を使う、その功績をもってサハクを表舞台に押し出す。もしこれでも手柄を横取りするか、アスハが代表として酷過ぎる暴挙にでた場合、独立します。」

三人はもう驚かない、耐性がついたようだ。

「いいだろう、これはサハク家の悲願を叶えるチャンスだ、お前がやるなら心配もいらんしな。我々はなにをすればいい？協力が必要なだろう。」

「父さんにはまず新しい会社を作ってもらいます、その会社で私が設計した新しいタイプのコロニーを20基ほど造ります。国力増強と共に独立する時の土地にします。資金は私が新技術を使えば何とかなるでしょう。」

スケールの大きさにコトーはニヤリと笑った。

「いいだろう、やり甲斐がある仕事じゃないか。それでミナとギナは？」

「ふたりはこのまま士官学校を卒業して、軍で優秀な人材を取り込んでほしい、独立しても付いてくる人材を。それと有視界戦闘の研究は、私も含めて開戦までに三人でやりませ、戦争が始まればその価値は大きい。」

「まかせろ」「いいだろう」

「よし、細かいことは今後決めよう。しかしロイ、お前が家に産まれてよかった。」

コトーが締めくくるように言った。

「私も皆が家族で幸せだよ」

ロイは人懐っこい笑みでそう言って、会議は雑談に変わった。

チート発展中です

C・E・68

シーゲル・クラインがプラント最高評議会議長に就任。

政治結社だったZ A F Tをパトリック・ザラが解体し軍事組織Z A F Tに再編した。

あの家族会議の後、サハク家は次々と会社を設立した。その中で一段と目立つのはコロニー公社、C・B社、S・I・E社の三つだ。

今までコロニー公社は既に18基もの新型コロニーをL2に作った。ロイ・サハクが設計し、色々な時代や世界の技術を練込めたコロニーは一基約1500万人まで居住が可能でプラントと違って空気税などがない、そしてコロニーそのものの防御力や安全度はプラントのコロニーとは比べものにならないくらい優れている。18基の内12基が汎用で、2基が工業コロニー、残りの4基が食料生産コロニーだ。実験とか研究とか色々すつ飛ばした食料生産コロニーは既に全基稼働している、おかげで国土が少ないオーブが食料輸出国になった。

C・B (Celestial Being)社は兵器の開発、生産と販売を行う企業で。今はホバークラフト関連技術の特許を抑えてり、関連兵器の販売を行っている。目

玉商品はホバー移動の指揮車と新型水陸両用戦車だ。ホバー移動の指揮車は値段は高いが移動の速さと地形を選ばない走行能力（海もOK）に指揮官たちは大満足、なんでもこの指揮車を使った指揮官の戦場帰還率が著しく上がったとか。新型水陸両用戦車はホバー移動するので海でも最高100キロの速度で移行できる、船にとつては悪夢だろう、これは各国があらゆるコネを使って手に入れようとしている、在庫なんてモチロクありません。

S・I・E社はパソコン、PDAなどを主に扱う電気会社だ。チート知識によって創りだされた製品は常に他社より一歩リードしている。その利益も莫大で、コロニー製造の資金源となった。

これらの企業を抱えるサハク財閥は世界トップレベルの財閥となっている。一財閥で18基ものコロニーを作ったには尋常じゃない、どう考えてもコストオーバーだ。実際は資源衛星をあちこち引っ張ってきて作ったのでコストは低い。ちなみに大量の資源衛星を探し出したのはロイだった。さすがにロゴスと対立できるほどサハク財閥も大きくはない、しかしオーブ、赤道連合、大洋州連合、南アメリカ合衆国の財界での影響力は絶対的な物となった。

ついにザフトが建軍されたか。MSの情報も漏れ始めた、Nジャマーはまだ大丈夫のようだ。

しかしそろそろ軍備増強を始めないと、世界はこのまま戦争へ一直線だろう。

新しいコロニーを作ったことでセイラン家、トキノ家、キオウ家からヘリオポリスの運営使用権を要求された、さもなくば新造コロニーを国営にしろと。モチロンヘリオポリスをくれてやったさ、どうせ原作が始まれば壊れるし。この反応にウズミが一番驚いた。なるほど、裏で糸を引いてたのか。

8歳になった私は結構凛々しく育ったと思う、しかし母の遺伝が濃い。私の顔は中性的で基本的に目が細くなる、あとテニスが得意っぽい顔だ、つまり不二周助にソックリなんだ。まあ、いいけどね。

「ロイ様、お呼びですか?」

秘書が入ってきた、いまの私は裏の総帥みたいなものだ。

「ああ、これを」

そう言つて書類とディスクを渡した。

「ディスクに入ってるのはこれからC、Bで開発してもらおう戦車、ヒルドルブのデータだ、研究所に送つてくれ。それと資料にあるロボットを5000体アズラエル財団に発注してくれ。あと前に引つ張つてきた、衛星GA452317をもらいソロモンと

改名する、各首長との折衝を頼む。」

「コトー様には伝えますか?」

「ああ、ミナとギナにもだ」

「かしこまりました、失礼します」

この世界は人工知能があんまり発達していない。アニメではハロの人工知能が一番高かった気がする、将来性でいえばスターゲイザーがあつたけど。注文したロボット5000体は宇宙での労働力として使う。私がシステムを作れば理想的な労働者になつてくれるだろう。目指すのは私だけの命令を聞く宇宙要塞ソロモン、戦力もMDを使うつもりだ、A・C時代のMDシステムも魔改造すればトップエース並の実力になるだろう。何とか開戦までに完成させよう。

S I D E O U T

そろそろ戦争が始まります

・ E. 70年2月8日

サハク家屋敷の庭で、久しぶりに家族四人が揃って優雅にティータイムを楽しんでいた。

「戦争は既に避けられない、そして我が家にとってはチャンスだ。しかし今更だがソロモンの戦力はやり過ぎた。反省も後悔もしてないけど。」

ロイが溜め息をつきながら言った。

「あれか、バレたら世界が敵に回るだろう、隠蔽は大丈夫なのか?」

「問題ないよ姉さん。要塞のAIは高い、ハードウェアは8世代後の物を使ったんだし、補給とかもいらなから、出入口はすべて封鎖してある、忍び込むのは無理だ。それに今は誰もあんな所に目を向けないよ。」

「すべてがロイの言った通りになっている、そして計画も順調だ。サハクが表舞台に出るのも時間の問題だな。はっはっはっはっ」

すべてが順調なので、コトーがここまで喜ぶのも無理はない。

「そろそろ時間、本題に入ろう。」

ギナの一声で4人とも顔を引き締めた。

「大体あと2時間でクライン親子が来る、おそらく我々の支援が欲しいのだろう。シールゲルがラクス・クラインを交渉の席につれ出すのは初めてだ。ロイを狙っている可能性もある、気をつけろ。」

ロイはラクス・クラインが敵になる可能性が高い事を知っている、気を許すことはあり得ないだろう。

「では報告を聞こう、まずは外部担当のギナから。」

「ザフトのNジャマーは既に完成し、かなりの数を揃えた。地球全土をカバーすることもできる、時を見て使うつもりだろう。我らのコロニーとオーブには問題ない、コロニーは太陽発電と核融合発電でオーブは地熱発電だ、核分裂を抑制しても影響は少ないだろう。ザフトのMSはバリエーションが揃った。宇宙でのジンとシグー、海でのグーントゾノ、空でのデイン。連合はこれらに苦戦するであろう。」

「兄さん、Nジャマーキャンセラーの情報はある?」

「ない、当分は開発する理由もないからな。」

「わかった、次は姉さんだね。」

「うむ、国内の反体制側の人数は思ったよりも多かった、他の氏族どもが権力を乱用して

いるらしい。五大氏族は問題ないが、幾つかの下級氏族が隠しきれない身内の犯罪を無理やりもみ消し、今では公然の秘密になっているとか、コロニーへの移民は増えると思われる。国内のスパイはかなりの数を狩った、特に家はまだマシだがモルゲンレーテのスパイが多すぎた、これからは戦時ともあつて防諜レベルも上がるから、特に心配はいらない。そしてヤラファス島で連合の強化兵士実験施設を発見、それを封鎖した。キオウ家が絡んでいる可能性大だが、証拠が無かった。なお検体のステラ・ルーシエは保護している。」

ぶぶつ。ロイがこれに紅茶を吹き出した。

「ちよ、姉さん、その子つてまさか金髪の女の子?」

「そうだが、何か問題があるのか?」

「マジかよ... いえ、些細な事です、後にしましょう。」

「うむ、それとつぎはお前だ、ロイ。」

「はいはい。コロニーは目標の22基か完成、戦火を恐れる人たちが移民を開始しています。C・Bコロニー本部ではサハクの主力兵器、VF17の試作機が完成、テストが済み次第改良、量産すること。連合とプラントに販売する兵器も準備が完了しました。それとサハク財閥のほぼ全ての企業の本部をコロニーに移しました。これで移民さえ揃えば国家として独立できます。」

「聞けば聞くほど全てが順調だな、いい事だ。クライン親子との会談は私とロイが行く。人数が多いと威圧しているように思われるからな。」

「分かりました」「うむ」「解った」

「じゃあ兄さんはC、Bにソーラーシステムの建造を伝えてくれないかな、姉さんはベースマテリアルの買い溜めを指示して欲しい、あれはNJCに欠かせないレアメタルだからね。私と父さんは今から会談に行くから。」

4人はそれぞれの役割をはたすために離れた。

明るいい応接室に二人のオツサン、少年一人と絶世とも言える美少女がソファに座っていた。

「プリント最高評議会議長のシーゲル・クライン、隣は娘のラクスだ。」

「サハク家首長及びサハク財閥総帥のコトー・サハクと次期首長のロイ・サハクだ。」

二人はまず握手した。

「しかし議長も大変だったでしょう、コペルニクスの事件、地球連合の設立、オーブの中立宣言、この一週間はご多忙だったでしょう。」

「それはミスター・サハクも同じでしょう、忙しい中時間を作ってもらって感謝します。」

「して今日はどの様なご要件で？」

「では率直に言いますよう、我らプラントの独立を支援して欲しい。」

コトーは茶を一口飲み、答えた。

「はつきりと言いますな、しかしそれでは見返りが無い。」

オーブが既に中立宣言したが、サハク家がプラントを支援するのは法律上問題は無い。しかし連合がそれを口実にオーブに干渉することは可能だ、そのリスクは大きい。それにサハク財閥の技術は事実上プラントを超えている、ロイがいるので技術で遅れを取ることはないだろう。つまりプラントが出せる対価が無い。

「確かにサハク財閥の技術レベルはプラントに迫るものがある。しかし、それも小型の精密機械だけだ、それだけでは国は守れない。」

「！ほう、それはプラントが軍事技術を渡す用意がある、と解釈してもよろしいかな？」
「交渉次第ではお互い満足するものが得られるでしょう。」

C. Bの最新兵器はVF17のスペックはかなり高い、しかし完成したばかりなので情報は出回っていない、そしてVF17の正式配備もまだ時間がかかる。総合で言えばZAFTの方が技術力は高いだろう。もちろんそれは表の話、実際ではソロモンにガンダムXXとかターンエーガンダムとか、チート戦力がある。

当然それらは隠す必要がある、機が熟すまで。

「C. Bが開発したMTヒルドルブはみましたか？あれはMS開発の中継点と考えるとらって結構です。戦争が始まれば技術はいやでも漏れる、はつきり言つてそちらから貰う必要がありません。」

はあ、溜め息をつくシーゲル、それがどう言う意味か、直ぐに解つた。

「ニユートロンジャマーを御存知ですか？」

NジャマーはZ A F T最高機密だ、ここで持ち出すということは、それを持つて脅迫するつもりなのだろう。

ここでロイが初めて口を開けた、ちなみにラクスは知識不足で内容が理解出来なかつた。

「もちろんよく知っています、地熱に頼れるオーブは問題ないこと、そしてそれを使えば連合との講和が不可能になることも。」

さすがのシーゲルもこれには腰を浮かせた、*“地熱”*という言葉から相手がNジャマーを完全に把握していることが解つた。

「さすがだ、帰つたら情報管理を見直さないとな。」

最高機密を知られたことも問題だが、先程の一件で交渉が破綻することはもつとまずい、最悪の場合連合側につくかもしれない。C. Bの兵器は汎用性が高く性能もいい、MS以外の兵器を一部C. Bから買うつもりでいる、ライセンス生産出来ればなおい

い。

「まあ、我々は飽くまでも中立だ、適正価格での貿易なら歓迎しよう。」

助け舟をだしたのはコトローだった。

「プラントもオーブとは仲良くしたい。共に戦えないのは残念だが、プラントとオーブは良き友であることを願う。」

シーゲルは会談を終わらせるためにそう言った。

結局ラクスは何も話さなかった。

その後クライン親子は直ぐにプラントへ戻った、最高評議会議長はやはり忙しいらしい。別れの際、ラクスとロイが握手をしたが、自分の笑顔に動揺しないロイを見てちよつとご機嫌ななめになった。

連合とかザフトとか実はどうでもいい

C・E・71年1月25日

SIDE ロイ

先程ヘリオポリス崩壊の知らせが届いた、やっと原作開始か。

ウズミがカガリのことで騒いでたが、まあ大丈夫だろう。

プラントが宣戦布告してから、L2のコロニー群にアルミューレ・リュミエールを配備した。つまりアルテムイスの傘の発展型で22基のコロニーを包囲出来るようになった。ちなみにエネルギーはGNドライブを使った。木星でしか作れないと言ってたが、錬金術で一発だった。

戦争が泥沼化して、L2コロニーへの移民が更に増えた。評判を聞いたオーブ市民たちは、移民ブームが起こった。コロニーは選挙制度があつて、サハクの縄張りなので他氏族の強権がない。オーブ政府に喧嘩売ってるようだが、コロニーはサハクの所有物だ、問題はないだろう。

原作ではサハク家の支持でGを開発していたわけだが、ここでは乗り気じゃないサハクを見て、アスハが秘密裏に支援していた。少しだけウズミを見直した、MSの技術は

確実に必要になるからだ。最もバレたのは大きなミスだが。ヘリオポリスが崩壊してもオーブは大声で非難出来ないのです、この件は有耶無耶になるだろう。

先日、VF17を公表した、オーブは連合より早くヒト型機動兵器を量産することになった。そしてナチュラル用OSもほぼ完成していると発表した、これに対し大量の打診があった、全部断ったけど。

しかしウズミは頑固だった、モルゲンレーテのMSがあるので（試作機が完成している）VFは要らん、ついでにOSもいらんとか言ってた。だめだこりゃ。ついでにC、Bの兵器は全部使うつもりがないようだ。

ヒルドルブは連合に大人気です、MTはMSと戦車を足して割ったようなものなので、ほどほどの高い技術と性能を持っている、物量作戦が主体な連合にびったりだ。ZAFTには主に無人兵器を売っている、兵員数が少ないZAFTは無人兵器を重宝しているようだ。

それと家族が増えました、ステラ・R・サハク14歳、年上なのに私を「お兄ちゃん」と呼ぶ。萌え死ぬかと思いました。父の親バカっぷりが天元突破してしまいました、私とミナ、ギナは精神の成長が速すぎて可愛げが無かったのだろう。今はミナ、ギナと共にL2で勉強しています。もちろんミナ、ギナも可愛がっています。シンにはやらんと決意しました。

今ミナ、ギナはヘリオポリスの救助に向かっているはずですが。L2からL3に向かうのは遠いけど、なんとか間に合うでしょう。

S I D E O U T

S I D E ミナ

まったく、アスハも無能だな、機密がバレた上救助も派遣出来ないとは。最近海賊が多いいからか？だがこの戦力なら大丈夫だろう。ソロモンの戦艦を二つもロイから借りたからな、戦闘艦は三隻だけだが、全く心配などしていない。プトレマイオスと言うらしいな、推進口が緑？…考えても無駄か。ついでにエース用のVF25のテストも頼まれた、最近VFに慣れすぎてMSが哀れに見えてきた、機動性の差が大き過ぎる。

「ミナ、海賊だ、15隻もある。タイプがバラバラなのに数が多すぎる、恐らくジャンク屋組合が裏にいる。」

「ギナ、本拠地は観測できるか？」

「目星はついてる、適当に尋問すればわかるだろう。」

「では敵戦力を壊滅させた後、本拠地を叩こう、帰るとき襲われるとまずい。砲撃タイプのDXと言うのがあつらしい、バッテリー問題で1回使うたびに長い充電が必要だが、ロイ曰くあれは艦隊殲滅用砲撃機らしい、大丈夫だろう。」

「たしかに。それで提案だが今回はトールラスの性能を確認したい、我々は本拠地攻撃の時にしよう。」

「それもいいか。」

トールラス、ロイが言うにはMDらしい、というかあいつの戦力は全部無人だ。試す必要はあるか。

「オペレーター、プトレマイオス1、2に通信をつなげ。」

「了解。」

通信はつないだが、やはりSOUND ONLYだった。

「こちらへバエル」だ、プトレマイオス1、2は攻撃を開始せよ、ただしDXは使うな、トールラスのみで戦え。」

「了解！」

さて、見せてもらおうか、悪魔の力を。

SIDE OUT

二つの戦艦からトールラス12機が発射された、4小隊に別れた後、敵に正面から突っ込んでいく。

そして始まるのは、一方的な殺戮だった。

トールラスのビームは正確にMS、MAのコックピットを貫き、パイロットは悲鳴を上げ

る暇もない、敵艦への射撃も正確だ、全部ブリッジ、エンジンもしくは弾薬庫に命中している。その正確無比な攻撃を減速することなく放ち続けている、黒い外見と相まって悪魔を連想させた。

S I D E ミナ

なんだこれは！圧倒的すぎる！これが我らの、ロイの力。

くくく、確かにこれは戦力の心配はいらん、それでも量産機なのだから。特機の威力はどれほどの物になるだろうか。

このままでは5分かからず文字通り全滅だぞ。

「しまった！プトレマイオス、捕虜を残せ！」

「了解！」

私としたことが。

「ふう、強すぎるのも問題だな」

「しかし我が弟もかわいい顔してエゲツないものを造るな。」

「ギナ、帰ったら真つ先にステラに会いに行こう、癒しが欲しい。」

「同感だな。」

本拠地はツインサテライトキャノンで隕石ごと消滅した、そのせいでVF25のテス

トが出来なかった。

戦争ってなんだろう。

S
I
D
E

O
U
T

アスハは嫌いです

C・E・71年3月

SIDE ロイ

サハクの影響が強い基地、ぶつちやけサハクの基地に視察に行った。で、なんか出撃命令が出た、オーブ領海付近でZ A F Tと連合の戦闘があるらしい。何故か私に命令が出た、一応五大氏族の一員として將軍の地位を貰ってるが軍事訓練を受けたことがない、嫌がらせか？まあいいや、内容は大体解っているし。

そういえばそろそろ、私、ミナとギナの専用機を造るか。

SIDE OUT

アークエンジェルがザラ隊の猛攻を受けて高度を維持できなくなっていた、そして唯一安全なオーブ領海に逃げた。

「まったく、なんで私が。」

「まあまあ、危険はないですし。」

ロイを宥めたのは、艦隊の副長だった。

「そもそも私は技術屋なんだけどなー」

「愚痴言つてないで、アークエンジェルが領海に入りました、どうします?」

「まず威嚇射撃と警告」

「了解」

オーブ戦艦から放たれた砲弾がアークエンジェルの回りで水しぶきを上げる。

「貴艦は我がオーブ領内に入った、直ちに退避するか、武装解除せよ。威嚇射撃は一回だけだ。」

「……返事が来ませんね」

「ナメてんのかあいつら、ん?」

通信が来た、スクリーンには金髪暴走娘が映っている。

「今からアークエンジェルはオーブ領内に入るが打つな! 私は、私はウズミ・ナラ・アスハのむs「撃て」「了解」」

話を待たずにアークエンジェルに砲弾が当たった。

「ちよ、ロイ様いいんですか。あれ、カガリ様じゃ…」

「この件は一応行政府に連絡しとけ、それと砲撃を止めるなよ。副長、常識的に考えて見ろ。オーブ代表の娘が連合の最新鋭軍艦に仲良く乗ってるわけ無いだろう。」

もちろんロイはあれが本物だって知っている。

「…そうですね、カガリ様ならそんな迂闊な事（外交問題になる事）はしないでしよう」
「だろ」

「本当にそうだとしたら、武装解除すればいいですし」

今そんな迂闊な事をやつてる奴が目の前にいるけど。

「降伏します、だから砲撃をやめて！」

艦長席に座つてる女性が叫んだ。

「エンジン止めたか？」

「いえ」

「なら続けろ」

「了解」

降伏するならエンジン止めるのは国際常識です。

「ロイ・サハク、直ちに攻撃を停止しろ！」

別にスクリーンにウズミが出た。

「攻撃を続けろ！で、ウズミ前代表、なぜですか？」

「情報によると、あれにはカガリが乗っているではないか、殺す気か！」

「あれは偽物と判断しました、本物がそんな所にいる理由がありません。それとも理由に心あたりがあるのですか？」

ウズミは冷や汗を流した、ここでゲリラに参加してたなどと口が裂けても言えない。連合、Z A F T、オーブの軍人が揃っているからだ。

「人質に取られた可能性もある。」

「なおさら妥協する訳がにはいきません。」

「…機密に関わる任務をやらせている。」

「国家元首の娘が機密任務をやってる訳無いでしょう。」

「それも機密だ」

ウズミは強引に押し通すつもりだ。

その時、理知的な女性が代わりに出てきた。

「こちらアークエンジェル、機関は止めた。武装解除する。」

「どうだ？」

「止まっています」

「チツ。副長、後を任せる、モルゲンレーテに運ばばいい。」

戦後処理が終わってから、ロイはウズミに応接室に呼ばれていた。中に入ると、ウズミ一人しか居なかった。

「何か御用でしょうか？」

皮肉たっぷりと言ってやった、今回の一件は外交問題になるかもしれない、娘のわがままを許したウズミに責任がある。

「アークエンジェルの乗組員と交渉する、お前も同席しろ。」

「分かりました」

ウズミと同じ部屋に居たくないが、アークエンジェルクルーとの話は有益だと判断したロイは了承した。

コンコン

「失礼します」

白い軍服姿の三人が入って来た。

「マリュー・ラミアス少佐であります」

「ムウ・ラ・フラガ少佐であります」

「ナタル・バジール中尉であります」

「ウズミ・ナラ・アスハだ」

「ロイ・サハク將軍だ」

「！その声、あなたが先程の指揮を取っておられたのですか？」

「ええ、そしてラミアス少佐、あなたは指揮官に向いてない、恐らく私と同じで技術屋で

しょう」

「ええ、仰る通りです」

「ならば中尉に変わるべきだ、投降の仕方さえ知らないんじゃないやあ、クルーの命に関わる」
「んんっ、話をすすめるぞ。オーブはアークエンジェルの修理と補給を提供する、その代わりそちらにいるキラ・ヤマトに研究の協力をして欲しい。」

「してその協力の内容は？機密に「OSだろ」」

「…そうだ」

ウズミは苦虫を噛み潰した様な顔をしている、モルゲンレーテのMS開発状況がすべてバレている、それも敵対企業ともなればそういう顔にもなる。

「協力して欲しいのはナチュラル用OSの開発だ、あとでエリカ・シモンズ博士に詳しいことを聞いてくれ」

「そんなもんC・Bではとっくに」

バンツ

「おいロイ、さっきのはどういう事だ！」

「だまれボケ、ノックぐらいしろ」

入って来たのは着替えたカガリだ、着替えても全然女らしくないが。

「カガリ！誰が入って来ていいいった！」

「うっ、も、申し訳有りません。それよりアークエンジェルクルー達はどうなるのかが気になって」

「技術協力してくれる代わりに修理と補給をする」

カガリはほっとした。

「ありえませぬね、全員不幸な事故にあってもらいます」

ビシイ

ロイ以外の全員が固まった。

「如何なる理由であれ、カガリがレジスタンスに参加した事はプラントに知られる訳にはいかない、オーブ市民は緘口令でいいが、連合の人を残す理由はない。」

連合の三人は見ていて可哀想に思えるくらい冷や汗ダラダラだ。

「却下だ!」

「外交問題になったらあんたが独自で責任を持つのか?それともカガリを切り捨てるのか?」

「…私が責任を取ろう」

「わかった、それならいい。忘れるな、あんたが独自で責任を持つんだ、国民に負担をかけるなよ」

「解っている」

「なら先に失礼する」

ロイはそう言って部屋から出て行った。
連合の三人はやつと一息ついた。

自重は断固拒否します

C. E. 71年6月

S I D E ロイ

パナマが落ちたか。これで連合はオーブのマストライバーを狙うだろう。フラッグとスイクンの生産は順調だ、サハクよりの基地に配備した。アストレイが完成したらしい、しかし陸でしか使えないMSはオーブでは意味が無い、オーブの国土が少ないからだ。

フラッグは可変空中用MSで、スイクンは楕円形の水中用MAだ。二つとも機動性を重点の置いた兵器で、操縦性、汎用性はかなり高く、コストは低い、その代わり防御力が低い。どうせお互いのビーム一撃撃破できるんだ、防御力より機動力を重視したほうが生存率が高い。

さて、また会議か。

S I D E O U T

オーブ行政府会議室で五大氏族からなる高官達が揃っていた。

「諸君、我がオーブは連合の圧力を受けている、狙いはマスドライバーだ、そして昨日、連合が交渉しにきた。其れについてどう対処すべきか、諸君の考えを聞きたい。」

ウズミが話を切り出した。

「断固拒否すべきです！」

「そうだ、そんな圧力に屈するオーブではない！」

「しかしそれでは連合は軍事行動を持ってマスドライバーを奪いに来るだろう」

「我がオーブの精銳が負けるはずがない！臆病者は黙っている！」

んな訳ないだろう。たとえサハクの軍を使って、ロイが指揮をとつても連合が本腰を入ればオーブに勝ち目は無い。

「(アストレイでどうやって連合に勝つんだよ？はあ) 私はこの機会に連合に恩を売るべきだと考えます」

「連合の圧力に屈するというのはのか！」

「いえ、貿易として物資を運びます、単なる貿易なら圧力に屈したわけではありません。さらにそれによってオーブに莫大な金が落ちます。使えるマスドライバーがこれ一つ。の今、有利な値段で請け負うことが出来ます。それでも問題があるなら、月都市を経由

すればいいかと」

「巫山戯るな、それでは圧力に負けたと思われるではないか！」

「無益な戦争よりはマシです」

「それでは我が国の理念に反する！」

「そうだ、子供は黙っている！」

会議は白熱化していき、約二時間で鎮まった。

「我がオーブは他国を侵略せず、他国の侵略を許さず、他国の争いに介入しない、連合にマストライバーを使わせることは理念に沿わない行動である。よって連合にマストライバーによる直接、間接の協力は一切許可しない。」

ウズミのこの言葉がオーブの運命を決めた。

SIDE ロイ

やはりこうなったか、しかし連合も思い切ったことをする。

オーブコロニーの農業コロニーで生み出される食料は莫大な量になる。それらはオーブで消費する以外に連合構成国家の難民への支援にも使われている。エイプリール・フルル・クライシスによつて連合構成国家は食糧危機に陥っている、難民達にとつて、オーブの食糧支援は唯一の救いだ。オーブを攻撃して、コロニーからの食糧輸送が止まれば、食糧価額がかなり上がる、それは現政権への不満に繋がり、戦争どころじゃ

なくなる。食べ物の恨みは怖い、それくらい連合とて承知のはずだ、よって連合は食料を得るためにコロニーにも攻撃を仕掛けるはず、準備を急がないとな。

家族全員は既にコロニーにいる、危険はない。しかし地上戦はどうしようかな。

機体性能はいい、兵員の質もいいが、問題はエースが居ないことだ。私の専用機は完成したが、私は指揮をとる必要がある、いや、指揮は姉さんに頼もう、そして私が出撃すればいい。そうと決まれば早速姉さんに連絡だ。

「あつ、姉さん、連合とオーブの戦争がほぼ決まった。私は出撃したいので姉さんに指揮をとって欲しい」

「それはいいが、何故お前が出る必要があるんだ？」

「エースが居ないんだよ、ウチ」

「なら私が出る、MS操縦は私の方が上だろ」

「そうだけど、私の専用機が完成したんだ。寝かせておくには勿体無いでしょ」

「ちよつと待て！お前の専用機だと、見せても大丈夫なのか？」

「どうせ今度宇宙で国土防衛軍（ソロモンの軍）の力を使うから、それくらい問題ない」

「そうか、分かった、私の専用機は後どれくらいで完成する？」

「残念ながら今回には間に合わないよ、宇宙戦までには完成させるから」

「分かった、できるだけ早く地球に降りる、それで私が指揮する兵力はどれくらいだ？」
「フラッグ150機とスイクン60機、あと戦車隊と歩兵隊が幾つか、オーブ北部の防衛担当だよ」

「十分だ、ではな、仕事しすぎるなよ」

「ありがと、姉さん。」

S I D E O U T

ロイ専用機

(ガンダム) アマツ

見た目はアストレイゴールドフレーム

武装：

マガノイクタチ：エネルギー吸収は出来ないが、代わりに刺されれば敵のシステムを乗っ取ることができる。なお、先端は変形が可能で、ビーム砲やビームソードとしても使用可能。

バスターライフル*2：ウイングゼロのバスターライフルの改良版、合わせて撃てば通常状態でサテライトキャノン*2の威力が出る。

ハイ・メガ・キャノン*2：頭部、胸部に各一つ。威力はコロニーレーザーの20%

らしい。

ビームソード*2：左右腰に各一つ。

機能：

変形機構：航空機に変形可能、その際全ての射撃兵器が使用可能。

ツインGNドライブ：小型化し内蔵した。

コスモエンジン：時粒子を取り込む無限機関、小型化し内蔵した。

IFS：頭脳で操縦出来ます。

重力制御システム：操縦時のGを無効化。

ゼロシステムVer. 5.0：頭脳チートには要らないが、疲れた時に使う。暴走し

なくした。

Iフィールド：ビームは怖くありません。

VPS装甲：実弾も怖くありません。

説明：

見た目超怖い、悪魔か吸血鬼に見える。

メインエンジンはツインGNドライブ、粒子だとばれるとまずいのでスラストに偽

装、緑色に燃える推進剤と言っている。コスモエンジンはトランザム使用後のツインG

Nドライブを補佐などのためにある。

島国の主力が陸戦兵器つてどうよ

C・E・71年6月15日

SIDE ロイ

ついに攻撃してきたか。こちらの準備は完了した。優秀な兵器とパイロット、さらに指揮官も熟成した戦術を取り込んだ、負ける要素は無い。しかし東は駄目だな、兵器の思想がオーブの地形に合っていない、そして指揮官がカガリつて、止める者がいなかったのか？これでは一日も持たないぞ、ウチの兵員の脱出の準備にもまだ時間がかかる。仕方が無い、私が後で加勢するか。

ピピッ

ん？こんな時にソロモンからの連絡？

ちっ！こんな時にZAFTだと！ギナに連絡する必要があるな。

「姉さん、緊急事態だ、ギナに連絡して」

「先程のPDAか？何があった？」

「ソロモンからの情報だ、コロニーにZAFTが向かっている」

「なに！オペレーター、直ぐに連絡だ。」

「了解！」

『どうした？』

「兄さん、プラント方面からZ A F Tが近づいてる」

『なに？そんな情報は無かったが？』

「恐らく一部の暴走だ。直ぐ探してくれ、それとプラントに確認を。」

『分かった、V Fで応戦する、戦闘経験は必要だ』

「まだダメだよ、V Fのパイロットは訓練がまだ足りない。ソロモンからゴーストを24機出す、V Fは出さない方がいい」

『そうか、パイロットは貴重だから仕方が無いか。それでそちらはどうなんだ？』

「そろそろ始まる、私もすぐに出る」

『気をつけろ、最近ステラが寂しがつてる、早く帰って遊んでやれ』

「多分明日には決着がつく、お迎えよろしく」

『既に発進した』

「分かった、じゃあね」

さて、P D Aでソロモンに指示をだしてつと。ちなみにP D Aはフォールド通信を使います。

「姉さん、では私は出ます」

「十分気をつけろ、機体スペックはエゲツないが戦場ではどんな事でも起こりうる」
「大丈夫ですよ」

S I D E O U T

専用格納庫に居る禍々しい機体、アマツ、パイプラインが次々と切り離されていく。ロイはIFS用パイロットスーツを着て、コクピットに入った。回りに人は居ない、アマツはサハクの最高機密だ。格納庫の上が開放され、発射準備が整った。

「戦闘はもう始まったか、準備も完了。」

ロイは深呼吸をした、彼にとってはコレは初陣だ。

「ロイ・サハク、アマツ、出るー」

機体が高速で発射され、色がメタルグレーから黒と金に変わった。ここに、悪魔が飛び立った。

オーブ北では激しい防衛戦が始まっている。オーブは陸が少ない、故にミナは連合に上陸させずに海で殲滅しようとする。フラッグとスイクンのコンボは確かな効果を出していた、連合艦隊はVTOLと少数のスカイグラスパーで迎撃するしか無い。しかし今回の攻撃を凌ぐためには東の増援に行かなければならない、陸戦兵器のアストレイでは上陸を阻止できないからだ。その為には速やかに北の敵を撃退しなければならない。

突撃すれば目的は達成できるが被害が多すぎる。

司令室ではミナが北と東、両方の戦局を見ていた。

「予想はしていたが、東がかなり押されている」

「しかし、北ではこちらが圧倒的有利です」

「一方面突破されればアウトだ、何故カガリなんぞに指揮をとらせている？ミスが多すぎる、どれだけの将兵が無駄死にしていると思っっているんだ。」

「キサカ准将が補佐に付いてると聞きますが」

「カガリの性格ではあまり聞かないだろうな、ロイの到着まで後どれくらいだ？」

「約三分です」

「一度ぶつけて直ぐ東に行く様伝えろ、カガリの指揮が予想以下だ」

「分かりました、しかしロイ様一人で足りませんか？」

「少なくとも時間は充分稼げるはずだ」

北部の海では空中戦が繰り広げられている。

「クルエ隊は後退し補給！オズマ隊に代われ！」

前線指揮官達は損害を抑えつつ速やかに撃破せよとの命令を受けている。結構矛盾しているが、サハクの軍では出来ないこともない。だが、やはりこのままでは時間がか

かりすぎる。最後のスカイグラスパーを撃墜した後、一機のMSが飛んで来る、識別信号によるとパイロットはロイ・サハク将軍だ。

「なんで将軍が前線に出ている!?!」

『こちらロイ・サハクだ、これから突っ込む、敵を掻き乱した処を一斉攻撃だ』

「ロイ様、MS使えたんですか?」

『ハイル一佐、時間が無い、部隊を少しだけ下げてくれ』

そう言うのと、アマツは敵艦隊に向かっていった。

「さて、驚くといい、早速フルバーストだ!」

アマツから赤、黄、緑の三色合計六つのビームが発射される。それらは駆逐艦と巡洋艦に命中し、轟沈させた。

「時間が無い、後一発」

そして、艦隊の真上へ飛び、バスターライフルをドッキング、下に向けてチャージ開始。連合はまだ混乱から開放されていないようだ。

「スイクン各機は激流に備えろ!」

バスターライフルを空母一隻に向かって発射する。

空母は貫通され爆発、残ったエネルギーで波が発生、駆逐艦、巡洋艦が幾つか転覆し

た。この隙を逃さずフラッグは攻撃を開始する、スイクンは体制を立て直すのに時間が少しかかる様だ。

「空母とMS輸送船を優先して攻撃しろ！」

海上ではダガーは使用できない、いいカモだ。この攻撃で連合艦隊は混乱し、殆どの未発進VTOLが海に落ちた。

「私はこれから東の援護に向かう、此処は任せた！」

返事も聞かずに、急いで飛び去った。

やつちやいました、そして第一歩への準備

東海岸では、連合の新型MS3機がフリーダムと戦っている。ジャスティスは居ない、キラ一人では3機を抑えられそうにない、周りへの被害は甚大だ。

S I D E ロイ

1対3、始まったばかりか。なんか此処でイベントあった気がするんだけど。ん？生体反応？ってアスカ一家じゃん！しかも山にいる!?助けるしか無いか、未来はともかく今はオーブの人間だ。

〈おい！その民間人、早く避難しろ！ここは最激戦区だぞ！〉

こっち見た、早く避難してほしいんだけど。げ！フリーダムがフルバースト体勢に入ったぞ、方向もバツチリだし！まあ、防ぐのには間に合うか。あれ、そうなると原作でのシンの敵討相手は間違ってたんだな。

「ぐっ！」

少し揺れたが、問題はないな、Iフィールドあつて良かった。しかし原作と違って直撃コースだったぞ、私が呼び止めたからか？

〈早く！〉

やっと反応した、そしてなんでフォビドウンがこっちに来るんだよ！しかもフレスベルグ使うのか！

「ちっ！」

防ぐしかねーな、後ろにはアスカ一家がいる。

だがこのままでは駄目だな、一気にフォビドウン倒すしか無い。仕方がない、此処では見せるつもりはなかったんだが。

「トランザム！」

S I D E O U T

金と黒の機体が赤く輝く。

その光にアスカ一家がまた立ち止まる、赤いビームがアマツに当たる前に霧散した。アマツはすぐにバスターライフルをドッキング、チャージなしでフォビドウンに向かって発射する。

ビームと見てシャニはエネルギー偏向装甲を前に出す。太いビームの先頭は装甲に当たって偏向せずに霧散した、だが次第に処理しきれ無くなってビームに包まれ、爆発した。

トランザムの時間が過ぎ、煙が晴れたあと、偏向装甲が潰れ放電しているフォビドウンがあった。

SIDE ロイ

「ふむ、チャージ無しではコレくらいか」

三機が撤退するか、指揮官は優秀だな。さてアスカ一家はどこ…

へはあ、お前ら足止めてどうする、今の内に早く避難しろ〜

アスカ一家が走り去っていった。あつマユちゃんがお辞儀してきた、いい子だなあ。最近ステラが色々分かってきたので私を弟と認識するようになった、性格も変わったし。いい事だけど甘えてくれなくなつてちよつと寂しいです。

『なんなんだ、君は?!』

フリーダムからの通信ね。

「オーブ北部防衛部隊のロイ・サハク將軍だ」

『え、味方』

「IFFを見ろ」

『あ』

「私はこれから東部の前線に行く、お前には主にあの三機の相手を頼みたい」

『え、あ、うん』

「感謝する」

敵はすでに上陸したか、早く行かないとな。

S I D E O U T

S I D E アズラエル

北部侵攻は無理でしたか、あつちはサハク軍を止めるだけで結構なので問題はありませんか。問題があるのは：

「サザーランド大佐、フォビドウンを倒したMSの情報は出ましたか？」

「僅かですが、金と黒のMSで砲撃タイプのです」

「映像はありませんか？」

「出します」

な、ビームが効かない、偏向じゃなくて霧散しただと！そして最後のビームの威力、MSにあれほどの威力を持たせることができるのか。

「あれを鹵獲出来ませんかね？」

「無理でしょう、今も前線で暴れますよ。機動力も侮れません、精鋭のMS隊の攻撃が全く当たらない。アストレイの派生型に見えますが、性能で言えばZ A F Tの新型なんて目じゃありませんね。パイロットがエース級だったら、艦隊を瞬殺出来ますよ」

「誰ですか、オーブはMSを実用化したばかりとか言ってたのは」

「サハクが開発した物でしょうね、あれは。北部戦線の被害は甚大ですよ」

「まあいいでしょう、オーブ行政政府を占拠すればこちらの勝ちなんですから」

S I D E O U T

夕方になり連合が撤退していく。オーブ東部はボロボロだ、北部はミサイル一発も当たってないが。連合が一度攻撃すれば東は突破されるだろう。

S I D E ロイ

やつと撤退したか、そろそろ休みみたい。しかし乱戦になると意外に戦いにくい、あれほどの数にもなると攻撃するチャンスも少なくなる。経験が少ないのが仇になった、今度からはきっちり訓練しよう。

「ん？あそこに居るのはフリーダムとジャステイス、仲直りのシーンか？」

どうでもいいや。

S I D E O U T

S I D E カガリ

全く世話のかかるヤツらだ。同じ敵が出来ないと仲直りも出来ないのか？（普通です）

『カガリさん！MSが一機通過します！』

マリューからの通信のすぐ後に突風が起こった。

「おい！なんだあれは!?!」

『IFFではロイ・サハク将軍の機体と出ています』

「あんな機体は知らないぞ、そいつを連れてこい！」

『無理よ、追いつける機体がないわ』

「カガリ、パイロットは茶髪の子供で、連合の新型機を倒したんだ、味方なのは間違いないと思う」

「そうなのか、戦争が終わったら問い詰めてやる！」

S I D E O U T

ロイは北部司令部に戻った。

「おかえり」

「ただいま姉さん。で、アスハの方どうなんですか？」

「マストライバーとモルゲンレーテに自爆装置を仕掛けたところだ」

「やつぱりか、HLVは準備できたよね」

「ああ」

「後詰めは私がやります、アマツは単体で大気圏離脱出来ますから」
「ゑ？」

「あれ？言つてなかったけ？一応無限機関二つ積んでるんだけど。」

「推進剤が足りないだろう」

「似たようなもの作成できるから大丈夫」

「…私の専用機も出来るんだろぅな？」

「もちろん」

「じゃあ、明日ウズミがマスドライバーとモルゲンレーテを爆破した後、全兵力を離脱させる」

「当然基地にも自爆装置つけたよね？」

「当たり前だ、もう此処には戻らないだろうからな」

「よし、今日は早く休むか、明日で終わりだろうし」

「そうだな、明日はお前が一番疲れるだろうからな」

「じゃ、お休み」

「お休み」

食べ物の恨みは怖い

C. E. 71年6月16日

SIDE ロイ

只今戦闘中です。

今日でオーブとお別れか、特に悲しいとかはないな。衛星軌道には迎の艦隊もついてるし、いつでも離脱できる。

えっ、オノゴロ放棄の通達？早過ぎるだろ！戦闘開始から1時間もたっていないぞ。もういいや、考えるだけ無駄だろう、それがアスハクオリティだ。敵の北部艦隊も撤退したか、東が突破されたから北を攻撃する必要もなくなるから妥当だな。しかし既に追撃する気も起きないほど壊滅してるぞ、どう考えても撤退が遅すぎだ、撤退許可が降りなかったのかな？可哀想に。予定どおり離脱するか、カガリより遅く離陸するのがポイントだ。

「我々も宇宙へ離脱する！後詰めは私がやる、お前達はミナ准将の支持に従って離脱しろー！」

『しかし！それでは将軍が！』

「問題無い、特殊な方法をとるので心配はいらん、それよりさっさと動け！」
『了解！将軍、ご武運を！』

単体離脱できると知ったらどういふ反応するんだろう、この人。

さて、少しの間の足止めだ。

S I D E O U T

アマツの動きは昨日と比べてかなりマシになった。さすがにまだ一人で連合を押し返すのはまだ無理だが、時間稼ぎには充分だ。ちなみに機体性能から見れば、押し返す事くらい出来る。大体30分ほど初心者無双したら、一際大きな爆発が二つ見えた、そしてサハクのHLVも発進を開始した。クサナギが見えなくなり、HLVも最後のを残すと、トランザムを起動した。ビームを一通りばらまいた後、最後のHLVの外壁に掴んで離脱する、当然軌道修正はしてある、余計な重量で軌道がずれたなんてアホなマネはしない。

S I D E ロイ

「やっと終わったか、戦闘は疲れる」

宇宙に離脱した後、我々はサハク宇宙軍の歓迎を受けていた、味方に喪失感とかはない、オーブは確実に取り戻せることが解っているからだ。サハク軍は強い、そして宇宙

軍は全てサハクが作った。アメノミハシラ、ソロモン、宣伝ではZ A F Tに劣らない力が有ると言っているが、実際はそれどころじゃない。

そういえば、カガリはL4のメンデルに向かったらしい、L2コロニーも一応はオーブ領土なんだけども、そこまでサハクが嫌いか。これはこれで好都合だけど。

「家につくまで休むか」

「ここまで働いたんだ、休んでもバチは当たらないだろう。」

S I D E O U T

ミナとロイはL2に帰った、サハクの本屋敷はコロニーにある。そこでロイは意外な情報を父から聞いた。

S I D E ロイ

「は？連合の此処への攻撃の中止？」

「うむ、食料の問題で連合市民を煽り過ぎた、政権に不安が発生しこのままでは戦争どころではなくなるそうだし」

「そんな、連合をギツタギタにして力を見せつける計画が…」

「このままでも充分いい条件で交渉できる、問題はないだろう」

「徹底的に絞りとりませよ、プラントは？」

「お前の部隊が瞬殺したあれか？Z A F Tから一部の暴走と言ってきた、そして無事の

艦艇を返せとも言われた。むかついたので食料輸出を止めてやった、数日で反応が出るだろう」

「Z A F Tも戦争のシロウトだな、N Jのせいで自国が食糧危機に陥るなんて」

「バカはどうでもいい、それより赤道連合とスカンジナビア王国が同盟を申し込んできたんだが」

「下手に同盟を結んで連合とZ A F Tの脅威になったら本末転倒ですよ」

「だが、中立国がこれ以上減るのもマズイ、少しは協力するべきだ」

「じゃあ、互いに協力はするけど同盟ではない、つてな感じで」

「それがいいだろうな、それで兵器技術の支援もしたいが、何かあげやすいもの有るか？」

「ヒルドルブ、スイクン、フラッグを幾つか提供し、それとストライクダガーの詳しい情報と作り方をあげる、これくらいでいいでしょう」

「妥当だな、処で私がスカンジナビア王と仲がいいのは知っているな」

「ん？知ってるけど、支援を増やせとか言うわけじゃないでしょ？」

「父さんは仕事に私情を持ち込まないタイプだ、仲がいいからって優遇しろとか言い出す人じゃない。」

「実はスカンジナビアの王女の一人をお前と結婚させようという話が出ている」

..... は？

「あ、ああ、結婚ですか。確かにお互いに利益は充分ですね」

「そうだ、今度の支援があれば国内の反対も消えるだろう。それで未婚で婚約者も居ない王女は3人いるんだが、だれが気に入ったか聞きたい」

「さすがにこれは会ってみないと。一人だけなら仕方ありませんが、3人居るなら気が合う相手がいいですね、これから共に歩んでいく相手ですから、バカは駄目ですし」

「そうか、まあそう重く考えることではない、今はまだ提案されただけだ」

「わかりました。そういうえばそろそろ貯めこんだベースマテリアルを売るべきですね、両方共とてもほしがると思いますから」

「わかった、ステラがそろそろ我慢出来なくなるだろう、会って来い」

「はいはい」

取り敢えず部屋に一度戻ろうと思ったらステラに捕まった。

「遅いよロイ〜」

「ごめん、ステラ、父さんとの話が長くなったから」

「ステラじゃなくて、姉さんと呼びなさい」

腰に手を当てて、怒ってます的なポーズは可愛いだけです。

「ごめん、今はちよつと無理」

どう見ても手間のかかる妹にしか見えない。

「う〜」

前かがみで上目使いで睨んでくる。なにこの可愛い生き物、逆らえる気がしないんだけど。

「え〜と、ね、姉さん？」

モジモジしながら頑張つて答えました、顔は赤いと思います。

「お持ち帰りいいいいいい」

部屋までお持ち帰りされました。なんでこんな性格に……可愛いからいいや。

みんな大變、今日この頃

S I D E 連合外交官

私は今オーブ外交官と停戦について交渉している。はつきり言つて今連合は殆ど機能していない、オーブが色々煽つたからだ。停戦はこちらから望んだから譲歩は止む終えないとは思っている。しかしコレは厳しすぎる、主に国家威嚴的に。

1. 地上の元オーブ領土の返還。
2. 賠償金の支払い。
3. サハクによるオーブ政権の了承。
4. 公開謝罪。

5. 戦争が終わるまでの保証金の支払い。

6. 鹵獲兵器の返還。

7. 徴収したオーブ財産の返還。

「こんなもん了承できるか、頭湧いてんのかてめえ！（意識）」

「うっさい、どうせ断れないんだ、さっさと了承してサインしろボケ！（意識）」

「てんめく、調子に乗つてつと艦隊派遣すんぞゴラア！（意識）」

「やってみろカス、オーブ宇宙軍なめんな！（意識）」

サハクが育てた軍は精強だ、オーブ開放（侵攻）作戦では北部の第三洋上艦隊は壊滅し、再編の基礎まで破壊された、第三洋上艦隊の残った僅かな艦船は別艦隊に編入され再建は無期延期だ。

「地球でサハクが一度負けたのをわすれたんか？（意識）」

「倒したのはアスハの軍だろうが、サハクは損害と言えるほどの打撃を受けてねえだろうが（意識）」

事実だけに反論出来ない。

「こつちも資源輸出止めたるか！（意識）」

「だったら食料とベースマテリアルもやらんぞ、Z A F Tは核エンジン使い放題だろうなく（意識）」

「ぐぐぐ…… もってけ泥棒！（意識）」

「かつかつか、貰つとくぞ負け犬（意識）」

これなんてイジメ？上のヤツらどこをどう失策したらこんな状況になるんだよ！連合って巨大国家の集まりじゃなかったっけ？

国に帰ったら休暇取ろう、十年くらい。

S I D E O U T

S I D E パトリック

むう、バカどもが暴走したせいで弁償せねばならないだと。しかも食料輸出まで止めおつて。アラスカの一件で余剰の金など無いぞ、どうする？この際ジンでもくれてやるか？いらんだらうな、私でもいらん。食料価額が上がった今増税なんぞ出来るわけ無い、延期を頼むしか無いか。

あとでユウキを呼んで、あの指揮官の財産を没収するか。それとサハクを敵にまわすのは厳禁だと通達しておこう。どこの超人一家だ、あれは。コトー・サハクは優秀な政治家であり経営者、双子は両方共優れたパイロットと指揮官、ロイ・サハクに至つては三歳で論文を発表だと、しかもナチュラルでだ。最近もう一大家族が増えたようだが、どうせそいつも天才なんだらう。特にロイ・サハク、やつを見てるとコーディネーターとしてのプライドがズバズバだ。鬱になってきた、考えるのはやめるとしよう。

S I D E O U T

S I D E アズラエル

連合もよくあんな条件を認めましたね。しかし、なぜ戦いに勝つたのに負け犬の気分になるんですかね。軍もL2を制圧できるとか言つたのに、サハク地上軍の実力を見ると途端に弱腰になったし。しかもC・Bの兵器が手に入らなくなりました。特にヒ

ルドルブ、今でこそ分かりますが、低いコストであの整備性と多用性はありえないでしょ。ヒルドルブの抜け穴をストライクダガーに補充させたらえらい損失が生まれました。幸いZ A F Tもバカをやらかしたのでお互いC・Bの兵器が手に入らなくなりました、あつちが一方的に買い占めればせっかく取り戻したビクトリアのマスドライバーも危ない。しかしZ A F Tと違ってこちらは侵攻したんです、どうすれば機嫌を直してくれるんですかね。

丁度いいものが三つありましたね。私に取っては忌々しいものですがプレゼントとしては充分でしょ。

S I D E O U T

S I D E スカンジナビア王

オーブ、いやサハクからの支援が届いた時は不覚にも叫んでしまった。自分で言うのもなんだが仕方が無いと思う。ヒルドルブは以前から販売されていて、我が国も買っている、今度はI5機も送ってくれた、それはまだいい。しかし、この前大活躍したフラッグ、スイクンまでプレゼントするとは誰が予想できよう。たしか連合と戦って殆ど損害を出さなかつた機体だ、思いつき最新鋭機じゃないのか？しかも、更になだ、連合の主力機ストライクダガーの詳しい情報、製造法、改良法まである。連合はあれを造るために総力を上げたんだぞ、こんな風にプレゼントするもんじゃないだろう。コトーの奴め

これでは好意的に成らざるおえないではないか。これらがあれば、連合からの圧力はかなりましになる。結婚の一件、後で議事に提案しよう、これで反論できる奴は居ないだろう。

S I D E O U T

S I D E エターナル

「ラクス様、サハクが赤道連合とスカンジナビア王国にMSと製造技術を輸出したようです」

「そうですか、彼らはまだ戦火を拡大したいのですか？」

「かもしれない、最近この二カ国と連合との関係が悪化してるとの情報があります」

「いずれ叩かねばなりません、今は連合とプラントの戦争を終結させることが先です」「わかりました」

「人と人は分かり合えます、戦争は悲しみの連鎖を生み出すだけ、断固阻止しなければなりません」

S I D E O U T

今のうちに戦力増強

S I D E ロイ

最近、どこもウチのご機嫌取りに頑張っています。Z A F Tは核エンジン送ってきやがった、さすがにコアはブラックボックスにしてるけど。連合は条約以外で、ソキウスを3人プレゼントしてきた、ギナに任せた、いい兄貴分に成ると思う。赤道連合は感謝の印として父さんの銅像を送ってきた、理解できん。あと婚約者が決まりました、スカンジナビア王国第三王女のマリア・スカンジナビア（8歳）です、外見はF Eのマリア王女で、優しくて聡明で可愛い娘です。通信で何度か話したら気が合いました。式を挙げるのはまだまだ先だけど、これで独立した後地上でしか手に入らない資源の心配もありません。それと何故か他の王女は全員ツンデレでした、どうでもいいけど。

現在ソロモンに居ます、そろそろ兄さんと姉さんの誕生日です。悪乗りで幾つか兵器でもプレゼントしようと思います。カメラも準備せねば、姉さんの驚く顔を記録しないと。

S I D E O U T

S I D E ミナ

久しぶりに誕生日を祝ってもらった。前は忙しくてそれ処ではなかったからな。私
が家族全員と笑いながら誕生を祝うとは、丸くなったものだ。宴会後ロイがプレゼント
を渡すので移動してくれと言った。嫌な予感がしたが、何時もより浮かれてたので気に
しなかった。どうやらプレゼントはロイが一人で準備したものらしい。軽い演出でも
見せてくれるのかなと思つた私は悪く無いと思う、忘れがちになるがロイはまだ11歳
だ。しかし車は港に向かつていく、私はやつと疑問を持ち始めた、もう遅いが。第12
倉庫の前で鍵を渡された、私が開けるらしい。ギナも鍵を渡された、隣の第13倉庫に
もう一つ有るらしい。なんとなく開けたくなかつたが、ステラのキラキラした目に選択
肢などない事が分かつた。

開けた、怪獣がいた。

いや、よく見ると戦艦だ。しばらく呆然としていたが、フラッシュ音で我に返つた。
ステラがはしゃいでる。ヨカッタネ。

なんかロイが勝手に説明し始めた。ラー・カイラム、全長487m、全幅165m、連
装メガ粒子砲4機、艦首ミサイルランチャー6機、対空機銃銃座22機、大型ハイパー
ジャマー。高い砲撃能力、高いMS運用能力、高い防空能力、高い機動性、高い隠密性。
え？装甲はガンダニューム合金にビームコーティングした物を使つてゐるって？すごい

ねー……………どうやって沈めるんだよ!!! 鹵獲でもされたら大変だぞ! 遠隔操作自爆装置ですか? さすがですね。もう機動要塞と名付けようかいっそ。

S I D E O U T

S I D E ギナ

素晴らしい性能だ、間違いない。我が軍の旗艦になるだろう。それとミナの驚いた顔は新鮮だ、ロイが写真取ったか、あとでコピートを貰おう。

次は私の番だな、私は常識などには囚われないぞ、どんな物でも対応してみせる。

こっこれは! 200m以上の大砲だと! 男のロマンではないか!

なになに、有効射程距離が500km、最大射程距離2500kmとは鬼畜すぎる。敵射程外から一方的に致命打を与えられる。

ふむ、ヨルムンガンドと言うのか、我らの専用機も完成したらしい、ソキウスも優秀、これでコロニーの防衛は完璧だな。

あ、ミナがまた遠い目してるぞ。ステラは叫び過ぎて水分補給してる。父がケータイでゲームしてる、現実逃避はよくないぞ。

S I D E O U T

ウイングガンダムゼロ

パイロット：ロンド・ミナ・サハク

ガンダムWのウイングゼロをベースに全体的に性能をアップさせた。
胸部ハイ・メガ・キャノンを追加。

ゼロシステムはVer. 5.0に変更。

エンジンはツインGNドライブを内蔵（偽装済み）。

小型重力制御システム搭載（パイロット用）。

ビームコーティング追加。

後方指揮が多いミナは砲撃タイプにしました。

ガンダムエピオン

パイロット：ロンド・ギナ・サハク

ガンダムWのエピオンをベースに全体的に性能をアップさせた。

ゼロシステムはVer. 5.0に変更。

エンジンはツインGNドライブを内蔵（偽装済み）。

小型重力制御システム搭載（パイロット用）。

ビームコーティング追加。

アーム内蔵ビームライフル*2追加。

前線指揮が多いギナは近距離タイプにしました。射撃兵器が皆無なのはマズイと思つてビームライフルを追加。

悪いことは何時も同時に起こる

C. E. 71年8月

SIDE ロイ

フツフツ、やつと合法的に政権が手に入ったぞ、苦勞したよホント。これで大々的に国を改造出来る。

まずは政治改革だな。氏族制度を廃止し三権分立にする。氏族の反発を抑えるため上院議員にする。チート知識から100年位未来の法律を引っ張り出し、少量の必要の改修の後、布告する。サハクを支持する政治家に進んだ政治関連の論文を読ませる。あれ、もうやること無くなったぞ。

全コロニーに核融合発電機（NJは効かない）を搭載。ついでに極秘にGNエンジンも着けとく、GNエンジンなら緊急時に必要最低限の電気を供給できる。治安維持のためナイトメアを開発、いざという時は対テロ用にも使える。困ればナイトメアで一般MSは撃破出来る。コロニーでS. I. E社を分解する、独立した後でも競争を維持するためだ。

地上オーブの政治はセイラン家に任せとく、残ったフラッグとスイクンをあげたか

ら、治安維持に問題はないだろう。結局自爆したのは五大氏族の中でも三家だけ、しかもアスハ家には後継者が居る。トキノ家とキオウ家の財産で経済の立て直しとモルゲンレーテの再建をする。宇宙から物資を運び復興はすべてサハクが主導する。サハク軍の軍人にコロニー移住をすすめる。

サハクの善政を宣伝すると共にアスハがやったバカを広める。実際、オーブの復興は始まつてるのにカガリは未だ行方不明だ。あえて地上の政治制度は変えない、これでサハクを支持する者はコロニーに来る。そして改革に反対する者を地上に送ればいい。

未だマリアと直接あったことはない、だからと言って問題が有る訳でもないが。8歳と11歳なら今後次第で婚約解消も充分にありえる。

ソロモンで精鋭部隊を作る。一応二つ作った、ダブルオー小隊(00、ケルディム、アリオス、セラヴィー)とウイング小隊(デスサイズヘル、ヘビーアームズ改、サンドロツク改、アルトロン)で全部MDだ。後メリクリウスとヴァイエイトを私の専用支援機にした。

今はこんな感じでいいか。この戦争には成るべく介入しない、目的は独立だ。ジエネシスだけは注意する必要があるか。

S I D E O U T

SIDE クルーゼ

オーブが復興を開始？ばかな！サハクの軍勢力を以てすれば充分第三勢力に成り得たはずだ。連合も食糧問題如きで怖気づいてどうする。この戦いでオーブを戦争に巻き込み、最終的にジエネシスで始末するはずだったのに、まさか第一歩で躓くとは。マズイ、これではL2に1億7000万もの人間が生き残ってしまい、私の悲願が叶わない。パトリックもサハクの一件には遠い目をするだけだ、サハク首長はナチュラルなんだぞ、何故攻撃しようとしない!?

「変な顔してどうしたんだ、ラウ？」

「ギル、オーブを戦争に巻き込む方法はないか？」

「私はこれでも穏健派を自称してるんだけどね。まあいい、答えはNOだ」

「くつ、やはりか」

「経済、政治、軍事、あらゆる面で彼らが戦争をする必要が無い。ウチの閣下はあんな状態だし、連合は食料問題が解決するまで頭が上がらないだろうし、どちらもちよつかいは出さないだろう」

「こうなれば私がジエネシスで撃つしかないか？」

「処でラウ、君はアラスカで捕虜を捉えたらしいね」

「む、それがどうした？」

「しかも艦内で給仕をさせているとか」

「だからそれがどうした」

「ネットで話題になっててね、ああもちろん機密に関わる情報は出まわっていないよ。だが軍で捕虜の扱いがなくなってないの一部で言われている」

「それくらい問題ないだろう」

「ここまではね。しかし君が色香に惑わされたと言っている人もいる」

「……」

「さらに未成年者保護委員会は訴訟を起こしたとか」

「ちよつと待て！初耳だぞそれは」

「今朝、郵便を確認したかい？」

最近家に帰ってない。

フレイは確かに役目が有るので手元に置いてあるが手は出していないぞ。

「誤解だ、手は出していない！」

「落ち着け、慌てると余計怪しい。ほらピアノの練習中のレイも変な目でみているよ」

「大体あの女はナチュラルだろう、なぜ保護する必要がある」

「噂では可憐で健気な娘じゃないか、それがあの婆さん達の心を刺激してね。それに老

人達は第一世代か第二世代のコーディネーターが多い、親か祖父、祖母がナチュナルで悪感情も少ない」

「あいつより若い兵もいるだろ、仕事させて何が悪い」

「捕虜なのがダメらしい、何時襲われるか分からない環境に居させるべきではないというのが主の理由だ」

「私がああ婆さん達の相手をするのか……」

あのパバアどもが！これでも戦争の英雄なんだぞ！

「実際は軍も黙認している、君のいつもの独断に対する嫌がらせだろうね。一応裁判は戦後になっているが、まあ頑張りたまえ」

まじかよ

S I D E O U T

何と言うグダグダ

C・E・71年9月27日

SIDE ロイ

連合とZ A F Tを虐めるのが楽しすぎて決戦に間に合わなくなる所だった。只今日の前でジェネシスの第二射が発射されました。エルビス作戦の第二陣とプトレマイオス基地が消滅しましたか。このまま原作どおり行くんなら問題はないが、万が一第三射がワシントンD・C・に直撃したら人類滅亡のお知らせだ、というかパトリックは何考えてんだらうね。という訳でサハク最強部隊引き連れてきました。ラー・カイラム、ダブルオー小隊（黒いプトレマイオス艦）、ウイング小隊（赤いプトレマイオス艦）、そしてラー・カイラムにヨルムンガンド、ウチの専用機三つ積んできた。ラー・カイラムは姉さんへのプレゼントなのでサハク軍で使われています、この前スペック表を見た技術主任が白い泡吹いて倒れました、そして今回の初出撃で様々な機能を使ってみたオペレーターや艦長が引きつってます。装甲以外が全部ブラックボックス化したので技術漏洩の問題はないが修理はソロモンでしか出来なくなりました、多分修理なんて必要ないけど。ちなみに今はハイパージャマーを使ってヤキン・ドゥーエの近くで隠れていま

す。

「ロイ様、ヨルムンガンドの準備が完了しました。目標はジェネシスの一次反射ミラーです」

「結構です、ジェネシスの照準はワシントンD・C.ですか？」

「未だ方向転換中で断定はできませんが違うと思われます」

「ん？何故ですか？」

「転換方向が月から地球への方向の逆だからです」

「……いい根性してますね、パトリック・ザラ。狙いはL2ですか」

「恐らくは」

「虐めすぎたかもしれませんね……艦長、打って出ます。方向転換が終わったら、全MSを出撃、ジェネシスを破壊します」

「分かりました」

「あと格納庫の姉さんと兄さんにも連絡を」

「了解」

パトリック・ザラ、誰に喧嘩売ったかを教えてやる。

S I D E O U T

S I D E ミナ

「これが我らのMSか……」

「なあ、ギナ」

「……ああ」

「何故そんなにやる気がないのだ？」

「お前も同じであろう」

「そうだな」

「いい機体……だな」

「ああ……ロイが頑張ったそうだ」

「ジェネシスの発射方向がL2に向かってるそうだ」

「へー」

「我らも参戦するそうだ」

「ほー」

「陽電子砲さえ防ぐらしい」

「ふーん」

「大丈夫か、ミナ」

「駄目かもしれない」

「そうか」

「いい機体…だな」

「ああ」

疲れた。

SIDE OUT

ジェネシスの転換中に、連合艦隊から残ったピースメーカー隊が出撃し、アツサリ撃破された。そのまま戦線は膠着しついに転換終了、目標はやはりL2だった。

SIDE ROI

「ジェネシスの発射シークエンスが開始すれば直ぐに打て！」

『了解、しかし間に合いますか？』

「2000km/sもあるんだ、あれの発射は少なくとも三秒はかかる、一次ミラーで反射する前に潰せる」

『了解しました』

さて、ここからが問題だ。ZAF、いやプラントが宣戦布告無しで打つのなら我々もプラントに宣戦布告し、連合と共にプラントの自治能力がなくなるまで攻撃する。国際常識も分からない人間に国を任せた民衆にも責任はある。宣戦布告したのなら、パトリック個人の責任でいいだろう。

ん？ 広域通信、それもヤキンからか。

ネシスが起動してから強気になったのかしら？ 連合の艦隊は既に壊滅している、このまま行けばプラントの勝ちなのに、サハクに喧嘩売ってどうするのよ。

先程もなんか紫のMSがヤキンに侵入したわ、あれは元ZAFITのジャステイスね、大丈夫かしら？

あら、ヤキンとジエネシスが同時に爆発したわ。しかもジエネシスは普通に外部から破壊されてる、陽電子砲も防げるんじゃないの？ 今更ね、サハクの規格外は今に始まったことじゃないしね。でもこの戦闘はどうなるのかしら、サハクの独り勝ち？

え、停戦命令が来たの？ 連合も了承、サハクも了承か。これで戦争が終わるかしら？

S I D E O U T

あれ（ZAF T技術）はいいものだ

C. E. 72年3月10日

S I D E ロイ

連合とプラントの停戦から色々ありました。南アフリカ独立戦争や停戦条約の交渉などなど。特に交渉で連合とプラントは互いに譲らず、スカンジナビア王国のリンデマン外相が介入するまで進まなかった。最終的に連合とプラントは史実通りのユニウス条約を締結する。そしてオーブ（サハク）とプラントの停戦は、プラント側が賠償するというところで落ち着いた。プラントに捻出出来る金が無いので賠償は技術の提供という形になった。遠慮無く量子通信、N J C、V P S、フリーダム、ジャステイス、エターナル、ミーティア、グングニール、デュートリオンシステム等の技術、設計図を要求した。もう技術機密まるごと寄越せつて感じだった。交渉時には荒れたが最終的に全部認められた。

今、私はラー・カイラムで条約の締結の為にユニウスセブンに来ている。目の前のアガムムノン級でカナバ議長とアーヴィング大統領が締結中だ、それが終われば護衛のステラと共にZAF Tのナスカ級でもう一つの条約を締結する。

流石というべきか、ステラの戦士としての才能は凄まじい。エクステンデッドはブルーテッドマンと違って精神操作を中心に改造された者で肉体改造は少ない。つまり原作で連合トップエースのステラは十分な訓練をすれば精神操作無しでもトップエースに成れる、今や体術とM S操縦ではミナとギナを越えている。仕事を探してたらステラの希望もあつて私の護衛に成りました。M S操縦ではオールラウンダーでどんな専用機にするか困っています。

そしてカガリが地上オーブに帰りました、保守派と一部オーブ民衆には歓迎されたらしい。やはりアスハのネームバリューは伊達じゃない。まあ、災害が起きたら対策会議をする前に現地に飛び込むような奴だ、民衆にとつては身近に感じるんだろう。セイラン家と共に地上の復興に勤しんでほしい。アスハの政治が嫌な者は既にコロニーに來ている。残ったのは保守派政治家とまだアスハを信じる人、どうでもいい人達だ。保守派の強烈な後押しもあつてカガリが代表になった。おかげで毎日が五月蠅い、通信で「こつちの言う事聞け！」とか「コロニーを返せ！」とか「返さないと撃つぞ！」とかよく喚く。無視してたら本気で攻撃準備を始めた、だが打ち上げる戦力はイズモ級三隻だけ。三隻同盟も合流するかもしれないが、それで勝てると思うのがカガリの凄さだろう。

コロニーの準備はできた、手に入れた金でV F 17を大量配備。アメノミハシラとソ

ロモンを中心にした防衛網を構築し、ヨルムンガンドを四つ追加、重力センサーを配備した。防衛は完璧だ。

「ロイ、そろそろ時間だよ」

「解った、着いたら喋り方を気を付けてね」

「了々解」

行くか。

そうそう、クルーゼはジェネシスが瞬殺されたのを見て固まった処をキラに撃たれた。クルーゼってこんなキャラだっけ？

S I D E O U T

S I D E デュランダル

私はカナバ議長の付き添いで締結現場にいる。もうすぐオーブ側の二人も来るだろう。サハクがオーブの権限を手に入れて以来、オーブの発展は凄まじい。特に法整備と政治革命では我らが考えもつかない物を出してくる、しかも考えれば考える程その緻密さと先見性を思い知らされる。サハクの技術開発能力が高いのは周知の事だ、今回の一件でサハクが稀代の統治者と言うことが分かった。もつと早く気付くべきだった、サハク系企業は以前から斬新な管理制度を実施しており、常に高い効率を維持してきた。サハクの爆進はロイ・サハクが二歳の頃から始まった。大学を卒業したロイ・サハクが

仕事を開始しサハク家を発展させた。こう考えるとつじつまが合う、少なくともなんの関わりも無いという事は無い筈だ。

「デュランダル、時間だ、ボーっとするな。」

「問題ありません、議長」

入って来たのは中性的な顔をした少年と金髪の少女だ。

少年の目を見た瞬間全身に寒気がした。何も読み取れない深すぎる目、そして自分の全てが見透かされた様な気分になる。そして私は確信した、こいつが今のサハクを作り、連合とZ A F Tから搾り取り、クルーゼの計画を始まる前に壊した者だ。

「ようこそへハーシエルへ、私がアイリオン・カーバだ。後ろはギルバート・デュランダル議員」

「外交官のロイ・サハクと護衛にステラ・R・サハクだ」

全く物怖じない、私より手馴れてるんじゃないか？

「まず、こちらの一方的な宣戦にも関わらず停戦に応じてくれたことを感謝します」

「いえ、我らも無駄な争いは好みません。あれはパトリック・ザラ個人の暴走でしょう」

「そう言ってくれると助かる、では条約を」

「ええ」

一つ一つの動きが堂に入ってる、もう驚かないよ。

「これで戦争が終わった」

「そうですね。では、我々はこれで」

「待つてください！」

「なにか？」

声が大きすぎます議長、そしてあつさり過ぎるよロイ君。

「サハク、いえ貴方は何がしたいのですか？ 私にはサハクの目的が見えない」

確かに金や権力が欲しいだけの人には見えない。

「人類の融和と革新です」

「ー」

余りのスケールの大きさに固まってしまった。人類の融和と革新、彼は人類の未来を創るとでも言うのか!?

「では」

二人が出て行った後もしばらく動けなかった。とんでも無い奴だ、敵に回したくないな。

S I D E O U T

情報をなめるな

C・E・72年4月

SIDE ROY

地上オーブの艦隊が向かってきました、ソロモンに。なんで一番勝てない方に行くんだろう？あれか？「しようすうせいえいによるじゆうようきよてんのとつば」ってか？ゲームでは良くあるが、現実じゃ重要な場所にはより多い戦力が集まる。陽動も無いのに玉砕するつもりか？多分「キラなら大丈夫！」とか考えてるんだろうな。

一番ありえないソロモンを選んだことで。準備した戦力を移すのが大変だった、間に合わせたけど。敵戦力はイズモ級三隻と三隻同盟、改造フラッグ30機、M1アストレイ22機、フリーダム、バスター、ストライクルージュ。要注意戦力はフリーダム。こちらはダブルオー小隊、ウイング小隊、ラー・カイラム、ヨルムンガンド五つ。MS3機、MD10機、ソキウスのVF25が3機。要注意戦力は全部。やりすぎた。

SIDE OUT

今回カガリは参加していない。一応地上オーブでは代表に認められてる、軽々しく出てはならないという意見を抑えられず、出撃出来なかった。指揮はクサナギのキサカ准

将が取ることになっている。彼は戦争を止めたこの戦力と改造した元サハクの戦力を合わせればコロニーを取り戻せると考えている。

「もうすぐだ！観測班、周囲の警戒を怠るな！」

「緊張し過ぎじゃないですか？まだ2000km以上ありますよ」

副官が聞く。

「お前はサハクの異様さを知らない、奴らにはいくら警戒しても足りないくらいだ」

「！前方に高熱h」

オペレーターが話し終える前にプラズマがクサナギの横を通り過ぎた。

「敵の攻撃だ、全艦回避行動をとれ！」

観測結果を聞く前にキサカは命令を出した。性能差もあつて、戦艦は反応できたが、輸送艦は幾つか大破した。攻撃は連続で来ている。

「くっ、これをかいくぐって行かなければならないのか!？」

五つのヨルムンガンドの連続攻撃によつて地上オーブ艦隊は踊っていた。陣形などとつくに崩れた。見えない敵からの奇襲にこれ程早く反応できたのはキサカが優秀だからだろう。しかし、近づけば近づく程に威力がまし、避けにくくなるプラズマ弾は地上オーブ艦隊に大きな消耗とストレスを与えた。それに対し、キサカは有効な手を打つことが出来なかった。

「全速前進、MS戦になれば支援砲撃も撃てなくなつてこちらが有利になる！」

決死の突破を経て地上オーブ艦隊はサハク艦隊に近づいた。彼らはキラのフリーダム、そしてアスランが乗るストライクルージュに期待する。他にもバルトフェルド、ディアツカとパイロットは豪華だ、MSは殆どアストレイだけだ。

サハク艦隊ではロイが指示を出している。

「陣形は必要ない。ダブルオー小隊は艦の防衛と支援攻撃。ヨルムンガンドは安全空域まで後退。ウイング小隊は後方の支援艦を攻撃。ギナチームとミナが正面から攻撃。フリーダムとストライクルージュは私が抑える。何か質問は？」

サハクの隔絶した諜報能力は正確に敵戦力情報を手に入れている。

「ない」「ない…が」

ギナが直ぐに答えたが、ミナは何か言いにくそうにしている。

「なに？」

「ロイ、お前無茶はしてないだろうな。相手は最強と呼ばれるフリーダムだぞ」

「大丈夫だよ。ちゃんと練習し、実戦にも参加した。撃墜はともかく抑えるくらいなら

問題ないよ」

「そうか、ならいい」

「敵もそろそろ出てくる、出撃だ！」

両方ともほぼ同時にMSを発射した。しばらく交戦したら自然に三つの集団に分かれた。

地上オーブ艦隊の後部では支援艦が次々に沈まれていく。

「おいおい、赤服どころじゃねーぞ」

ディアツカと改造フラッグで応戦しているが、歯が立たない。元々砲撃型のバスターとウイング小隊は相性が悪い。性能差、技量差もあつて決死の攻撃も意味を成さない。「だが任されたんじゃあ、やるしかないってね」

今日もディアツカは頑張っている。

地上オーブ艦隊の戦艦郡の状況は悪い。すでにイズモ級一隻が沈んでいる。敵はトップエース五人が乗るチートMS2機とエース用のVF3機、味方はアストレイのみ。戦艦の援護があつてもどうにもならない。そもそも宇宙用アストレイの性能は改造フラッグより低い、コスト減少のため共通部品を増やした結果、完全な宇宙専用機ではなくなり、高い陸戦能力を持つ宇宙用MSが完成してしまった。

「ふはははは！脆い、脆すぎる！」

ギナは若干ハイになつてようだ。圧倒的機動性でアストレイを次々に切り裂いて

行く。

「未来が見える、これがゼロシステムか」

ミナは攻撃を軽やかに回避し、バスターライフルで攻撃する。濃密な弾幕はかすりもしない。

「全てはロイ様のために！」

ソキウスはナチュラルのために戦う。本来コーディネーターのギナの指揮下に入ることはない。しかし、サハク家当主と次代当主が優秀なナチュナルである事がわかると問題が無くなった。特に他のコーディネーターさえ寄せ付けない知能を持つロイに心酔した。彼らは最強のナチュナルの為に戦えることに感動し、正当な評価を得られることに更に喜んだ。

経済という物は意外とデリケート

一方ロイとキラはTHE激闘！と言った感じの戦闘を繰り広げていた。お互い中、遠距離用の機体なのであれこれ撃ちまくっている。そのため二機の間では赤、黄、緑の光線が忙しく飛んでいる。キラは焦っている、アスランか苦戦しているからだ。ヴァイエイトとメリクリウスは確実にアスランを追い詰めている、アスランの乗るストライクルージュは既に両足が無い、撃破されるのも時間の問題と考えている。しかしロイは此処でキラ達を殺すつもりはない。そもそも三隻同盟の戦力はロイにとつて脅威にならない、そして三隻同盟が連合やZ A F T相手に暴れてくれれば両方を弱体化できる。それに三隻同盟の思想は幼稚だ、ただひたすら戦争の根源だと思われるものを排除する、それ故に操りやすい。総合的に考えてロイは敵の重要人物は殺さないよう注意している。

『何故こんな事をする?!』

いきなりフリーダムがアマツに通信した。

「そちらが攻撃して来たんだろうが、テロリストが!」

ロイがマガノイクタチでビームを放つ。

『君はオーブを守つてた筈だ！何故カガリに楯突く！』

フリーダムが回避しながらビームライフルを撃つ。

「コトロー・サハクがオーブ代表でカガリ・ユラ・アスハがその地位を篡奪しようとするからだ！」

ビームがフィールドに散らされ、バスターライフルとハイ・メガ・キャノンチャージ開始。

『そんな物、認められるわけ無いだろう！』

フリーダムのクスイファイアス・レール砲とアマツのバスターライフルが同時発射。

「全世界が既に認めている、認めないのは小さな島に居る一握りの人だけだ！」

ビームが弾丸を蒸発させレール砲に当たる。ハイ・メガ・キャノン発射。

『カガリはオーブの為にあんなに頑張つたのに、何故それを理解しようとしない!?!』

ハイ・メガ・キャノンがバラエーナ・プラズマ収束ビーム砲に命中。二つの爆発が同時発生。

「オーブは遊び場や実験場じゃない！結果を出せない者が代表でいい筈がない！」

フリーダムがビームライフル連射。

『ぐっ！なら、君達が手伝えばいいだけだろう！』

回避。アマツが突進し蹴飛ばす。

「それこそカガリを上置いておく必要が無い」

『オーブはカガリの物だ!』

「違うな、オーブ国民の物だ!ウズミ・ナラ・アスハの様に、また国を私物化する気か!」
地上オーブ艦隊で爆発が起きた。クサナギが轟沈。

『うわあああああ!』

フリーダムが動きが突然変わる。

「(種割れか?しかし、だからこそ)読みやすいんだよ!」

ロイにとって最善の選択をするフリーダムは逆に相手しやすい。

「落ちろ!」

アマツはフリーダムにとって最善の移動方向に全武装を撃つ。ビームは吸い込まれるようにフリーダムの胴体以外の各部分に当たり、一際大きな爆発が起こる。爆発の中からコクピット+スラスターが突撃してくるが、ロイは予定通りアークエンジェルの方へ蹴飛ばした。なお、ストライクルージュはコクピットだけになってエターナルへ投げ飛ばされていた。

地上オーブの艦隊は既に4隻しか残っていなかった。キラとフリーダムに一縷の望

みを賭けたクルー達だったが、そのキラが撃退された今、慌てて逃げるしか無かった。残った二隻のクサナギを殿に、アークエンジェルとエターナルが逃走する。ロイは驚いた、一つはこんな作戦を取れるアークエンジェルとエターナルのクルー達に、特にアークエンジェル艦長の甘さは有名だ。もう一つは残るクサナギクルー達、アークエンジェルとエターナルはオーブ軍でもないのに彼らを守るために残れることに驚いた。

ロイの命令で追撃はなかった。アークエンジェルとエターナルはぼろぼろで敗走する。クサナギ二隻は交渉のため鹵獲された。地上オーブ艦隊のMSは全滅、生き残りのパイロットはキラ、アスランとデИАツカのみ。

ロイはラー・カイラムに戦闘映像を整理して自分の所まで送るよう命じた。この映像の価値は高い。もともと連合艦隊を撃破してサハクの力を示すつもりだった。連合の攻撃は不発だったが代わりに三隻同盟が攻めてきた。一種の伝説と成った彼らの撃退は充分サハクの力を示すことになる。

この一件はコロニー住民に大きな衝撃を与えた。地上復興のためにコロニーは様々な支援をした、しかし地上は感謝するどころか逆に攻撃して来た。コロニーには戦争を嫌って移民した人間が多い、彼らは安全な場所を提供してくれたサハクに感謝してい

る。アスハは地上オーブを戦火に晒し、負けた。サハクは地上を平和的に取り戻しただけではなくコロニーの防衛も完璧だ、どちらを支持するかは考えるまでもない。コロニーは今や反アスハ一色となった。地上では今回の攻撃での損傷で大打撃を受けた、戦艦4隻と全ての支援艦は余りに大き過ぎる損傷だ。作戦を強行したカガリは各方面から非難されたが代わりに成る者が居ないので代表の座は失わずに済んだ、しかし殆どの権限がセイラン家の物になり、実質的にセイラン家がオーブの支配者となった。MSや艦艇を最優先で修理、強化し物資も優先的に回したせいでオーブの経済はまた崩壊寸前になった、更に捕虜の事もある。政治家達は既に何処から手を付ければいいのか分からないう。流石に今回の一件はマズイので報道規制をかけたが全然駄目だった。民衆にはバレーで、政府への信用はガタ落ち。反対運動も活発になったがカガリは未だ代表の座に居る、氏族制度は変わらない。コロニーへの移民は戦争でしばらくストップした。国民数が大して減らなかつたのはどの国も余裕が無いからだ。その結果国民が北に集中し歪な分布になる、政府の悩みは増えるばかりだ。

連合とプラントは復興や回復で干渉する余裕がなく、他の中立国はサハク借りがあり、動ける国は居ない。この絶好のチャンスにサハクは動き出す。

世界は変わる

C. E. 72年5月5日

地上オーブの宣戦布告なしの突然攻撃はコロニーの独立運動を激化させた。安全だと思っていた場所が味方によつて侵攻されたのだ。そしてサハクはそれを完璧な防衛体勢で撃退した。完璧に近い政策、経済制度、軍事力を使うサハクと幾つのも失敗で国土を焼かれ、経済を破綻させかけたアスハ、どっちを選ぶかは子供でも分かるだろう。L2コロニーはスムーズに独立する。C. E. 72年5月5日午前10時、コロニー建設者たるサハク家首長、コトー・サハクが世界同時通信で宣言をする。

『オーブは堕ちている！かつて領土が少ないにもかかわらず、我らは知恵と努力でオーブの力を世界に知らしめていた。しかし、アスハは下らない政治闘争の為に国の力を落としただけでなく、他人の技術を盗む事しか国を守れなかった。更に己の信念を優先して、国民を戦禍に巻き込み、果ては国有財産をも独断で破壊した！我らはオーブを復興しようとした、だがアスハは帰ってきた途端権利を要求して来た、国が一番困難な時に逃げたにもかかわらずに！復興を優先する為に我らは権力の問題を後回しにした、それをアスハは無視するだけでなくこんな時にコロニーへ攻撃してきた！何故だ！我々

は地上のためにあらゆる支援をしてきた、何故攻撃されなければならない！これで分かるだろう、我らとアスハは相容れない。故に、私はここでL2コロニー群を領土とした独立国家、N・ORB (Nation of the Original of the Revolution for Being) 通称ネオ・オーブの建国を宣言する！！それに伴い、サハクはコロニーの所有権を放棄し、国有財産とする。そして初代大統領の選挙を11月に行う！』

氏族制度では無く、選挙制度なのは前からあったことだ。しかし、過去では1つのコロニーの代表者、つまり市長選挙までしかなく、全コロニーの代表はサハクと成っている。そのサハクが権利を放棄すると言っているのだ。簡単に言うがそれは並大抵のことではない。これには民衆は感動するしか無い。演説は更に続く。

『そして我が国は人類の進化の道標となるであろう』

これには市民は疑問を感じずに居られない。

『コーディネーターは自らを新人類としてナチュラルを軽蔑する者がいる。そしてナチュラルにはコーディネーターを怖れる者がいる。この感情がお互いを駆逐しようとし、それが連合とプラントの戦争が起こつた原因の一つだ。しかし、私は知つた。コーディネーターは人類の進む未来の唯一の可能性ではないことを。宇宙環境に適応し、自

然進化の産物であるニュータイプ。そして人と人、人と機械を繋ぐイノベーター。新たな可能性を見つけた我らは此処で人類のあるべき姿を探求する事を、世界に宣言する！
」

歴史的宣言のあと、コロニーは静粛に包まれていた。しかし、一人が歓声を上げると全てが追隨した。ネオ・オーブで今日は独立記念日で祝日である。

翌日、三種類の進化方向が公表された。

コーディネーター：遺伝子を改造し高い身体能力と思考能力を持つ。技術的に最も普及していて既存のコーディネーターは2000万人も居る。しかし遺伝子を改造した事によって、全ての進化の可能性がなくなる。変わり続ける他種の遺伝子を組み込む事によって擬似的に進化する事はできるが、種としての他種に進化を依存しなければならぬのは致命的な欠陥である。また、コーディネーター同士の出世率が代を重ねると低くなることから種の生存自体が他種に依存する事になる。結果、種として単独では生存出来ない。

ニュータイプ（未だ全て解明されていない）：宇宙に適應した自然進化した結果。先天性に他人の感情を感じることができ、高い空間認識能力をもち、さらに特殊な脳波を発信することが可能。しかし他人の感情を感じると同時に影響も受けるので悪意に弱い。人の死の瞬間発する強烈な感情はその心を壊す可能性がある。後天的に外科的方法で

なることも可能であるが、体と心に大きな損傷をもたらす。なおPTSD患者がニュータイプになる適性が高い。ニュータイプは感覚進化である。宇宙では地球に比べあらゆる距離が大きい、故に遠くの物体を感知する為に五感以外の感覚が発達したと思われる。人類の宇宙での生活時間が進むにつれ発生確率が増加する。なお、戦闘では敵意や悪意を感じ取り、時には先読みまででき、それ故に軍事利用されやすい。非人道的な行いを防ぐため既に確認されたニュータイプは公表しない。

イノベーター：先天性にイノベーターたる因子を持つ、覚醒を経てイノベーターになる。高い空間認識能力、反射能力をもち、脳量子波を発生させることでGN粒子を介して同類と通信、機械を操作出来る。後天的に外科的方法でなることも可能でリスクは無い。自然覚醒する確率は極めて低い。非人道的な行いを防ぐため既に確認されたイノベーターは公表しない。戦争利用を回避する為に関連技術の公表もしない。

現段階では違う種の特性を同時に持つのは不可能という結論が下されている。

一番疲れるのはセイラン

この独立宣言は各国市民を震撼させた。だが政府は「ああ、やっぱり」的な空気だった。連合とプラントは未だ食料をネオ・オーブに依存している、前大戦の借りもあつて反対はなかった。中立国は軍事支援を受けているのが多いのでむしろ賛成が多かった。唯一オーブが抗議したがどの国も同調などしない。

三種の進化方向は独立以上に世界の注目を集めた。普段ならどの国もこんな話を信じない、しかしサハクが言った言葉なら信用度は高いと考えている。現在、コーディネーター、ニュータイプ、イノベーターの支持者はいい割合で安定している。これによつてナチュラルは劣等感をなくし、コーディネーターに対し自信を持てるようになった。コーディネーターはナチュラルを軽視する事が出来無くなった。ニュータイプ、イノベーターは既に確認されているとある、コーディネーターは絶対優位種では無くなった。プラントには激怒する者もいたが、ナチュラルを受け入れられるネオ・オーブのコーディネーターはむしろ喜んだ、これによつてネオ・オーブでのナチュラルとコーディネーターの争いは激減したからだ。連合とプラントは長年のプロパガンダもあつてなかなか変わらない。ネオ・オーブでは公開議論の場所を設置し、人々はそこで人類

の進むべき方向を模索している。

独立に伴いネオ・オーブはオーブを攻撃する準備を始めた：と言う情報を流した。これにオーブは慌てた。前の作戦でほぼ全ての戦力を使い果たしたのだ、精強と言われるネオ・オーブ軍の降下作戦を阻止できるはずがない。カガリはなんか騒いでたがセイラン家は無視してネオ・オーブに停戦を申し込んだ。なにげにウナトとコトーは仲が良かった、同時にユウナとロイも仲がいい、仕事ではお互い容赦がないが。ウナトの努力で停戦は成立した、もちろんネオ・オーブの立場が上だ。しかし、オーブには搾り取れるものが無い。金も、技術もネオ・オーブの方が圧倒している。はつきり言って地上オーブの領土などいらんロイは困った、何も取らないんじゃ示しが付かないからだ。結局、独立の承認とヤタノカガミの技術を貰った。なお、捕虜は戦艦共に返した。

SIDE ウナト

なんて事を仕出かしたんだ、ウチのバカ姫は！連合やZ A F Tさえ手が出せないサハクを攻撃するなど、オーブを滅ぼす気か！

「ユウナ、ロイに言って何とかオーブを統一に出来ないか？」

「無理なのは父さんも承知でしょう」

「そうだが、サハクが居なくては誰が軍を纏める？」

「僕らがやるしか無いだろうね」

「無理だ、別の氏族に任せるか」

「しかし、新たな進化の方向か。相変わらずやる事のスケールが大きいね」

「中立国ではナチュラルとコーディネーターの争いが激減している、世界的難題を解決したか」

「やっぱりあの子かな？」

「だろうな、いつの間にこんな研究をしたんだ？」

「ロイならやってのけるだろうね、昔からそうだったし」

「ああ、昔はお前も奴と比べられて荒れてたな」

「それは言わないでよ、今思い出しても恥ずかしいんだから」

「それはいいとして、停戦条件に賠償金を要求してこなかったのは助かった」

「復興途中だもんね」

「しかしあのカガリに独立を認めると宣言させるだど？」

「あの暴走娘に？承認宣言すればいいだけじゃないの？」

「コトーが笑顔で私に要求してきた」

「それは…気の毒に」

「お前が説得しろ」

「ちよつ、無茶言わないでくれよ」

「婚約者なんだろう」

「父さんが決めたんじゃないか、それにカガリには恋人が居るようだし」

「あの護衛か？ 問題ないだろう、今婚約を解除すればオーブに響く、カガリもそれくらいは分かるはずだ」

「分かるかな？ 正直それでも良かったんだけどね」

「おいおい」

「今後あの暴走娘と毎日を通^ごすと考えると……」

「……」

「……」

「て、照れると普段とのギャップで可愛いと思うぞ、うん」

「父さん」

「な、なんだ？」

「ネオ・オーブに逃げませんか？」

「……」

「……」

「ひつじよくに魅力的な提案だが駄目だ」

「やっぱり、まあ確かにこのまま国民をカガリに任せる訳にはいきませんね」

「優秀な者は殆どネオ・オーブに引きぬかれた、我らが残らないと本当にヤバイ」

お互い溜め息をつくのが、状況が良くなるわけでもない。昔ロイがカガリと婚約という話もあったがサハク側が断ったのはこれを見越しての事か？ありえるな。こうなったら本気でアスラン・ザラをカガリとくつつけるか？世界情勢が安定したら考えてもいいかもしれない。

S I D E O U T

S I D E ロイ

さて、情勢は一旦安定した、今のうちに次の大戦の為に戦力を増加しないと。まず、ソロモンにビルゴIIを1000機配備、VF17を追加武装をつけてVF171に改造。大隕石引張ってきて中を空洞にしてピースミリオンを建造し改造、搭載機のゴーストも生産する。VF171のコクピットをPS装甲の複合装甲にする。コロニーの採光ミラーの裏側をヤタノカガミで覆う。主力艦はサラミス改とマゼラン改でいいだろう、こちらの技術も合わせれば高性能な艦が作れる。DXを二機追加、マイクロヴェーブ発信装置をソロモンに三つ設置。

ソロモン内部にボソンジャンプ演算装置を翻訳機付きで設置。万が一の為に全コロニーと両要塞を外宇宙ヘシジャンプさせる量のCCを確保、これは錬金術の方が早いな。私のと同型のPDAを四つ作る。五つのPDAにボソンジャンプトリガー機能とラム

ダ・ドライバ汎用版を追加。後は全員にCC付きのアクセサリーでもプレゼントするかな。ラムダ・ドライバの練習もしないとな。

問題は専用機三機の改造とステラの専用機だが、どうしよう。

S I D E O U T

バタフライ

SIDE カガリ

そんな、キラが負けるなんて。ロイ・サハク、またお前か。昔からそうだった、代表の娘なのに頭脳ではあらゆる面でお前に及ばない、よく他の氏族達に陰口を叩かれた。それはもういい、アスランと出会って吹っ切った。しかしお前はお父様の思いを踏み躪りオーブを裏切った、そしてキラ達を傷つけあまつさえキサカを……

絶対に、絶対に許さないぞ!!

SIDE OUT

SIDE キラ

キサカ准将が戦死してからカガリはずっと引きこもったままだ。無理も無いと思う、彼はアフリカに随従するほどカガリと親しかった。どこで間違えたんだろう？ラクスと共に戦争を止めると決めたのに、僕は戦争を起こしてしまった。でも彼らはオーブの人なのに代表であるカガリの言う事を聞かなかった、国家元首としてそれを見逃すことは出来ない事も分かる。でも本当に戦う以外に方法は無かったのだろうか。ロイ・サハクの言う事も分かる、じゃあ両方共正しかった？

分からないよ。

S I D E O U T

S I D E アスラン

カガリが悲しんでる。俺には何も出来ない。俺とキラが居れば勝てない敵はないって思ってたんだ。結局フリーダムさええたった一人の敵に負かされた。ジャステイスさえ、ジャステイスさえ有れば結果は違ったかもしれない。キラを倒したのはロイ・サハクか、気を付けなければならぬ。

S I D E O U T

S I D E ラクス

サハク家の力は危険です。あの力ではいずれ力に酔うでしょう。それでは取り返しの付かない事になります。出来るだけ早めに討たねばなりません。しかしキラでさえ負けてしまいました、ファクトリーに新型機を依頼せねばなりません。それが届くまでは力を貯めるしかありません、早速マルキオ導師に連絡しなければ。

S I D E O U T

S I D E ジョゼフ・コーブランド

L2コロニーの独立か、大西洋連邦大統領としては憂うべき事態かもしれないが、私個人としては歓迎したい。有力な第三勢力が居れば連合とZ A F Tもそう簡単には戦

争をしようと考えないだろう。しかし、新たな人類の進化の方向とはまた画期的な物を。ブルーコスモスの奴らは連日祝杯を上げてるぞ。これでナチュラルとコーディネーターの争いはいずれ無くなるだろう。その過程が問題だが、ネオ・オーブは上手くやるだろうな。やれやれ、私も頑張らねばな。

S I D E O U T

S I D E デュランダル

独立はどうでもいいが、新たな人類の進化の方向は無視できない。これはコーディネーターのアイデンティティーに関わる事だ。プラントではユニウスセブン事件以来最大級の混乱が起こっている、何とかしなければ。方法は主に

1. 内容の否定

無理。サハクの信用は高い、主にサハク企業の信用が抜群なのが原因だ。

2. 受け入れるよう説得

保留だな、これが一番疲れる。

3. いっそサハク家壊す

絶対無理。なんでこんな事思いついたんだ？

4. 情報規制

既に知り渡った。

説得するしかないようだ。恨むぞサハク、私以外が議長の時に発表しろよ。

しかし、この方法でナチュラルとコーディネーターの争いをなくすには時間がかかり過ぎる。そして種族が多くなったら、それはそれで戦争が起こりやすい。歴史を信じるならば少なくとも一度の世界大戦が必要になる。穏便に解決する為にはやはりあのプランしかないな。

S I D E O U T

S I D E ジブリール

くくくくつ、はっはっはっはっはっ！

痛快だ！アズラエルよ、あの世で見ているか？コーディネーターは否定されつつある。そう、病気でもないのに遺伝子を改造する人間が正統な新人類な訳がない！自然の進化、なんと素晴らしきことか。いずれはイノベーター化技術で私も進化するが、今はまだいいだろう。神聖なる新人類はこの戦争に参加するべきではない。コーディネーターどもを滅ぼし、青き清浄なる世界になってからナチュラルは進化するのだ！

S I D E O U T

S I D E コトー・サハク

ロイめ、こんな手札を隠していたとはな。新たな人類の進化の方向は中立国にのみ利を齎す、プラントは今頃さぞや面白くなっているだろうな。建国と共に宣言するとは、

私もこれで歴史に名を残すだろう。だが、それよりも、なんなんだこのPDAは！超性能のMSや艦船にやつと慣れたと思いきや、いきなり個人レベルでのワープと力場発生装置だど！?物理を馬鹿にしているのか？特にあのラムダ・ドライバ、攻撃も防御も飛行も出来てしまった。人間びつくりシヨーか？しかもなんでミナとギナは素晴らしい笑顔でいれるんだ？遠い目してたらギナからディスクを渡された。内容は昔のとある島国のアニメでネコ型ロボットが出てくるらしい。なるほど、これに比べればまだマシだ。

そういう話はひとまず置いて。これから一部の過激なコーデイネーターによるテロが増えると思われる、その対処がいま一番の仕事だ。

これでサハクも歴史の表舞台に上がった。サハク家の悲願は果たされ、これからはネオ・オーブの発展を考えないとな。

S I D E O U T

〈DESTINY開始〉 国は人が基本

C・E・73年10月1日

SIDE ロイ

私は今、車でアププリウス議事会堂に向かっている。デュランダルと前大戦でプラントに逃げてきたオーブ国民に関する内容を議論する為だ。もちろん護衛はステラだ。

独立宣言後、プラントは大混乱に陥ったが、今では落ち着いてる。大多数のプラント市民はこの事実を受け入れた。極少数過激派の反対運動は意味をなさなかった。今頃彼らは何をしているんだろうか？

ネオ・オーブの発展は凄まじかった。新たな資源衛星の発掘、新技術の開発はネオ・オーブの完全なる自立を可能とした。はつきり言って地球が滅んでも今のネオ・オーブなら生存出来る。

ソロモンの兵器は全て完成した。専用機の建造、改造も終了している。国軍のVFの改造も終了した。ネオ・オーブ初代大統領フィリップ・ジャツカはこの強すぎる戦力を見て政治に悩んだらしい。断っておくがソロモンはサハクの私兵だ。

マリアとは未だに直接会えない。通信でよくこちらの事を話したら政治に興味を

持ってしまった。しかも彼女の見解は的確な物が多い。あの歳でこれ程理解できるのは異常だ。彼女も天才か、サハクの伝説はまだ続くようだ。

ネオ・オーブとスカンジナビア王国、赤道連合の関係は更に親密になった。同盟はま
だだかもし戦争が始まれば即同盟と言う感じになっている。

ナイトメアの販売を開始したことで、注文が殺到している。戦争以外での使い道はMSのより遥かに多い。治安維持や工事建設などではMSは無駄に大き過ぎる。議事堂に向かっている途中でも幾つかのナイトメアを発見した。普及率は高いようだ。

意外な事にあのデュランダルがテロリストの支援をしていた。この情報は上手く使えばかなりの利益が手に入るだろう。

お、着いたか。では、いじmじゃなくて交渉に行こうか。

SIDE OUT

会議室にはデュランダルとその秘書、護衛一名が待っていた。ロイ達が入ると簡単な挨拶を交わし、直ぐに座り本題に入る。

「単刀直入に言いますよう、デュランダル議長。こちらが欲しいのはプラントに住むオーブ国民、元オーブ国民を対象とした移民の宣伝です。」

ロイはズバツと言った。

「つまり彼らを移民させて欲しいということかな？」

「いいえ、飽くまでも宣伝です。ネオ・オーブは歓迎すると言うだけです。最終的には彼らの意思に任せます。」

「分かりました、それについては特に問題はありません。ただ、宣伝内容は一応チェックさせてもらいますよ。」

「もちろんです。つきましては移民意思のある人達の妨害をやめて貰いたい」

デュランダルの眉毛がピクツと動いた。

「どういうことですか？我々は彼らの意思を尊重しています。」

「こちらの調べではかつてオーブ移民組の住民へ強制徴兵しているとの記録がありません」

「しかし、それは過去の事で、今は志願制に変えています。そもそもあの時は全ての適齢のプラント市民が徴兵対象でした、オーブ移民組は例外ではありません」

「ええ、しかし彼らが不当の待遇を得ているとの報告があります。オーブ系軍人は昇進が遅く、使い捨てにされる場合も多い、そこが問題です」

オーブ系軍人は嘗てナチュラルと共存しようと考えたことがあるだけで殆ど信用されていいない。ナチュラルへの憎しみはオーブ系コーデイネーターの不当な扱いを招いた。

「それは仕方無いでしょう、人の心は簡単には制御出来ません」

「問題は今、彼らの退役志願は叶えられますか？」

「……機密に関わらなければ、許可は出しています」

「機密とはMSの事ですか？それに関わらない軍人の方が少ないでしょう」

「つまり機密に関わった軍人の退役も許可しろと？」

「ええ」

「それは無理でしょう、軍事常識ではありません」

「しかし今やMSはどの国も保有している、それだけでは機密とは言いません。それにそちらは正当な方法で残す努力をすればいい。それに、この事が宣伝されればプラントへの移民が激減するでしょう」

人口はプラントの永遠の問題だ。出世率の低下と戦争のため人口問題はさらに深刻になった。前大戦では中立国のコーディネーター達は中立国が攻撃されると見て「どこも戦場ならプラントへ」と言った感じにプラントへ逃げた。しかし今は大国、ネオ・オーブが有る。プラントへの移民は既に減少している、これ以上減ると今後の国家防衛にさえ影響が出るだろう。ロイは許可しなければ宣伝するぞと脅しているのだ。

「それにゴンドワナ、ニユートロンスタンピーター、メサイヤ、ZGMF-X42S、ZGMF-X66S。最高機密は後いくらか残ってるんでしょうね？」

「!!」

先程言ったのは全て最高機密の兵器の名前か番号だ。デユランダルは冷や汗が絶えない。

「どうですか？議長」

ロイはにつこり笑った。13歳になり、身長も165cmになった。それは顔の幼さを無くし、美しい顔で威圧的な笑顔を出せるように成った。

「……了承しましょう」

デユランダルが搾り出すように言った。秘書の女性は見とれていた。何気にステラの頬も少し赤い。

「ありがとうございます」

ロイは立って帰ろうとしたところ。デユランダルが慌てて行つて。

「所で明日の予定は決まってるかね？良ければアーモリーワンの紹介をしたいと思うのだが」

ネオ・オーブの軍事力が高いのは周知の事実だ。デユランダルはZAF Tの力を見せる事で少しでも牽制しようとしている。それにどうせ全部知ってるんだ、今更見せたって問題にも成らない。ロイは実物を見るのも損は無いと考えた。

「分かりました、喜んで案内されましょう」

ロイのアーモリーワンツアーが決まった。

会談とは基本的に秘密裏に行うものである

C. E. 73年10月2日

SIDE ロイ

待ち合わせ場所に早めに来てみた。するとデュランダルがピンク髪の少女と話している。その顔には見覚えがあった。

「ラクス・クライン?」「前の報告によればオーブに隠れてるはずだよ」

ステラが答えた。

「そういえば、似たような人が…」

「ああ、ミア・キャンベルか」

デュランダルがこちらに気付いた、手を振っている。手を振り返した。ミアがお辞儀してる、いい子だな。

「ロイ外交官、紹介しよう、ラクス・クラインだ」

「はじめまして」

あの女の声だ、どうやって探したんだろう?

「いえ、会ったことがありますよ。ミス・クライン」

二人が固まった。

「そ、そうですか。では、仕事を頑張ってください。」

デュランダルがなんとか言い出す。

「は、はい。」

ミーアが慌てて走り去った。

「雰囲気少し違いますね」

からかって見よう。

「そ、そうかね」

「前もつと毅然としていました」

「前の戦争で変わったんだよ」

「ふーん」

どうでもいいな。

「私としてはどう使っても構いませんが、ネオ・オーブに悪影響を齎す場合はバラしますよ」

「……肝に免じておくよ」

SIDE OUT

「あれが我軍の次世代機、ザクだ」

緑色のMS指して言う。

「ほー」

「万能性を追求した量産機だ」

「流石にそれくらいは知ってますよ」

ザクは既に発表されている。この情勢では隠し通す事など不可能なので、連合とZ A FTは既に主力機を公表している。

「ふむ、ならばセカンドステージシリーズも見ろかね、いずれ公開する物だけだが」
「そこまで公開するんですか？」

「とある事件からコーディネーター達は不安になっているのだよ」

ロイは苦笑した。デュランダルが言っているのは進化方向発表の一件だろう。

「正しく認識させた、とも言えますがね」

デュランダルも苦笑した。

「こちらへ」

その格納庫には大量の兵士が警備をしていた。最新鋭機の警備は万全に見える。

「これが最新鋭のカオス、アビス、ガイアだ」

「ガンダムとは…これらは宇宙用、水中用、陸戦用ですか？」

「流石ですね」

「空戦用もありますか？」

実は全部知っているがあえて知らん振りする、流石にここで知っていると云ったらお互い対応に困る。

「ええ、詳しい事は機密ですが、空戦用と汎用を加えて五機あります」

「なるほど、すべて……ん？」

そこで一人の下士官が小さな声でデュランダルに何か話した。

「丁度オーブの姫が着いたようです」

「どういう事ですか？」

「実は非公式会談を申し込まれてまして。明日のはずでしたが、直ぐに会わせると五月蠅いそうです」

「はあ、相変わらずですね」

ステラまで苦笑してる。

「構いません、我々はこのまま適当に回りますから、そちらをどうぞ」

士官の一人でも居れば案内は充分だ。

「宜しければ一緒に行きませんか？彼女達にも案内はする積もりでしたから」

「国家元首の会談に参加するのは流石に相手も了承しないでしょう」

「流石に此処でお話するつもりはありません、耳もありますし」

「確かに」

此処は色んな耳がある、普通ならこんな所で国家重要事項を話す事は無い。

3人は迎えに行つた。

S I D E ロイ

暴走娘は相変わらずだな。会つた途端「お父様の仇！」とか言つて殴つてくるし、ウズミは自爆したんだろうが。それに他国の人間の前で重要事項を話すし。つかアスラ止めろよ、パトリックの息子なのに政治感覚がないのか？デュランダルが微妙に引きつてるぞ。しかもオーブ避難民の軍事就職禁止って、解決策くらい提示してからにしろ。このままでは単なる差別だぞ。やっぱオーブ、いやアスハを滅ぼすか？今大戦が終われば考えよう、地上オーブの国民がかわいそうだ。

「戦争が終わらないから、力が必要なんですよ」

あつ、デュランダルがカツコ付けて締めくくろうとしてる。

S I D E O U T

そこで突然爆破音が聞こえた、地面も揺れている。

「何事だ!？」

デュランダルが叫ぶと士官の一人が言う。

「敵襲です！」

「では、彼らを安全な場所へ」

「了解！」

カガリとアスランに一人、ロイとステラに一人の下士官が案内する。

二組はそれぞれ別の方向に案内される。ロイは少し疑問に思ったが、どうせ問題があればボソンジャンプでネオ・オーブに戻ればいいと考えて素直に誘導に従う。走りながら緑のザクが起動するのが見えた。そして運が悪いことにザクが蹴飛ばした壁の破片がこちらに飛んできた。ロイとステラは石の影が見えた瞬間上空へボソンジャンプし、二秒後地上に戻る。案内役は潰されていた。飛んできた壁の破片は隣の格納庫のシャッターをぶち破りMSに乗ろうとしたパイロットを押し潰し、更に進んで壁際のコンソールに集まる軍人も押し潰した。ロイとステラの目の前にはコクピットが開いたMS二機。

「……」

「……」

「これは、乗れという事だな」

「そうだね」

二人はMSに駆け寄り、ボソンジャンプでコクピットに入った。

起動すると共に戦略を決める。

「姉さん、ザクのスペック覚えてる？」

「問題ないよ、そつちこそコーディネーター用OSで大丈夫？」

「当然」

頭脳チートなら書き換える事も出来たが、後々めんどくさいのであえて元のOSを使う。あんまり慣れないが、ロイなら数分で対応できる。

「なら、何も問題ないね」

「ああ。さっきのザクにはアスラン・ザラが乗っているようだ、機体性能は劣るが私達が参戦すれば敵を抑えられるだろう、その間にZ A F Tは発進出来るはずだ」

「Z A F Tの援軍が来たら押し返す、こんな感じ？」

「それでいいと思うよ」

「じゃ、それでいこう」

「ああ」

ロイはニヤリと笑った。

(さあ、どう引つ掻き回してくれようか)

護衛は戦えればいい訳ではない

英雄アスラン・ザラは苦戦していた。ここまで性能と数の差があれば仕方ないが、何故こんな状況でMSに乗るのかロイには分からない。カガリの安全を優先するなら目立つMSに乗らずに車で逃げるのが最善だ。アスランのザクが何度も殴られていたらまた二機のザクが来た。

S I D E ロイ

「おい、アスラン・ザラ。あのバカも乗っているんだろ、さっさと退け」

『巫山戯るな！お前らだけに任せられるか！』

「だまれ暴走娘！アスラン・ザラ、どうするかはお前の自由だが自分の仕事を忘れるなよ」

『奴らを倒せ、アスラン！』

どうでもいいか、カガリが死んだらこちらにとつても都合がいいし。

コロニー内でビームライフルは使えない。機関銃なんて無かったし、接近戦しかないか。

ステラとの連携で一つくらいは落としたいな。

SIDE OUT

ロイとステラのコンビネーションは完璧だ。ロイの先読みをステラはロイの動きで察し、二人とも常に先手を取る。二人の相手はカオスとアビスだが相手は翻弄されっぱなしだ。ロイは超人的な反射神経こそ無いが高速演算による先読みが出来る、華やかさこそ無いが攻撃と回避は的確だ。ステラは今回ロイに合わせている、機体性能が足りないので実力を発揮出来ないからだ。二人は集中的にカオスを狙い、無傷で装甲をダウンさせた。直後に空で何かが合体してるのが見える。

SIDE ロイ

あれはMSか？ヒーローアニメでもないので合体中に攻撃されたらどうするつもりなんだ？ま、いいや。それよりも援軍が遅すぎる、大丈夫かZAFT？

お？赤いザクと白いザクも出てきた。アスランのザクもミネルバに行つたし、こっちも退くか。

「ステラ、もう充分だから後は任せよう」

『それはいいけど、何処に行くの？』

「ミネルバだ」

『新鋭艦？なんで？』

「デュランダルが居るから問題を押し付ける」

『分かった』

しかし、いいMSだ。ウインダムやムラサメより性能が突出している。量産機にしてはなかなかいい。

SIDE OUT

ミネルバにはすんなり入れたがコクピットから出て直ぐ銃を構えた兵士に囲まれた。敵意はない、ネオ・オーブ外交官のロイ・サハクだ。議長がここにいると聞いてこつちに来た。今直ぐ会えるか？」

「護衛のステラ・R・サハク」

あたりは「またかよ」的な空気だ。先程カガリも此処に来ている。

「戦闘が終わってからになりますか……」

下士官が取次ぐ。

「構わない、待たせてもらおう。それと飲み物を二つ頼む」

「分かりました、こちらへ」

二人は案内されていく、これから起こるパニックも知らずに。

SIDE ロイ

あの野郎、よりにもよって暴走娘と同じ部屋だと!? スンゴイ睨みつけてくるぞ。アスランは宥めてるが効果はないようだ。スルーするのも疲れる。こいつらが居るとステ

ラと雑談出来ないだろ。

暴走娘が落ち着いてきたぞ、少しはやるなアスラン。

「ロイ、何故オーブを裏切った？」

静かに聞いて来る。

「なんの話だ？」

心外だと言わんばかりに言い返す。

「巫山戯るな、なんで行政府の指示に従わない!？」

また怒りだしたぞ、いいのか国家代表？

「貴様が逃げた時点でオーブ代表はサハクに成った。連合、プラント、他の中立国も認められている。つまりオーブを裏切ったのは貴様だ」

「なんなんだそれは、オーブはアスハが治政するのが慣例だ!」

「だからどうした？貴様が敵前逃亡し、セイラン家は連合で交渉中。残った五大氏族はサハクだけ、なんの問題もない」

「私が帰れば譲るべきだろう!」

「何様のつもりだ貴様？ヘボイ指揮で国民を無駄死にさせただけでなく、敵前逃亡。さらに復興途中なのに軍を派遣するなど、代表にあるまじき行為だ。貴様に預けると国が傾く」

「くっ、それはお前らが従わないからで。お前らが従ってたら全部うまくいったんだ！」

人任せか、これは相手にするだけ無駄だな。

「答えろ！」

早く迎えこないかな

「このっ」

ん？うおっ

S I D E O U T

「このっ」

カガリがロイに殴りかかったがステラに止められて決められた。アスランが動き出そうとすると突然揺れた。

「発進したのか？」

ロイが冷静に言う。大人しくなったカガリを放し、ステラがロイに近づく。

「逃げられたの？」

「恐らくは」

「練度低いね」

「確かに」

アスランがカガリを起こしている傍らロイとステラは落ち着いて話す。

「なんでそんなに落ち着いていられるんだ！」

カガリがまた怒鳴る。今度は二人共無視する。今度はカガリも黙った。

被弾したのかその後も数回の振動があった。

重い空気が漂う中、扉が開き軍人が一人入ってくる。

「戦闘が終わりました、議長がお会いになられるとのことなのでこちらへお願いします」

ブリッジに入ると、ここの空気も重かった。

「やあ、残念ながら逃がしてしまつてね。この艦はこれから追撃するので、了承して欲しいんだ」

デュランダルが陽気に言う。

「それは当然だ、議長。今は何であれ世界を刺激するような事はあつてはならないんだ。絶対に！」

カガリが先に了承した。

「ランチとか無いんですか？」

「残念ながら生憎準備が不足でしてね」

「ならば仕方ありません、あれを逃がしては禍根を残します」

「ありがとうございます、では時間があるうちに艦内を御覧になってください」
「議長！」

艦長が会話に割り込んできた。

「一時的とは言え、いわば命をお預けいただく事になるのです。それが我が国の相応の誠意かと」

「…議長がそこまで仰るのですたら」

「では、参りましょう」

戦争を終結させるのは政治家の仕事

MSデツキではミネルバ所属のパイロット達と整備士などが雑談していた。

「オーブのアスハ!」

シン・アスカが驚いたように言う。

「ええ、さつきあのザクで入ってきたわ」

ルナマリア・ホークが答える。

「待てよ、あいつはナチュラルだろ」

「パイロットは別よ。護衛の人なんだけど、もしかするとあのアスラン・ザラかも」

「え?」

「アスハ代表が咄嗟にそう呼んだのよ」

「アスラン…ザラ…あつ、でもあの二機は?」

「ああ、あれはネオ・オーブのロイ・サハクとその護衛らしいわ」

「マジで!?あの二人、技量では敵を圧倒していたぞ!」

「え?そうなの?」

「ああ、俺が到着したときアスラン・ザラのザクはガイアと五分五分だったが、ネオ・オーブ」

ブの二機はカオスとアビスの相手をしててカオスの装甲をダウンさせてた」

「ザクで？」

「ああ」

「冗談でしょう!?! Z A F T レッドのあたしたちでも互角だったのよ!」

「お前も見ただろ」

「そうだけど、てつきりシンがやったのかと思ったわ」

「あとで映像を見てみよう、何か分かるかもしれない」

「ええ、でもロイ・サハクってナチュラルじゃなかったっけ？」

「え？」

「そうだ、ロイ・サハクはナチュラルでコーディネーターを凌駕する頭脳を持つ事で有名な」

レイ・ザ・バレルが割り込む。

「嘘!?!」「マジかよ…!」

両名は静かに落ち込んだ。

その時、扉が開いてデュランダル率いる団体が入ってくる。遠いので何を言っていたかは分からなかったが。また、カガリが騒ぎ出す。

「力か。争いが無くならぬから力が必要だと仰ったな、議長は」

カガリが聞く。

「ええ」

議長が答える。

「だが！ ではこの度の事はどうお考えになる！」

ロイ達はやれやれ的に肩をすくめる。アスランは止めるべきかどうか悩んでる。

「あのたつた3機の新型モビルスーツのために、貴国が被ったあの被害の事は!？」

「だから、力など持つべきではないのだと？」

「代表……」

流星になだめるべきと考えたか、アスランが動く。しかしカガリは熱くなって話を聞かない。

「そもそも何故必要なのだ！ そんなものが今更！」

この言葉を聞いてロイが笑いを堪える。

「我々は誓ったはずだ！ もう悲劇は繰り返さない！ 互いに手を取って歩む道を選ぶと！」

「それは……しかし姫……」

デュランダル何も知らないお姫様に苦笑いするしか無い。

前大戦は三隻同盟によつて無理やり止められた。ナチュラルとコーディネーター、連合とプラントの問題は全く解決されていない。ユニウス条約締結後、両陣営共に新型機開発に力を入れた事から再戦は避けられない。ロイは既にいっぱいいっぱいだ。そろそろロイが爆笑する時、下から聞こえてきた。

「流石綺麗事はアスハの御家芸だな」

「ちよつとシンー！」

『敵艦捕捉、距離8000、コンデイションレッド発令。パイロットは搭乗機にて待機せよ』

いいタイミングかどうかは分からないが、ミネルバが敵艦発見。全員持ち場へ移動する。ロイ達はさっきの士官室で待機しようとしたが、デュランダルにブリッジに案内された。デュランダルが先に入り、艦長と交渉し終えて、四人はブリッジに入る。

こちらはMSを発進させたのにあつちは発進しない。ロイは何かにつかかかった。そして敵はそのままデブリの中に入る。今度は確信した、デコイを使うつもりだと。デブリの中では視界が悪いので、エンジンカットすれば隠れるのには最適だ。ちなみに原

作は細かい事まで覚えていない。

「(となるとデコイは既に発射されたと見るべきだ、長時間なにもしないんじゃあ怪しまれる)」

ロイは敵の作戦を正しく把握したが教えるつもりもなかった。自分に危険は無いし、気付かないのは軍人たるクルーの問題だと考えている。

「ボギーワンか。本当の名前は何というのだろうね。あの艦の？」
突然デュランダルがアスランに話しかける。

「はあ？」

アスランは意味が分からない。

「名はその存在を示す物だ。ならばもし、それが偽りだったとしたら……。それが偽りだとしたら、それはその存在そのものも偽り、と言う事になるのかな？ アレックス、いや、アスラン・ザラ君」

「……」

全員が沈黙すら中。ロイが発言する。

「ガーディ・ルーだ」

「は？」

「連合とモルゲンレーテの共同開発でDSSDの技術も積み込んだ宇宙専用戦艦、ガー

デイ・ルー。それがあの艦の名前だ」

「……」

今度は別の意味で沈黙する。ステラ以外「なんであんたが知ってるんだ」的な目で見て。デュランダルは遠い目をし始めた。

「(ザラ議長閣下もこんな目に会ったんだろうな、身を持って体験するとやつと気持ちりが分かる)」

ギルバート・デュランダル、精神的にそろそろ危ないかもしれない。評議会議長だからこそその情報の入手がどれだけ困難かが分かる。ネオ・オーブの諜報員は連合、プラントの両方に深く入り込んでいるようだ。

「そ、そう。それでどこ所属か分かる？」

艦長のタリア・グラデイスは中々強い、精神的に。

「いえ、それは分かりません。連合では特務部隊に何隻か配属されていますが、オーブやDSSDと言う線が全くないとは言い切れませんし。前にジャンク屋連合に一隻盗まれたと情報もありますのでさすがに所属までは分かりません。何番艦か分かれば所属も分かるんですが。」

次々に語られる機密に一同は戸惑いは隠せない、そして目の前の少年が更に恐ろしく見える。管制官のメイリン・ホークは涙目だ、ちよつと可愛いかもと思ったロイだった。

「わかったわ、武装は分かるかしら？」

「特に注意すべき武装はありません、陽電子砲もありませんし」
「感謝するわ」

ロイがわざわざ教えたのはただ面白そうだけだったりする。周りの反応をみてロイは満足した。

「後二分くらいか？」

ロイの最後のつぶやきは全員聞こえたが聞く勇気の有る者は居なかった。（ステラも自力で気付いた）

最大のブレイク

ジャスト二分後にアスランが「デコイだ！」とか叫んだが、前方の戦艦と思っていた熱源はシグナルロスト、後方に新たな熱源を発見。これを見てタリアはロイを睨んだ。

「あなた、知っていたのね」

「だからどうした、軍人」

「くっ」

プロフェッショナルとして外交官に負けたとは言えないタリアは出かけた言葉を飲み込む。ロイは既に無視してPDAに向かつて何か話している、ステラの表情も固い。ロイがステラと何か相談した後またPDAに向かつて話を始めた。まるで電話でもしているような動きに全員突っ込まなかった。実際、彼らにとって信じられないことにミナと通信していたが。

その後、アスランの助言により苦境からは脱出したが追撃不能なまでの損傷を与えられた。追跡は断念し、ロイ達はそれぞれの部屋に行く。今度はロイ達とカガリ達は別の

部屋を与えられた。アスランは気分転換すると言い出し、同じことを考えたロイ達と一緒にに行く。

休憩室には先客がいた、パイロット達とメイリン・ホークだ。

ルナマリアが真つ先にアスランに話しかけた。

「こんな所で伝説の英雄に会えるなんて光栄です」

「…そんなものじゃない、俺はアレックスだよ」

「だから、もうモビルスーツにも乗らないんですか？」

「やめろよ、こんなオーブに逃げた奴に」

シンが辛辣な事を言う

「俺は…」

アスランは何も言い返せない。

「まあ、確かにお前はプラントで戦後処理するべきだった。そうだったら嘗ての強行派の犠牲も少なくなる」

コーヒーを買ってきたロイが言う。

「それは…」

アスランはそのままだが、シンがロイを見て震えている。沈黙がしばらく続いた。突然シンがロイに駆け寄る。

「あんだ。いえ、あなたがロイ・サハク外交官ですか？」

後ろでルナマリアとメイリンが「シンが年下に敬語使ってる!?!」「それも他国人相手に!?!」とか言ってるが全員スルーした。

「そうだが？」

「えっと、二年前オーブ防衛戦に参加してませんでしたか？黒いMSで」

「ん？君は…逃げ遅れ一家の男の子か」

知っていたが、今思い出した見たいに言う。

「やっぱりそうでしたか！ありがとうございます、あなたのお陰で家族全員が助かりました！」

そう言っつて90度で頭を下げた。普段のシンを知る者は信じられない物を見たような顔をしている。

「当然だ、少なくともあの時の君は自国民だったしね」

助けた人に感謝される事に少し嬉しくなったロイはそう言っつて心から微笑んだ。そして女性全員が落ちた。メイリンが「うわあ…」とか言っつてる。

「つて、ちよつと待って。ネオ・オーブの黒いMSつて噂じゃあフリーダムを倒したあの？」

いち早く戻ってきたルナマリアが爆弾を投下。

「！！！！」

噂を思い出した者全員ロイとアスランを見る。アスランは苦い顔をしていた、ロイは「ああ、建国の切欠と成ったあの戦闘でね」

これにはZ A F T全員が驚いた、噂は本当に最強のM Sと言われるフリーダムを倒した人は目の前に居る少年だ。

「マジで!?!」

「アスラン・ザラの表情を見ろ」

「なるほど、だからザクで新型を倒せるのか」

「世界最強…」

「色紙！色紙ないか!?!」

「きゃ〜」

大パニックだ。パイロット達とメイリンは目をキラキラさせてる（レイ以外）、それも「尊敬してます」って目で言ってる感じだった。ロイはちよつと引いた。

（シン、性格変わりすぎだろ。他の奴も、Z A F Tは大丈夫か?）」

それでもロイは聞いて置かなければならないことがあった。

「シン・アスカ、何故L2コロニーじゃなくてプラントに行ったんだ?」

全員が一瞬で落ち着いた。シンは答えにくそうだ。

「あの時は父さん政治に疎くて。L2に避難しても、アスハが統治する限りまた戦争に巻き込まれるだろうって考えてて、それでプラントに来ました」

アスランは聞いてられなくて出て行つた。

「なるほど」

「確かに家族は助かりましたが、友人に死んだ人がいたのでアスハの政治には耐えられないんです」

「…済まない」

「いえ、ロイ様が気にすることではありません。サハクは北を防衛するって事は知っています」

「責めるつもりはないが、何故ネオ・オーブ建国後に移民しなかったんだ？」

「両親が軍で既に技術者として働いてたんです、それで辞められなくて」

「それは、また…」

正にロイが交渉しに来た一件だった。

「最新鋭機を任された以上、除隊は無理でしょうが、いつかは家族でネオ・オーブを觀に行きたいですね」

「できるぞ」

「え？」

「デュランダル議長と既に交渉した。機密に関わる元オーブ人でも除隊できる、ZAF
Tは金か地位を与える事でしか引き止めが出来ない」

「……………」

全員頭真つ白。軍ではありえないことだ、しかしロイはここで言った、真実の可能性は充分ある。

「ほ、本当ですか!？」

「ああ、後で確認するといい」

「ありがとうございます!」

もう一度90度に頭を下げて、家族に連絡すると言って走って行った。ロイ達も休憩が終わったので、部屋に帰った。残された者達は色々ありえない物を聞いて固まっていた。

兵器は使い方次第

C・E・73年10月3日

SIDE ロイ

ユニウスセブンが地球に向かっていている。私は既に知っていたが、コイツらは慌ててる。特にカガリ、八つ当たりしてどうする。ミナはこちらに向かっている、ギリギリ間に合うってところか。特に問題はないだろう。目の前でジュール隊？が破碎作業をしている、妨害は無い、まだ。

……………始まったか。

「敵は紫のジンです！」

メイリンが大きな声で報告する。

「紫？全機か？」

「え？はい！」

私に聞かれたぐらいで戸惑うな、作戦行動中なんだろ。しかし、紫統一のジン、例の議長が支援していたテログループか！だとすると

「改造したナイトメアがあるはずだ」

「え？」

「Z A F T 脱走兵のテログループだ、ジン以外にナイトメアを改造し宇宙用戦力にして
いる、早く通達しろ」

メイリンが反応しないから見つめ合う形になった、あ、赤くなって目を逸らした。お
いおい。

「いいわ、通達しなさい」

タリア艦長、さすがに現実に戻ってくるのが速いな。議長がまた遠い目だ。

S I D E O U T

改造されたナイトメアは残骸内部に隠れている、削岩機設置が開始すると出てきて削
岩機とMSをビームライフルで攻撃し始めた。ナイトメアの出力ではビームライフル
は使えないはずだが外付けバッテリーを付けることで電源問題を解決している。MS
のビームライフルを使っているので、大砲を抱えているような感じになる。使いづらい
が戦果は華々しい、多数の削岩機とMSが奇襲で破壊された。MSはまだ数があるが
いが、削岩機は持ってきた数が少ない、残りの数で何とか砕けるという状況だ。

ミネルバブリッジで変化が起こる。

「艦長、通信です！」

報告役のメイリン。

「こんな時に何処からの!?!」

「ネオ・オーブのラー・カイラムと言っています!」

「!!!」

「あく繋いでくれ給え」

デュランダルがなにか突っ切ったのか、直ぐに反応できた。

『こちら、ネオ・オーブ軍ロンド・ミナ・サハク将軍だ。ロイ・サハク外交官はそちらに居るか?』

「姉さん、時間が無い。注文の品は?」

『充分の核ミサイルを準備した。お前達の機体もな、ランチの迎を出すので準備してくれ』

プラントの人間として聞き捨てならない言葉が聞こえた。

「核ですって、またユニウスセブンに核を打ち込むというの!?!」

今度はタリアも冷静には居られなくなった。

「できるだけ使わないようにする、それともしユニウスセブンがそのまま地球に落ちたらプラントの責任と見なし宣戦布告する」

超爆弾を置いて出て行った。最後に小声で一言残して

「地獄に落ちろ、デユランダル」

すっかり聞こえていたが、反応できる者は居ない。その中で、この言葉に何かを感じた人もいた。

ラー・カイラムは戦闘態勢への移行で忙しい。出撃するのは帰ってきたロイとステラ、ソキウスの3人。時間が無いので、ロイ達は無駄なく準備をする。

「ロイ・サハク、アマツで出るぞ！」

「ステラ・R・サハク、Eガンダムで出ます！」

それに続き、追加パックを装備したVF25も発進する。

新たな五機の登場で戦場は大きく変化した。まずEガンダムに挑んだアビスはファッンネルで手足を一瞬で潰される。そのままユニウスセブンへ向かう。ロイがヴォワチユール・リユミエールを展開し向かってきたジンを止まることがなく緑の輪で切り裂く。直ぐにユニウスセブンに到着、VFはユニウスセブンの連結部の攻撃を開始する。ロイは下に回りGN粒子の圧縮を始める。ステラはロイの護衛。ナイトメアには訓練された子供が乗っついて数が多い、だがファンネルで全て撃ち落された。

VFはZAFFTのMSと連携することなく連結部を攻撃する。やがてユニウスセブ

ンが四つに分かれた、だが落下の阻止は出来なかった。ミナがユニウスセブン破壊を決意し、退避命令が出される。VF、Eガンダムは撤退、ZAFTも全員帰艦した、残るは離れた場所にいるロイと退避しないテロリスト。そのまま核ミサイルが発射され、テロリスト諸共ユニウスセブンを破壊する。ユニウスセブンの二つの欠片が消滅、一つが方向転換に成功、後一つが間に合わず大気圏突入を開始。角度の問題で核ミサイルは使えない、今当たると落下を加速させるからだ。アマツが最後の欠片の下に回りチャージされた粒子を発射。最後の欠片は徐々に落下速度を落としこのままでは押し返すことが出来る。押し返して核ミサイルで消滅もしくは方向転換させる事がロイの作戦だ。しかしイレギュラー発生。いいところ無かったZAFTがミネルバを大気圏突入させ陽電子砲で攻撃開始した。これにより最後の欠片が爆散。状況を見てロイがトランザムを起動、幻影が見えるほど素早く全砲門で爆散した欠片を攻撃する。結果、津波などの二次災害を引き起こせる程大きい欠片は無くなった。その代わり、欠片の数は多くなり被害の範囲は広くなる。だが成果としては充分すぎる。ロイは既に通常では離脱不可能な高度まで落下している。アマツなら離脱可能だが、ロイはそれを多くの目が有るここで見せたくなかった、故にそのまま変形、GN粒子を展開し地上まで落下する、もちろん家族には連絡してからだ。ロイが向かう方向にはスカンジナビア王国が有る。

アマツ（改修後）

パイロット：ロイ・サハク

説明：外見は変わっていない。全体的に性能がアップしている。特にIフィールドの出力を重点的に上げた。ツインGNドライブの全機能が使えるように成った。

ライザーソード：腕に発生装置を追加したことによって可能になった。

トランザムバースト：擬似脳量子波発生装置を追加してツインドライブと連動が可能になった。

量子化：瞬間移動です。

ヴォワチユール・リユミエール：本来の機能を捨て副作用の光輪発生能力を強化し武

器にした。

月光蝶システム：普通に攻撃や防御に使う。ナノマシンのお陰でメンテナンスが要らなくなった。もしロイが人間に絶望したら……

Ξガンダム

パイロット：ステラ・R・サハク

説明：本来のΞガンダムを強化して今のを作った。機体はガンダニウム合金で作られ、Iフィールドを搭載した。全長28.0mの巨大さに合った火力を持つ。

ツインGNドライブ：小型化し内蔵した。

ゼロシステムVer. 5.0：暴走しなくした。

IFS：ファンネルを頭脳で操縦出来ませぬ。

重力制御システム：操縦時のGを無効化。

変形機構：航空機に変形可能、その際全ての射撃兵器が使用可能。

武装：

ビームライフル*2

肩部メガ粒子砲*2

ビームサーベル*2

ミサイルランチャー多数

Mファンネル(ビーム)：ミラージユコロイド発生装置を搭載したファンネル。ミラー
ジユコロイドの欠点が完璧に改善されており、空間からビームが飛び出すように見え
る。

一人目の犠牲者

ユニウスセブンの落下は災害こそ起きなかったが被害はあった。史実と比べると欠片は小さかったがその代わり数が多く、被害範囲が広い。各国の重要人物は全員避難したので混乱による二次災害はない。ただ、パルテノンとホワイトハウスがぶっ飛んだ。戦闘映像はスカンジナビア王国から公表された、そしてネオ・オーブはテロリストがZ A F T脱走兵との情報を公開した。各国は史実に比べ随分と余裕がある、それ故に元気があって反Z A F T機運は高い。映像と情報を統合するところという結論が出る。Z A F T脱走兵がテロを起こす――Z A F Tが対処するも失敗――ネオ・オーブ軍が対処――成功する所でZ A F Tが邪魔した――被害発生。各国はネオ・オーブMSの性能に驚愕すると同時にZ A F Tに怒りを感じていた。軍の管理もできず、対処の邪魔をするZ A F T軍はかなり嫌われた。デユランダルは直ぐに演説と支援を開始したが、地球全土の被害に対しての支援としては余りにも少なすぎた。

ロイはスカンジナビア王国方面へ降下、道中できるだけの欠片を破壊し、摩擦熱で消滅させる。着いた時には、確認よりも先に感謝された。アマツとロイのお陰でスカンジナビア王国の被害は極僅かに留まった。ロイは手厚く饗され、マリアとも直接会った事

シンが居なかったら敵エースをどうすればいい？レイ一人じゃ駄目だ。そうだ、私自ら乗っ………落ち着こう。

S I D E O U T

S I D E ジブリール

どんだけ都合がいいんだ？

反Z A F T機運は高い、ユニウスセブンの被害も小さい、ホワイトハウスの件で政治家も怒ってる。運が向いてきたか？これで開戦は問題ないだろう。ただ、ネオ・オーブだけは刺激しないよう気をつけないな。食料支援もあるし戦争で勝てるはずがない。アズラエルめ、貴様が侵攻したせいで連合各国の支援が少ないではないか。ロゴスの爺達にも注意しておかねば。

しかしZ A F T脱走兵によるテロ、そして最後の妨害、デュランダルが裏で指示したのか？ありえる、少し調べてみるか。

取り敢えず、クルセイダースの出撃を……

S I D E O U T

S I D E スカンジナビア王

ロイ・サハクが来た。あいつも過激な人生を送ってるな。実際会った感じはかなりのい、何この完璧人間って感じだ。それは置いといて、あ奴が我が国に向かう欠片を攻撃

したお陰で被害が少ない、今は赤道連合へ色々支援している。英雄と見られるのも無理はないな、実際あ奴は排除した欠片の数は数えきれなかった。じゃがこれで戦争は始まるじやろうな、そしてスカンジナビア王国、赤道連合、ネオ・オーブで同盟が結ばれる。何と言う安心感じゃ、サハクのお陰で我が国の成長は著しい、赤道連合もだ、今度の戦争で我らの同盟は経済で地球連合を超えるだろう。クックック、笑いが止まらないわい。

それとアークエンジェルがイキナリ協力を申し込んできたが、協力する訳ないだろう。何考えてるんじゃ、あいつらは？

S I D E O U T

S I D E ユウナ

ユニウスセブン事件でのオーブの被害はそこまで大きくない、だが軍事的にも経済的にも「世界安全保障条約」は締結するしかない。ギリギリだった経済が混乱で崩壊へ向かっている、これもカガリが空母を建造するとか言うからだ。確かにサハクの戦い方を見て海で敵を殲滅するというやり方には賛成だ、しかし空母をどう使う？あのバカはMSを運んでより遠い海で殲滅と言ったが、そんな所では島に配備された防衛兵器が使えなくなる。カガリだけなら何とか止められたが武官どもが経済考えないで賛成しやがった。思えばあれがオーブ経済にトドメを刺したんだろうな。

しかしだ、その混乱を沈める為にさつきと結婚しろだ?!あのカガリと?!わかるよ、わかるけどさ、これで人生の墓場に入ると思うとね、ほんと泣きたくなるよ。ううっ、せめて国民の前では笑顔でいよう。

S I D E O U T

S I D E マリア

ロイ様が突然やって来ました。

まるで白馬の王子様が悪魔に乗って来たようだったわ。しかしそのギャップがイイ。あの柔らかな物腰、知的な瞳、和やかな微笑、通信画面では感じ取れない優しさを感じたわ。王族に生まれたので政略結婚は覚悟していましたが、この方が相手ならむしろ王族に生まれて良かったと思えるわ。一晚政治について話したら大き過ぎる収穫を得ました。数々の新鋭な政策とその効果を教えてくれた、他の人は「それは王女の仕事じゃない」と言っただけで教えてくれないのに。ちゃんと「私」を見てくれてるんだって分かった。

お父様に頼んでネオ・オーブで暮らせないかしら？

S I D E O U T

二人目の犠牲者

SIDE ロイ

やれやれ、やっと家に帰れたのに仕事とは。しかも結構溜まってるし。

「世界安全保障条約」の締結。これで世界は三色になった。スカンジナビア王国と赤道連合とは早く正式な同盟を結ぼう、どうせ開戦も時間の問題だし。

ロゴスが開戦を決定。これは今更だな、今度こそプラントを取り戻したいのだろう。

カガリ・ユラ・アスハとユウナ・ロマ・セイランが結婚を発表。ロゴスから援助を得るために「世界安全保障条約」を締結したのにまだ足りないか、経済つてのは機嫌を損ねると怖い。しかしユウナも災難だな、あの暴走娘と結婚するとは。でもあれつてアークエンジェル組にぶち壊されるんだよな……詰んだな。

デュランダルが世界に向けて演説、地球への援助を開始する。だが援助は被害に比べると雀の涙でしかない。

ネオ・オーブが地上への援助を増加。「ユニウスセブンの落下はプラントの軍人及び兵器の管理に問題があるのが原因である」と発表した。確かに全責任を負う必要はないが、主原因はZ A F Tの管理不備なのでその分の責任は負うべきだ。

ジャンク屋連合が軍備増強、マルキオ導師が演説。SEEDを持つ人間による人類の革新を提唱、か。完全にネオ・オーブに喧嘩売ってるなこれは、間違いなくその内攻めて来るだろう、恐らくアークエンジェルとエターナルと共に。ジャンク屋連合の軍事力は脅威でもないが、警戒だけはしておこう。

そろそろ生物技術系の会社をつくるか。今後はイノベーター化、新人類研究などやることが多い上に、大量のナチュラルをイノベーター化させる事も必要だろう、それには会社が必要だ。最終的にはコーデイネーター、イノベーター、ニュータイプの数と同じくらいが好ましい。ま、それは数十年後の話だ。

シン・アスカの除隊申請書は提出されたが未だ承認されていない、担当の管理人が事故で重症なため後任の引き継ぎに時間がかかるそうだ。それでも一人だけなら直ぐに処理できるがシン以外にも除隊申請者がいる、つまり順番待ちの状態だ。うお！担当者を事故らせたのか、どんだけ必死なんだデュランダル。だが時間稼ぎのつもりか？ここまでならセーフだが時間がかかり過ぎると抗議するか、食料輸送停止と共に。あつ、これZ A F Tに流そう。

ソロモンの最終改造を開始させよう。CCを増加、ボソンジャンプシステム改造、最悪の場合異世界へ転移する。ソロモンの戦艦（プロレマイオス）を強化しグラビティブラストを装備、ツインGNドライブも装備し単独戦闘可能にする。トールラスと二小隊を

強化。準備し過ぎることはないからな。

後は、ロゴスと繋ぎを付ける事だ。

S I D E O U T

ブレイク・ザ・ワールド（ユニウスセブン落下事件）とコーディネーターによる世界同時多発テロで反コーディネーター感情が上昇した所で地球連合はプラントがへ宣戦布告。それに伴いネオ・オーブ、スカンジナビア王国、赤道連合によって構成されたP U (P e a c e U n i o n) が設立された。これにより世界は三つの大勢力が出来た。ネオ・オーブを盟主としたP U、プラントと大洋州連合の同盟、「世界安全保障条約」を締結した国家群の三つであり、ソロモンとサハク専用機を除けば軍事力は同じくらいだ。

戦争の早期終結のため連合はクルセイダースによる核攻撃を実施したが、ニュートロンスタンピーダーを展開したZ A F T に阻止される。

プラントが積極的自衛権の行使を決定、降下作戦「オペレーション・スピア・オブ・トワイライト」を発動。

カガリ・ユラ・アスハとユウナ・ロマ・セイランの結婚式で新婦がフリーダムにより拉致された。オーブはフリーダム及びアークエンジェルを世界範囲で指名手配、「最悪のテロリスト」と評価した。この事件によりオーブ政府の権威が著しく損なわれ経済崩壊の開始に繋がった。

シンを除くアスカ一家が先にネオ・オーブへ移民、両親はC・Bへ入社。

アスラン・ザラがZ A F Tに復帰、ミネルバと共に行動する。Z A F Tの連合軍攻略は順調、シン・アスカが乗るインパルスがガイアを撃破。

アークエンジェルが戦場へ武力介入。両陣営損害が多数発生。

S I D E ウナト

私は何と言う勘違いをしていたんだ、カガリはオーブを滅ぼす為に帰ってきたのか！ユウナには悪いことをした。不本意な相手なのに笑顔で式に出てくれた。しかしあのガキはオーブよりも自分の感情を優先しただと！巫山戯るな！いつもオーブの理念と言いながら肝心な時は逃げるとは、ノーブレスオブリージュを知らんのか!!

最早オーブは駄目だ、ロゴスの支援でも立て直すのは不可能。だが、国民を救う方法はまだ有る。禁じ手で、幾度も検討したが、アスハを信じて実行しなかった。それがこの様とはな、私の人を見る目も衰えたものだ。さて、これが最後の仕事になるかもしれない

ん。ユウナは巻き込めんな、私一人で全てを背負うことにしよう。

SIDE OUT

オーブで大規模な掃除が始まった。対象は主に氏族、特にアスハを信奉する者、選民思想が強い者は徹底的に排除された。ウナトが警察、諜報機関、軍を使って過半数の氏族を国外追放した。これにユウナが諫めようとしたが面会拒絶された。この事実はオーブ諜報機関が全力をもって隠蔽している、その努力のお陰でしばらくの間はサハクさえも隠し通せた。情報隠蔽が限界に来たとき、ウナトは全世界に対し最後の宣言をする。

「我が国オーブは、ネオ・オーブの管理下に入る事を宣言する！」

ウナト・エマ・セイランの政治生命が此処で終わった。

オーブから旧オーブへ

ウナトの突然の宣言に全世界が混乱した。ネオ・オーブ政府はいち早く了承を決議、宣言の6時間後にこの決議を宣言した。元々一つの国だったし、苦しんでいる同胞を助ける為に犠牲になったウナト宰相にも感動させられた。それに地球に国土を持つ事は経済的に利益がある、防衛任務も重くなるがネオ・オーブの実力なら問題ない。オーブが経済崩壊の崖っぷち状態のため素早く処理しなければならない、よってロイ・サハクの派遣を決定する。

ロイは準備を完了した船の上で命令を受け、即座に出発する、十分な戦力と共に。同行者は護衛のステラ・R・サハクとロンド・ギナ・サハク准将である。

ロイ達はオーブに着いた時、迎えに出たのはユウナだった。ウナトが反対する人間を排除したので受け入れは順調だった、しかしウナトは狂ったと見られて幽閉されている。残った政治家達は分かっている、オーブ国民を救う方法はこれしか無いと、ウナトを軟禁したのは排除された者達の復讐から逃れるためだと。

ロイは到着すると直ぐに緊急会議を開いた、今は無駄に出来る時間はない。

「まず、賢明な判断を下した皆さんに感謝する。ネオ・オーブ政府から旧オーブ市の臨時市長に任命されたロイ・サハクだ、何か異議は？」

全員異議など無い、今は一刻も早く動かなければならない。彼らはこの神童に期待する。

「では、ネオ・オーブ政府の決議を宣言する。オーブは国家主権を没収、旧オーブ市とする。憲法に従い氏族特権を剥奪するが、政治体制の改変は後回しだ。旧オーブ市の状況を簡単に説明してくれ。」

宰相代行のユウナが立ち上がる。

「経済崩壊が始まり、株価が暴落しています。災害と相まって状況は最悪です。それと連合軍総司令部から出撃要請が来しました。今最も解決せねばならないのはこの二つです。」

条約はまだ破棄していない、今直ぐ連合との関係を悪化させれば経済回復は更に難しくなる。ロイは即座に決断する。

「経済問題で出撃は不可能と返答しろ、その代わり空母タケミカズチの売却をする」

「!!!」

会議室に衝撃が走った、オーブ最大の船、唯一の空母を売却すると言うのだ。だが確

かに問題はない。これからはサハクの強力な兵器を使うことになるし、誠意も充分見せられる。

「経済についてだが、まずモルゲンレーテの国营を終了する。」

モルゲンレーテはオーブ国营であり、オーブの国防産業を独占してきた。技術力は高いが管理問題が大きい。国家予算の無駄使い、横領が多発している。その極みがアカツキだ、アストレイ数十機分の予算をアスハが私用し会計を誤魔化した。ヤタノカガミは素晴らしいが、アカツキの性能では高すぎる買い物だった。これで予算の無駄使いはかなり減ったが経済回復には至らない。

「そして国家プロジェクトとしてカグヤのマスドライバーを再建する」

「「おっー！」」

マスドライバーは高い、それはもうコロニーなんかよりも。嘗て地上に大規模なマスドライバーはカオシユン、ビクトリア、パナマ、そしてカグヤにしかなかった。前大戦で二つが破壊され再建はされていない。それは余りにも高かったからだ。嘗てのパナマのマスドライバーは大西洋連邦と南アメリカ共和国が共同で建設し、ビクトリアのマスドライバーはユーラシア連邦と南アフリカ統一機構が共同で建設した。オーブのマスドライバーは単独で建設したが、総力を上げて20年以上かかった。この巨大プロジェクトは旧オーブ市の混乱を吹き飛ばす程のインパクトがある。そしてPUにも独

自のマスドライバーが必要だ、経済のための無駄な出費でもない。

「真ですか!？」

ネオ・オープが協力するだけでこうも違うのだ。このマスドライバーは将来旧オープ市に莫大な利益を出すだろう、そしてこれで投資も増える。

「ああ、大統領、議会も承認した。関連資料は直ぐに渡す、早速動いてくれ。だが軍事関係者は残つてくれ」

この言葉を聞いて経済関係者が動き出した、絶望的な表情は希望溢れた表情に変わっている。

「ロンド・ギナ・サハクを旧オープ市軍隊の臨時副司令とする、派遣軍を組み入れた防衛体制を確立してくれ、総司令は私だ」

この言葉に懐疑的な視線を向ける者が多い。目の前の子供に軍事指揮ができると思えないからだ、オープ防衛戦の二の舞は勘弁したい。此処でギナが助け舟をだす。

「賛成だ、市長の指揮能力は我よりも高い。我ら姉弟の指揮は市長から学んだものだ」

ロンド姉弟の指揮能力の高さは有名だ。特にオープ防衛戦時のミナは北部を完璧に守りきった。彼らを教えた者なら異議などあるはずがない。

「了解!」

全員がロイに敬礼する。

ロイ・サハクの迅速かつ適切な指揮で経済は回復を通り越し好景気になる。その後、旧オーブ市は「世界安全保障条約」を破棄、完全にネオ・オーブに組み込まれる。当初は不満な市民も居たが、経済を迅速に回復させたロイ・サハクの手腕は奇跡的で、前よりいい生活を暮らせるとなると不満など有るはずもない。なお、旧オーブ市でのロイの政治行動は後に大学の教書に組み込まれた。

ユウナ・ロマ・セイランはロイの補佐としてネオ・オーブの政治を学んでいる。ロイは何時までここに居る訳にはいかない、引継ぎとしてユウナが初代旧オーブ市長に任命される。事態が完全に回復してから改めて選挙をすることになっている。

ウナト・エマ・セイランは旧オーブ市に居ては危険だと考え、コロニーへ移住する事になる。そして政治の表舞台から姿を消した。

シンプルイズベスト

内政は大体指示を出したが軍の増強もしなければならぬ。旧オーブ市は大西洋連邦に近い、あんな薄っぺらな防衛ではだめだ。しかし、これについて考えるべきロイはそれをやめた。経済回復の為に既に一週間寝ていない、疲労の限界に達したのだ。故に、自重をやめて、シンプルに強化することにした。

1. 無汚染の新型陽電子砲を多数配備、陽電子リフレクターとビームシールドを囲うように設置する。

2. 対空用大型拡散ビーム砲「クーベルメ」を多数設置、各部の高さを調整することで方向変換出来るようにする。(参考:MS IGLOO、ゼーゴックの装備)

3. VF17を導入する、だが他の改造が終わるまでムラサメは破棄しない。

4. C・Bとモルゲンレーテでズゴック、ハイゴックを共同開発させ水中用に作る。

5. エネルギー確保の為に大型核融合発電施設を建設する。

6. ラー・カイラムを地上に回し、二番艦をソロモンで建造する。

指示を出すところロイは幸せに眠った、何気にステラと同じ部屋だった。

元オーブ軍が反乱を……起こさなかつた。まず、氏族の士官が殆どいなくなり、叩き上げの士官が増えた。嘗て特権を持たない人達は昇進のチャンスに喜び、昇進の為に己の仕事に励んだ。彼らはアスハかサハクかと言う政治なんかよりも家族や国民の生活を守れるかどうか大事であり、ロイ・サハクの仕事には満足している。極少数のアスハ支持者はこの状況を見て反乱を諦めた。ソガ一佐を初めに軍をやめる者もあつたが普通に許可された、軍内部で邪魔されるよりマシだ。

その後、政府は前政府の大きな不用途金の行き先を発表し、国民はこれに激怒した。一番問題になつたのはフリーダム、アークエンジェルの修繕、改造である。まずフリーダム、アークエンジェルは前大戦両勢力の最新鋭兵器であり修復と改善には莫大な金が必要、しかしこれら国家予算を使いながらオーブ軍に組み込まれなかつた。更にアークエンジェルには温泉なんて巫山戯た物まであり、「国家予算をなんだと考えてるんだ！」と叫びたくなる。これらは全てカガリ・ユラ・アスハの押し切つた物である。続いてアークエンジェルとカガリ・ユラ・アスハの関係を公表、代表は攫われたが自分の意志でもある事を教える。貴族義務を放棄し、私軍を連れて逃げたカガリに帰る場所は無い。

アークエンジェルにて主要人物が集まって会議をしている。

「ターミナルからの情報です！」

ミリアリアが情報を出す。中にはユニウスセブンの戦闘映像、旧オーブ市の軍強化計画書などもある。だが、テロリストの支援者や新MS開発計画の情報はない。実際ターミナルの諜報能力は高くない、予算が国のそれと比べにならないからだ。しかし特殊なコネで貴重な情報を得る時もある、今回の情報も内通者から得た物だ。

「これは、ユニウスセブンの戦闘映像ね」

マリユール・ラミアスが一応言う。

「これではネオ・オーブの一人勝ちですわ」

元プラント市民としてZ A F T兵の死亡に少し顔を顰めるラクス。

「連合、プラント共に損害があるがネオ・オーブは損害無しで名を上げてるぞ」

サハク嫌いなカガリが偏った見解を述べる。

「ナイトメアがかなり多いね」

キラが見たものをそのまま言う。

「Z A F Tに見せ掛けたネオ・オーブの謀略じゃないでしょうか？」

観終えたラクスが考えてみた。

「そうに決まっている！」「可能性は充分あるわね」「そう…かも」

不思議！こんな結論になっちゃう。

結論は出たと考えてマリユールが話を切り替える。

「それで、オーブが軍備を増強するんですって？」

「うん、陽電子砲を多数設置するみたい」

「なに!?!それではオーブは汚染されるじゃないか!」

「しかし強力なのは確かですわ。これらが完成するとオーブは完全にサハクに乗っ取られますわ」

「そんな!?!ならば早く帰らないと!」

「問題はロイ・サハクね。キラ君、勝てる?」

全員がキラを見る。

「勝つよ、この戦いは負ける訳にはいかないからね」

「私も手伝いますわ、キラ」

「ありがとう、ラクス」

「ふふつ、じゃあその時のC I Cはラクスさんにしましょう。カガリさんは?」

「私はストライクルージュで出る、軍はソガ一佐が指揮している、彼なら味方になってくれる筈だ」

全員の顔は希望に満ち溢れてる、敵の強さも知らずに。

同時刻、ロイは一つの情報を得て歓喜していた。

「くくくくくつ、とうとう辿り着いたぞ、レクイエム」

そう、ネオ・オーブ諜報部は連合の最高機密、軌道間全方位戦略砲レクイエムの情報を手に入れた。それもロイの原作知識のような曖昧な物でなく、稼働原理、建造スケジュールなど詳細な物だ。ロイは大統領へ機密回線とある提案をする。フールド通信でソロモンを経由し首都へ量子通信を使うので情報漏れの心配がない。フィリップ・ジャツカはその考えに戦慄すると共に感心した。ロイが提案したプランは連合、Z AFT両方とも肩入れせず共に大打撃を与え、更に倫理的にも最善なプランだ。即答と共に諜報部に最優先で実行させた。

ネオ・オーブは祝福されている、それが天使か悪魔かは分からないが。

戦う者には揺るぎ無い信念が要る

SIDE ロイ

アークエンジェルが襲ってきた、ジャンク屋連合も船をかなり出してきた。いつも通り情報は完璧で準備も問題ない。経済が回復途中なので圧倒的に勝利しないとマズイ、じゃないとまた混乱する。そこんとこどうよ？つてあのバカに聞いてみたい。

ん？通信？敵旗艦から？

『君がロイ・サハクか』

あれ？この盲目の男……

『私はマルキオと言うものだ、どうしても君と話がしたくてね』

こいつバカだ!!!連合外交官なのにネオ・オーブ内戦に介入しやがった！PU参加国はジャンク屋連合の特権なんぞ認めてないし、どうするつもりなんだよこいつ。

「なにか？」

取り敢えず答えてみるか。

『君はなんのため戦っている？』

イキナリだな。

「国家利益」

『ネオ・オーブか、私はあの国がただ暴走しているように思える』

「へー」

どうでもいい。

『特にあのコロニー、あえて旧式を使うなど正気とは思えない』

私はお前が正気とは思えない。あれは見た目以外、全部プラントコロニーより二世代は進んでるし。

「ただのコーディネーターが設計したコロニーが私のよりも優れていると思っているのか？」

『自信があるのはいいが、過信は身を滅ぼすぞ』

「貴様の命で確かめてみようか？」

『そしてありもしない進化の方向で世界を騙している』

脈絡がねえ。

「貴様何しに来たんだ？」

そんなもん今直ぐ証明できるし。

『嘗て私が言ったように、人類はSEEDを持つ者に導かれ、進化するべきだ』

オーブはあのバカに導かれて経済崩壊したぞ。

「奴らは導く者じゃない、頭のネジが緩みきった者がリミッターを外して調子にのっているだけだ」

『傲慢だな』

お前が言うな。

『君たちは直ぐにオーブを明け渡しなさい、さもなければ宇宙でも容赦しない』

こいつもしかしてとんでもなく軍事に疎い？どこから突っ込めばいいか分からない。いつの間につツコミ役になったんだ、私？

「時間の無駄だな、貴様はここで死ね!!」

つてえ？

また通信？おい、コレは…

SIDE OUT

話が終わっても両方共動かなかった。アークエンジェルからはストライクルージュが発信され演説している。

『私はオーブ連合首長国代表のカガリ・ユラ・アスハだ、そいつを捕らえろ!』

ぶっちゃけ誰も聞いていない。最強のMSパイロットで優秀な指揮官のロイは軍人に信頼されていて、極少数のアスハ支持者は除隊か排除している。大多数はこの自分勝手な言い方にイライラしている。その中、ロイは有り得ない通信を受けていた。

『降伏するので、身の安全を保障してほしい』

相手はサーペントテールの叢雲劾だった。

「いいのか？ 戦闘はまだ始まってすらいらないぞ」

『私ではお前に勝てない』

「つまりお前とフリーダムで私の相手をするつもりだったのか」

『ああ、正直この仕事を受けたのは失敗だった』

「傭兵として大丈夫なのか？」

『命の危機が有れば逃げていいとの契約だ、元々乗り気じゃなかったんだがな。お前ならオレを瞬殺する事くらい出来るだろう』

「では、武装解除してMSをポイントK-23にロックしろ。そのままお前は基地に行け、話は付けておく」

『感謝する』

期待のサーペントテールは戦闘前に投降、マルキオのプランは開始する前に崩れた。カガリは演説に疲れてブチ切れた。

『ロイ、お前オーブ軍に何をした!?!』

付き合いきれんと言わんばかりにアマツがストライクルージュに向かって飛ぶ。フリーダムが介入する。アマツとフリーダムが戦い、ムラサメも出動する。一方ジャンク

屋連合には空戦MSが殆ど無い、対空兵器で応戦するも苦戦する。サーペントテールは通信途絶、オーブ軍の援護も無し、フリーダムはアマツと戦闘中、開戦して直ぐに大ピンチだ。

『僕たちは、戦争を止めたいだけなんだ！』

「無理やりか？」

『それでも戦争はしちやいけないんだ！』

「それが人の思いを踏み躪っている事を知らんのか？」

『それでも！』

「戦う権利を奪われた者は自分で動く、ユニウスセブントロの様に！そうさせたのは貴様らだ！」

『……』

「神にでもなったつもりか？あの導師の言葉でも信じたか？世界は貴様らの導きなんぞ必要ない！」

『違う、僕たちはただ戦争を』

「世界は人々が傷つけあいながら前進する物だ、考えを押し付ける英雄は要らないんだよー。」

『戦争は悲しみを生む、それでもいいって言うのか？』

「戦争が悪だと誰が言った。お互いにエゴをぶつけ合い、優れたほうが勝つ。歴史はそうやって造られてきた」

『犠牲になる者はどうでもいいって言うのか?』

「では人の意志を無視するか?最愛の人を殺され、撃った奴がのうのうと生きているのに我慢しろと言えるのか?絶望した者達に!」

『くっ!』

「まあいい、此処で進化を教えてやる」

ロイがトランザムバーストを起動し、戦場の人々の意志が感応し合う。それに伴いアマツから大量の粒子が放出され、通常通信が不可能になった。これには敵味方関係なく混乱した。

「勇敢なるネオ・オーブの将兵達よ。コレが進化の一つ、イノベーターの通信能力だ。」

ロイが精神から強く語りかける。

「私はイノベーターでは無いが擬似的に発生させることは出来る。」

語りながら戦う、フリーダムは応戦するも戸惑っているようだ。

「我々は自らの進化で前進する、奴らの言う導きなど不要だ!」

性能差がありすぎた。ついにフリーダムがマガノイクタチの先端に挟まれる。

「これは貰って行くぞ」

システムを乗っ取り、コクピットを射出させた。トランザムバーストを切って空に盛大にバスターライフルを撃つ。ネオ・オーブ兵は士気を上げ敵を駆逐していく、ステラの出番がないまま敵は敗走した。なお、アークエンジェルとマルキオはロイの思惑でまた見逃された。

三人目の犠牲者..... か？

この戦いでの収穫は多かった。まずフリーダム、元Z A F T最新鋭M Sは貴重だ。フリーダムはアカツキと共にコロニーのC・B本社へ送り、最高の改造を依頼した。技術部は狂喜した。C・Bではワンオフ機を造った事が無いのだ。今ある専用機は全て口イがソロモンで作ったものでありC・Bは特機製造のチャンスが無かった。それに量を考えて最新技術や優秀なネオ・オーブ諜報部から得た他勢力の最新技術も使い道がなかった。今回は改造とは言え外見さえ変え過ぎなければ良いと言われ、更にコストは考えなくてもいいとロイ・サハクが指示した。これでチート無しの世界最強機が誕生するであろう。

サーペントテールは戦鬪前で降伏したので傭兵である事も考えて開放した。彼らの証言と提供された証拠でジャンク屋連合を撃つ名分も出来た。その後ロイに「サハクに雇われない？」と言われ、叢雲劾、風花・アジャー、リード・ウエラーの三人で交渉に挑む。二時間後、何故かサーペントテール全員がネオ・オーブ軍に入ること了承していた。何があったんだろう？意外と待遇もいいので誰も後悔はしなかったが。詳しくは叢雲劎―ミナ直属、イライジャ・キール―旧オーブ市防衛隊、ロレッタ・アジャー―

旧オーブ市参謀部、風花・アジャー―旧オーブ市小学校、リード・ウエラー―旧オーブ市諜報部。

S I D E ジブリール

なにやつとんじやあの坊主があああ!!!

ちよつと戦力有るからつて調子に乗り過ぎじやボケエ!!なにが「容赦しない」だ。サハクが容赦しなかつたら連合がねーよ。

そもそもあのボケを外交官にしたのが失敗だった。だれだよ推薦したの?取り敢えずクビにしないと。あいつ軍の事分からんのにやたら軍事力確保がうまい。これは口ゴスでも庇い切れんぞ、どうやって機嫌を取るつもりだ。幸い正規軍が攻撃した訳ではないので連合には抗議に留まっている、だが処理を間違えれば滅びへ一直線だ。しかもあのサーペントテールを吸収したとか、恐るべしロイ・サハク。

む?なんだこの映像は?

『ジブリール様、アメノミハシラがジャンク屋連合の侵攻を受けたようです』

え?マジ?またあの洗脳師?つかこれリアルタイム映像?

まてまてまてまて超待つてえええええ

地上だけでもえらい大変なのに宇宙でも侵攻するなYO!!!

だからまてまてまてノー――――

.....

.....

.....

.....

.....

はは、やっちまったよ。抗議されてるのにやっちやったZE。

マジどうしよう。

『あゝジブリール、大丈夫か?』

「ロイか、ついに連合を滅ぼすのか?」

『いやいや落ち着けジブリール、こっちに損害はないんだ、落しどころは見つけられる』

「大統領は納得するのか?」

『実情知ってるから大丈夫だ』

「そうか、今度はどれくらい支払えばいい?」

『今回は使った軍費だけでいい、死傷者も居ないしな』

「は?」

確かにネオ・オーブ宇宙軍は圧倒だったな、VF17売ってくれないかな。

『その代わり幾つか条件がある、大統領も了承済みだ』

「なんだ？」

こつちの方がヤバイ気がする。

『まずは謝罪だ、公開でな』

それは当然だな。

『次に宣伝だ。マルキオ導師とカガリ・ユラ・アスハは戦争に中立国を巻き込もうとした、と。』

行動を見ればそうとも取れるな。

『そしてそれを理由にアークエンジェルとカガリ・ユラ・アスハの指名手配だ』
怖っ！とことん潰す気だこいつ。

『それとこれを少し色を付けて買ってくれ』

MVF—M12A オオツキガタ、性能は悪くないな。

「どれくらい有るんだ？」

『45機だ』

「いいだろう」

『それとジャンク屋連合潰すので利権者どもを黙らせる』

「今回の件で自ずと黙るだろう」

『最後に東アジア共和国と南アメリカ合衆国の利権の一部をよこせ』

む、これが本命か。

「……いいだろう。具体的な内容はネオ・オーブ政府と交渉する、でいいか？」

『問題ない』

これで済むなら御の字だ。

「感謝するぞ」

『なに、これが国に取って一番利益があるからにすぎない』

「くくく、そうか、相変わらず食えない奴だ」

『じゃあな。死ぬなよ、ジブリール』

はあ、助かった。

あいつに裏が無い訳がない、恐らく今連合に負けられたら困るんだろう。

どうもあいつの掌の上で踊ってるような気がする。……仕事するか。

S I D E O U T

コロニーの生産力を使い、旧オーブ市は迅速に防衛兵器を配置した。水中用MSは生産がようやく始まった。ソロモンなしでは流石に同時生産は無理だった。C・Bの特機の方はまだ時間がかかるようだ。だがこの件で活発になったマッド達がとんでも無い物を作り出した。水中でのコロイド粒子操作技術が完成してしまい、水中ミラージュコロイドが出来てしまった。マッド共はズゴックを簡易化し隠密性を強化した改造タ

イブを作り出した。つまりどう見てもアツガイとしか見えないMSが出来てしまった、なんとなくロイは強引にこれの名前をアツガイに変えた。水中ミラージュコロイド搭載すると隠密性がすごい、バッテリーを使えば音も小さい、更にアクティブステルス付けたら連合とプラントにはどうしようもないだろう。これにスカンジナビア王国と赤道連合が飛びついた。ロイはマッド達にボーナズと更なる予算を渡した、国益に合うならこれくらい問題ない。ちなみにPUではC・B産のミラージュコロイドに対応したセンサーが使われてる。何故か連合とプラントでは開発していない。

先の戦争の精神感應は各国を震撼させたが、各国政府は正式発表があるまでは判断を保留すると決めた。しかし民間ではすでに真実だと受け入れられている。サハクの支持者はまだ増える。

事態が安定したのでロイはギナと効をコロニーに行かせた。ギナは総司令部での仕事があるし、二機の内一機を効の専用機に調整する為、効はC・Bに出向した。後の事を考えて、ジャンク屋連合はまだ潰していない。

マリア・スカンジナビアが旧オーブ市に来た。ロイはこれ幸いと秘書をやってもらった。武のステラと文のマリアはロイの大きな助けとなる。

旧オーブ市は安定し、今度は西ユーラシアで政変が起こった。世界は更に混乱してい

もつとすごい者がいた

SIDE ロイ

さて、目の前には脱走してきたシン・アスカとメイリン・ホークが居る。シンはまだいい、戻ってくると思っていたから処置は考えてある。しかし、メイリン・ホークは考えていなかった、てっきりまたアスランの手助けをしようと思った。ああ、アスランは脱走する気無くなるな、エンジェルダウンは実行されないだろうし。

「シン・アスカはこのままネオ・オーブに行つて家族と会つてこい、その後軍に入るかどうか聞く、Z A F Tとの問題はこちらで片付けておこう」

「あ、ありがとうございます！」

やはり、家族が一番か。

「それで、メイリン・ホーク。お前はどうしたい？」

「え、あたし？ その……」

「考えていなかったのか……まあいい、安全な住居を準備しよう。一週間位考えてくれ。どうしても考えつかないならネオ・オーブで戸籍を用意しよう。いいもの貰ったしな」

「分かりました」

SIDE OUT

シンは除隊申請が中々認められないと見ると脱走を決意した。中々アグレッツシブである。一方、メイリンはブレイク・ザ・ワールドの時のロイの言葉でデュランダルを疑う。そして持ち前のハッキングスキルで証拠を掴んでしまった。デュランダルが怖くなったメイリンはルナマリアに相談するもルナマリアは信じなかった。いくら自分の妹でも単独でプラントメインコンピュータにハッキング出来るとは思わなかったからだ。メイリンの掴んだ情報はダミーだと主張するがメイリンは納得できなかった。シンはそれをルナマリアから聞いて脱走にメイリンを誘った。メイリンが基地システムを騙し、シンがV T O Lを操縦する、中々いいコンビである。システムに問題を発見した時、V T O Lは既に追撃不能な位置にいた。その後旧オーブ市に到着し、ロイに説明と証拠データを渡した。そして冒頭に戻る。

西ユーラシアはZ A F Tと戦う連合を後ろから撃つことになってしまい、連合から容赦ない復讐を受けた。それは軍人だけでなく、政変を支持した民間人にも及ぶ。さらにゲリラやZ A F Tまで介入し、混沌に包まれる。これに連合はデストロイを投入、避難勧告を行った後全てをなぎ払う。これを見てデュランダルはミネルバを投入、デストロイはハイネ・ヴェステンフルスとアスラン・ザラの尽力で何とか倒した。

ネオ・オーブはこの期間で水中用M Sを配備完了。シン・アスカがネオ・オーブ軍入

隊を決定し、ミナの直属となった。そしてC、Bで改造中の二機目のパイロットとなる。シンは復讐心が無くなったことにより無茶をしなくなった。いい傾向だがこれでは成長が遅い。ミネルバでの戦績を見たロイはミナと効にシンを鍛えさせた。それはもうスパルタだった。そしてメイリンはマリアと意気投合して彼女の補佐になった。元々マリアには機密内容は扱わせてないから問題はない。

デュランダルがロゴスを戦争の暗躍者として発表し、幹部の情報を公開した。何故か信じた民衆はロゴス幹部の所有する施設を片っ端から襲撃した。幹部のブルーノ・アズラエル、ラリー・マクウィリアムズ、アルヴィン・リッター、ルクス・コーラー、ロド・ジブリールはアイスランドの地球連合軍最高司令部へブンズベースに逃げこみ、私刑を免れた。

そこに大西洋連邦大統領のジョゼフ・コーブランドはあり得ない判断を下した。ZAF Tと共にロゴスを倒すと宣言したのだ。そして東アジア共和国と幾つかの連合地域もそれに同調した。地球連合は二分化する。

S I D E ロイ

どつから突っ込めばいいのか分からない。

ジョゼフ・コーブランドがロゴスを嫌ってたのは分かるが敵と組んで自国民を撃つてのはどうよ？民衆もなんで敵対国元首の言葉をああもあつさり信じられるんだろう

?やはり政府が否定しなかったからか?

しかしジョゼフ・コーブランドもバカだったとは。ロゴス幹部は皆超大物経営者だ。全員死んだら連合の経済は終わるんじゃないか?穏健派で戦争が嫌だからってパトロンを消すつてのは短慮過ぎるだろう。そもそもだ、ジブリールはともかく、この戦争の最大目的はプラントの奪還だ。それを放棄してどうする。戦争の目的を忘れた軍隊なんて初めて見たぞ。

まあいいや。取り敢えず、ヘブンズベースは戦力差もあつて落とされるだろう。ロゴス幹部も後五人しか居ないのか、救出準備をしないと。それとスカンジナビア王国と赤道連合へ爆撃機と爆弾の輸出も始めよう。アツガイも輸出していいな、PU内部なら問題は無い。

SIDE OUT

シンが居なくなつた事により、デステイニーはアスラン・ザラが乗ることになった。エンジェルダウンが実行されなかつたので離反していかない。デステイニーはシンに合わせて調整されたのでアスランでは完全に性能を発揮出来ないと思われる。アークエンジェルはメガフロートのマスドライバーを使って宇宙に上がった。

そしてラー・カイラム二番艦がロールアウトし、人員の配備と訓練が始まった。

デュランダルの限界は近い

ヘブンズベースの連合は頑張っていた。対空掃討砲ニーベルングでZAF T降下部隊を消滅させ、多数のデストロイと新型MAユークリッドを投入する。史実ではシンがぶち切れてデストロイを壊滅に追いやったが今はそうはいかない。デステイニーはパイロット問題で十全に力を発揮できず、またアスラン・ザラも連合よりも色々大変なアークエンジェルの方が気になる。そしてロイが極秘裏に旧式のローエン格林をジブリールに売却したのも一つの原因だ。兵力では対ロゴス同盟軍が圧倒しているが地球連合最高司令部だけあって防御力は高い。しかしこのままでも物量の差で対ロゴス同盟軍が勝つだろう。

一方、ロイはこの間に旧オーブ市の基地を更に強化する。そして数カ月後に実施する作戦を赤道連合とスカンジナビア王国に提案し、両国は国益ありと見て了承。穏健派もリスク以上の莫大な利益があり、何より大義名分があったので反対できなかつた。

ヘブンズベースは二週間で落ちたがロゴス幹部は全員ロイの条件を飲み込み、旧オーブ市に逃げ込んだ。ロイの出した条件は財産の半分とユーラシア連合の大多数の利権だが命には替えられない。デュランダルの謀略により同盟軍の元連合の部隊を前面に

押し出したので損害は比較的少ない、それでも史実より多いが。

ジブラルタルにて。

「これでまた世界は平和に近づいた。(シンが居なかったせいで損害が半端ねえ)」

「はい、議長。連合最高司令部が落ちたことによって、他のロゴス軍も動きを制限される筈です」

「それに我が軍の損害は少ない(アスラン使えね)」

「ロゴス幹部は逃げられましたけど只今全力を持って搜索しています」

「どこに逃げても平和を求める力には勝てないのだよ(最近胃薬の回数もへってきたな)」

「仰る通りです、あ！幹部の居場所が分かったようです！」

「ほう？(運が向いてきたか?)」

「旧オーブ市です」

「(なんだだああああああああああ?!) ………………そうか」

通常、第三国に逃げた者を追ってその国に戦争を仕掛けるのは有り得ないが、デュランダルがこのチャンスをつまみと将来必然的に連合に潰される。ロゴスを攻撃できないとなると同盟は即座に破棄されるであろう、人口問題を抱えたプラントが連合と戦い続けると勝ち目は無い。しかしサハクの実力を他人よりよく知っているデュランダ

ルにPU、特にネオ・オーブを攻撃するなど恐れ多い決断など猛烈に下したくない。順調に勝ってきたのに一瞬で窮地に陥った。かなり哀れだった。最終的に一縷の望みを賭けてネオ・オーブへ攻撃する事を決定した。デュランダルは大義名分も有るから内部分裂させるなど非正規戦争で挑もうとした。

S I D E 赤道連合

「総司令、これが政府から送られてきた作戦です」

「ふむ……………哀れな」

「は？政治家どもがですか？」

「いや、Z A F Tだ。この作戦の立案者はあのロイ・サハクだ」

「なんですと!？」

「それにほぼ損害を出さずに実行できる。前のネオ・オーブの輸出品もこれのためである」

「しかし、それでは我が国は…」

「簡単にしか記されてないがわしでも分かるほどの莫大な利益がある、ネオ・オーブの思惑に乗ってやってもいいだろう」

「はあ、そんなに大きんですか、その利益って物が」

「ああ、詳しくは言えんが赤道連合が半世紀頑張っても手に入らん物だ」

「そんなに!？」

「それに今ネオ・オーブの不興をかってもいい事ないだろう?」

「確かに生産権はもらってますがMSは彼らの提供でしたね」

「恩返しには丁度いい」

SIDE OUT

反ロゴス同盟軍は旧オーブ市に近づいてる。指揮はネオ・オーブから呼んだ者に任せてロイとステラは出撃する。マリア、メイリンなどは避難している。ラー・カイラムはミナ、シン、効などを乗せて作戦に参加するのでコロニーから出発した。以降、ギナが二番艦を使って宇宙の防衛を担当する。

フリーダムとアカツキはマツド達に容赦なく改造された。ピンポイントバリア、アクティブステルス、ハイパーデュートリオン、光圧推進、VPS、フェイルセーフ機構などなど。自重を忘れた者達が敵味方区別なく最高の技術を使って改造した。初期はパイロットが見つかるか?とか考えたらしいがシンと効が配属になった事で解決した。二人共トップエースである。

そして反ロゴス連合軍がオノゴロ島に着いた。赤道連合からはやや遅れて増援艦隊が出撃する。

アマテラス（元フリーダム）

パイロット：シン・アスカ

説明：世界中の最新技術をコスト無視で使っている。見た目は元のフリーダムとデザインニーを足して割った感じ。総合性能はストライクフリーダムより高い。高機動力、大火力、大型近接武装を持ちハデな戦い方をするMSである。

光圧推進システム：ヴォワチュール・リユミエールの応用、後部のウイングユニットを使つて高速移動する。なおウイングユニットはヤタノカガミを装甲にしている。

ミラーージュコロイド：ステルス機能と幻影機能。デザインニーよりコロイド粒子の放出範囲が断然広いのでその気になれば一個中隊のアマテラスが襲ってくるような幻影が見せられる。

ピンポイントバリア：重要機関を保護するためにバリアを展開する。

複合フィールド発生装置：機体を包む陽電子リフレクトフィールドとビームフィールドを同時発生させることが出来る。実弾もビームも怖くない。

VPS：近接戦闘用です。

武装：

近接防御ビームバルカン*2：頭に付いてる小さな奴です。

アロンダイトビームソード：別名「対艦刀」。

高エネルギー長射程ビーム砲*2：背部ウイング内に装備しており。使うときは肩から発射する。

クスイファイアス3レール砲*2：腰のあれ。

胸部スーパースキュラ：大出力のビーム砲です。

ビームライフル*2

ハウメア（アカツキ）

パイロット：叢雲効

説明：世界中の最新技術をコスト無視で使っている。見た目は元のアカツキとアマツを足して割った感じ。もちろん総合性能はストライクフリーダムより高い。高機動力、多砲門、高ステルス性で基本的に技で勝負する。

光圧推進システム：ヴォワチュール・リユミエールの応用、マガノイクタチが後ろ斜め上に向かい下に向けて光の羽を発生させる。マガノイクタチは攻撃機能が無くなった。

ミラーージュコロイド：ステルス機能と幻影機能。

アクティブステルス：ミラーージュコロイドと併用するとハンパないステルス性を発揮する。

ピンポイントバリア：重要機関を保護するためにバリアを展開する。

複合フィールド発生装置：機体を包む陽電子リフレクトフィールドとビームフィールドを同時発生させることが出来る。実弾もビームも怖くない。

VPS：近接戦闘用です。

武装：

近接防御ビームバルカン*2：頭に付いてる小さな奴です。

ビームライフル*2

双刀型ビームサーベル

ビームサーベル*2

改造ドラグーン*32：機体のあちこちにドラグーンを固定しビーム砲として使用する。ドラグーンに推進剤が不要になったことにより使用時間が通常ドラグーンより遙かに長い。

ウイングガンダムゼロカスタム

パイロット：ロンド・ミナ・サハク

説明：総合的に性能をアップした。

IFF：脳でファンネル操作する為に搭載した。

Wファンネル：ファンネルで構成された翼を装備。全部で128機有り、IFFを使っても全部操作出来ない。

ゼロシステムVer. 5. 3：Wファンネル操作補助の為に人工知能を追加した。話したりはしません。

三権分立を思い出して欲しい

ミネルバのブリッジでデュランダルは余裕の姿勢で回答を待っていた。48時間前に旧オーブ市にログス幹部引き渡しを要請したからだ。しかし内心では焦りまくっていた。

「そろそろだね（どうなってんだよ！情報が全く手に入らねえ、不気味にも程があるだろう！）」

「議長、公開通信です」

「ふむ（頼むからそのまま渡してくれ！）」

『私はネオ・オーブ、旧オーブ市の市長、ロイ・サハクだ。ログス幹部の五人は確かにここに亡命してきた。この件については大統領から一任されている。』

「……（ログスだよ！ロ・ゴ・ス！）」

『引渡しについてだが、拒否する。』

「ほう（やつぱりかあああああ！）」

『ネオ・オーブは主権国家であり、連合とプラントの指図を受けるつもりは無い。よってそちらの要求を拒否する』

「こちらも公開通信を（くそっ！ならば士気だけでも下げておかないと）」

「了解」

「プラント最高評議会議長のギルバート・デュランダルだ。そちらの回答について訪ねたいことがある」

『なんだ？』

「ロゴスは戦争を煽った存在です、ネオ・オーブはそれをかばうと仰るのですか？」

『ネオ・オーブは法治国家だ。罪を裁くのは法であって政治ではない。どこぞの軍で自国民を法の確かめもせず殺す国と違つてな。』

「……………（え？この流れって？）」

『ロゴス幹部はネオ・オーブ領内で何ら罪を犯していない、故に我が国では裁く必要もない。人権を尊重する我が国では彼らが犯罪を侵さない限り、放逐する事もない。正規の手続きも取らない連合の引渡し要求には応える必要はないし、そもそもプラントにはそれを要求する権利もない。』

「しかし、戦争を引き起こした彼らの罪は明白です（理知的すぎるだろう、大艦隊を目の前にして話すことじゃねえ！）」

『つまりちゃんと証拠があると言う事ですね？』

「え？（ねえよ！全部燃やされちまったよ！）」

『ならば私は中立国での公開裁判を提案する』

「な!?(証拠ねえんだぞ!出来るかあああ!)」

『公開裁判によつて真実を明らかにすればいいでしょう。そしてこれで更なる犠牲者を無くすことも出来ます』

「ネオ・オーブはあくまで庇うと言うのですね? (もうやだこれ、空気嫁よ!)」

『文明人らしく理知的に対応すべきと言っている』

「しかた有りませんね。Z A F Tはネオ・オーブへ宣戦します。攻撃開始です (もうどうでもいいや、やっちゃえ☆)」

宣言と共にP Uが動き出す。スカンジナビア王国と赤道連合はジブラルタルとカーペンタリアに投下したアツガイで地下発電所を破壊したのち爆撃する。

同盟軍艦隊からウインダムとグフが飛んでいくがクーベルメによつて撃ち落とされる。タイミングよくV F 17とムラサメが発進。大量の空戦M Sで同盟軍は押されるも、デュランダルはいち早くデステイニーとレジエンドを投入。同時にネオ・オーブ水中部隊が出て、ラー・カイラムの降下を開始する。同盟軍はジオグリーンとアツシュを投入するも旧世代のM Sで最新鋭のズゴックとハイゴックの相手は務まらない。更にアツガイがミラージュコロイド展開し、迂回して艦船、潜水艦を攻撃。デステイニーとレジエンドはミガンダムに足止めされている。盛大な爆撃と共にラー・カイラムが東側

に落下し、増援のVF17とウイングガンダムゼロカスタム、アマテラス、ハウメアが発進。同盟軍艦隊は横からも攻撃される。ミナが東で応戦し、シンと効が最激戦区へ向かう。アマツ発進。少数のZAF T軍MSが強行突破するもローエングリンの前では無力だった。しかも二重のバリアでは攻撃さえ通用しない。ミサイルも全てクーベルメに無力化された。完全にネオ・オーブが押し込んでいる。ネオ・オーブの専用機四つが集合し配置換えする。アマテラス対デステイニー、ハウメア対レジエンドになり、アマツと三ガンダムが敵艦を叩く。最大の問題はザクが飛べない事だ。アマツと三ガンダムが火力をもって艦船を撃沈する。空戦MSが殆ど無く、水中では押され、準備した陸戦MSは発進出来ない。デュランダルは真つ青だ。

ネオ・オーブは大規模で正規軍相手の戦争をしたことがない。それ故に「ネオ・オーブは少数だけが強い」と思っている人も多い。連勝気分浸ったZAF Tがそうだ。議長があまりにも余裕だったため完全に実力を読み間違えた。その代償は大きい。

推進システムが同じデステイニーは何とか戦えるがレジエンドはフルボッコにされている。疲れたアスランとレイでは本気を出すまでも無かった。レイが悲鳴を上げ始めた頃デュランダルはようやく撤退を指示した。追撃は激しかったが問題はそれに留まらなかった。ウイングガンダムゼロカスタム、アマツ、三ガンダムの追撃があり得ないほど長かった。推進剤なんて使っていないので三人が疲れるまでネオ・オーブの追撃は

続き、更に赤道連合から出撃した艦隊がそれを引き継いだ。特にプレツシャーがハンパなく、どうあがいても逃げ切れ無い感じがトラウマになった軍人が多数出現した。カーペンタリアに入るまで追撃は止まらず、カーペンタリアの半壊も有ってPUの恐ろしさは骨身に沁みた。だが、これはまだ宣戦したばかりであって終わったわけではない。ジブラルタルの半壊の知らせを聞いたとき、そう考えたデュランダルは倒れた。

ガンダムエピオンカスタム

パイロット：ロンド・ギナ・サハク

説明：総合的に性能をアップした。

IFF：脳でビット操作する為に搭載した。

RSビット*12：翼がライフルビットとシールドビット各六つで構成されている。ライフルビットの威力はビームライフルの倍。シールドビットはVPS装甲と陽電子リフレクターが付いている。

そうだ、開き直ればいいんだ

全世界がPUの実力に驚いてる頃、宇宙では「そんなモン知るか！」的にアミノミハシラに向かう船が二つ有る。アークエンジェルとエターナルだ。

アミノミハシラ。VF17のパイロット二人が話している。

「おい、今回は出撃なしだ」

「は？相手はあのアークエンジェルだぞ」

「少将自ら出るそうだ」

ミナとギナは色々功績があるので昇進しました。

「ギナ少将なら問題ないだろうが何故に単機？」

隣のVF25も準備をしていない。

「ああ、直属の三人はあれを操作する」

「あれって？」

「最凶の組み合わせのあれだ」

「げ!?それを直属が操作するのか!?というのかあれ使っていないのかよ？」

「相手はテロリストだからいいんじゃないの？残ったあれを此処に置いてても意味ない

し、他国軍に使うわけにもいかないだろ」

「可哀想に」

「それに奴ら戦力はMS一機だけと少将に聞いた」

「相変わらず頼もしいな、ウチの諜報部」

「そうだな、と言う訳で観戦室に行こうぜ」

「だな」

S I D E ギナ

さて、バカが来たわけだが丁度改造したエピオンを試したかった所だ。しかし、あいつらロイが居なければ勝てると思ってるのか？

『少将、敵MS出てきました』

「分かった、あれを発射させろ」

『了解』

我も出るか。

S I D E O U T

アメノミハシラからエターナルに向かって六つのミサイルが発射された。ストライクフリーダムは砲撃するも側面のブースターで回避される。このミサイルはソキウスが先行量産型量子通信機で操っている、簡単には当たらない。キラはこれを見ると接近

して撃ち落とそうとする。真正面から突っ込んでいき、ミサイルをやり過ぎてから一斉射撃で攻撃する。そしてピンクっぽい光と共に吹き飛ばされ、右手と両足が消滅する。以上、核ミサイルでした。

ソキウス+核ミサイル+量子通信と言う最凶コンボを使ったギナは容赦なく追撃する。ロイから言われてるので殺しはしない。だが逃げ出すストライクフリーダムを蹴ったり切ったりと色々やっている。帰ったら涙目物確定である。

S I D E ロイ

なんかバカがアメノミハシラにいるがどうでもいいな。

ジブリールがダイダロス行きたいとか言ってる。予定通り送ってやることにしました。地上では連合が内輪もめで戦力消耗中、Z A F Tはダメポなので近日中に宇宙に上がることにします。ユウナも大丈夫そうだし、ウナトに色々アドバイス貰ってるし、任せてもいいだろう。という訳で私、ミナ、シン、効、マリア、メイリンはブースター付けまくったラー・カイラムで上がる。ジブリールは別便です。

地上では両方共戦力がほぼ無くなった。後は宇宙だ。

S I D E O U T

S I D E デュランダル

どうくうくしくよくくうくかなく？かなく？かなく？

「ギル、しっかりしなさい！」

「はっ！……済まないね、タリア」

「大丈夫？」

「議長やめたい」

「冗談言わないで。あなた以外に何とか出来る人は居ないでしょう？」

「そうだね」

なんか悟りを開いた気がする。Dプランなんてほっといてタリアとレイとで静かに暮らしたい。

「それで、どうするの？」

Dプランは全世界で実行しないと意味が無い。しかしこの戦力ではPUの相手は出来ない。参ったな、Dプランを放棄したらやる事が無くなってしまった。

「取り敢えず地上は戦力回復だ。カーペンタリアとジブラルタル以外の基地を放棄する」

「そうね」

「私とミネルバは宇宙に上がる。ダイダロスの連合を叩けばロゴスは終わり、戦争も終結出来るかもしれない、ネオ・オーブには停戦を申し込む」

「そうするしか無いわね」

「ああ、ロゴスが残っても従う戦力が無ければ意味が無いしね」

「ええ。ただ、なんでだれも気付かなかったのかしら？」

「我々も浮かれていたということか」

「そうだな、遺伝子適正検査で会社を建てよう。私は道標を与えるだけ、人の未来は全員で作ればいい。ネオ・オーブはコーディネーターの抹殺なんてしないから負けても最悪の事態にはならない。」

S I D E O U T

戦場は宇宙に変わる。地上はP.U.が優勢で覆す手段はない。デュランダルの停戦の申し込みは拒否された。攻撃して負けて停戦してくださいじゃあ、だれも納得しない。しかしデュランダルはロイからの秘密通信でダイダロスが落ちるまでは攻撃しないと保証をもらった。ジブリールはダイダロスに向かい、デュランダルは宇宙で戦力をかき集める。ネオ・オーブはコロニーの位置調整を始めた。アークエンジェル組はストライクフリーダム修理とインフィニットジャスティスのパイロット選出で忙しい。マルキオが影響を失ったジャンク屋連合はアークエンジェルへの支援を止めて、連日ネオ・オーブ政府と交渉している。そのため支援は全部プラントのクライン派がすることになった。オーブからの支援も途絶えたので予算が結構厳しい。

コロニーに着いたロイはアスカ一家と食事するとか、マリアと遊ぶとか、ステラと訓練するとか、メイリンと買い物に行くとかと悠々自適な生活をしている。このところラクス・クラインが頻繁にネットで演説をしていて、ミアはコペルニクスに軟禁された。プラントでのラクスの支持者は増え、大敗したデュランダルは減った。しかし軍はそうでもない、ネオ・オーブの強さを直で思い知った彼らはデュランダルがどれほど苦勞したかが分かる。

S I D E ラクス

最近プラント以外の支援が途絶えました。マルキオ導師は狂ってしまいましたし、カガリは喚くだけですわ。アスラン、早く帰って来てカガリを抑えてください。キラもロールアウトしたばかりのMSを壊したので落ち込んでいます。流石に核ミサイルを使うとは思いませんでしたわ。しかし私のプラントでの影響力は増すばかりですわ、デュランダル議長が大敗したせいでしょう。資金も充分ですし、そろそろドム27機の一個大隊が完成しますわ。戦いはこれからですわ。

S I D E E N D

最高で最悪な作戦

ダイダロス基地はロゴスの影響下のある最後の大型基地だ。ジブリールは到達するとともにレクイエムをしようとするも中継ステーションがまだ所定位置に到達していなかった。数日内に到達するのでジブリールはゆっくり待つことにした。その間にも同盟軍は宇宙に戦力を集めている。

S I D E ロイ

そろそろ時間だな。国の主要人物がこの部屋に集まっている。大型モニターにはダイダロスとプラントのリアルタイム映像がある。最高で最悪の作戦が完遂される。

レクイエムは発射される。そして連合、Z A F Tの両方が終わる。だが念のために中継ステーションとコロニー位置の再計算だ。気が変わってこちらに撃ってきたら洒落にならないからな。しかし、マリアが観たいと言ったのは予想外だったな。これから数十万人死ぬというのに。まあいい、これもネオ・オーブのためだ。地獄の私の席はとつくに用意出来ているだろう。

S I D E O U T

S I D E ジブリール

待に待っていたぞ、この瞬間を！あの忌々しい砂時計、今こそ壊してくれろ！ネオ・オーブからオオツキガタを買ったのは正解だったな、バレた中継ステーションでの戦闘はこちらが圧倒している。

「警告はなしだ。目標はプラント首都アブリリウス！」

死ね、コーディネーター！

S I D E O U T

ネオ・オーブが用意したプログラムが発動し、中継ステーションの偏向数値が改竄される。ビームが向かうのはプラントだ。しかし、首都ではない。破壊されたのは軍事プラントアーモリー3と6の四基。そして崩壊の影響でアーモリー市が壊滅するだろう。アーモリーは工業用プラントとされてるが、実際は名前の通り(Arms+Factory)Armor、全てが軍需プラントか軍事プラントだ。

モニターにはおぞましい光景が映っている。こういう現場を直に見るのは初めてなので少しだけショックだった。連日の激務も相まってそろそろちゃんと休むべきかも知れない。

レクイエムの攻撃によりZ A F Tに補給能力が壊滅した。デュランダルは集めていた軍を即座にダイダロスへ向けた。これにアークエンジェルとエターナルも参加した。

ストライクフリーダム、インファイニットジャステイスとドムトルーパー27機でダイダロス攻略戦に参加した。ネオ・オーブさえ居なければ最強なキラはデステイニーのアスラン・ザラと協力しロゴス軍を撃破していく。しかし、やはり詰めが甘く、レクイエムを完全に破壊しないまま撤退していった。なおジブリールは脱出する間も無く殺された。

補給源を失ったデュランダルに選択肢は残されていなかった。ロゴス軍が終わった今、レクイエムを使わなければ連合と戦うすが無くなる。そして冷静になれば連合も分かるだろう、今が千載一遇の機会だと。デュランダルは分かる、これで戦争が終わるはずがないと、此処でレクイエムを使わなければ支払う代償はZAF T軍兵士の命であると。Dプランは諦めたがプラントの為にレクイエムは修理せねばならなかった。

ロイはその後も通常通り仕事をしていたが、日を重ねるに連れてやつれていった。ぶつちやけ今のロイは国家首相より忙しい、最重要作戦が終わって一気に疲れが湧いてきたのだろう。其れを見たコトーは強引にロイを休ませた。ロイはステラと共にウナトの処に送られた。暇なウナトならロイと話が合うし、時間もある。此処でならゆっくり休めるだろう。ロイは休むことは了承したが、万が一のためにPDAは手放さなかった。

倒れてないが表向き、ロイは過労で倒れたと言うことになっている。国民はロイの貢

敵の大きさを知っている。実際は彼らの知るよりも遙かに大きい。倒れるまで働くロイに感動し、国民全体が奮発するようになった。特に真実を知る政治家達は頑張りようは一層激しい。さらにマッド達も頑張って、またとんでも無い物が出来た。

ロイは休む前に行動の計画書を作った。政府はこの計画書の内容を充分に検討し、実行した。まずジャンク屋連合。彼らとの交渉の結果、ジャンク屋連合の全拠点がネオ・オーブの管理下に入った。ジャンク屋連合はネオ・オーブで一企業となり、特権は存在しない。また、メガフロートのマスドライバーとジェネシス α の兵器部分は接収される。そしてネオ・オーブがジェネシス α の修理と改造を開始する。

地上ではロゴス軍が投降し、連合はまた一つになる。そしてコープラント大統領は終戦を主張するが、連合で大問題が発生する。ロゴス幹部の死亡、亡命による経済混乱だ。これを何とかしなければクビになるところか物理的に首が飛ぶかも知れない、なにせ敵と共に自国民を撃ったのだから。コープラントは生き残るためにプラント制圧を決定した。プラントを戦前（ヤキン・ドゥーエ戦役以前）の状態に戻せば国の経済は何とかなるし、自分が正しいとも証明できる。自分の命がかかっているなら穏健派とかどうでもいい。かなりムチャクチャで行き当たりばったりである。

アークエンジェル組はこの戦争の成果でプラントで更なる支持者を得た。資金や物資の横流しが増え、デュランダルが居ないままプラントは狂っていく。

祝日でもマッドは止まらない

連合とZAFは戦争で忙しいし、アークエンジェル組は謀略で忙しい。そんな中、PUは相変わらず平和だ。そもそもPU構成国は戦時体制に移行していない、軍事予算も増加していないし、寧ろ国家予算がログスとの取引で増えてる。ロイの仕事が他の人に移るとマリアとメイリンも仕事がなくなる。ついでにマユ・アスカも来て四人でロイの相手をする事になるが、美少女四人に世話されてるロイはウナトを呆れさせた。ついでにユウナが此処に居なくて良かったのかも考えてる。

ロイの影響で奮闘したC・Bのマッド達についてはVF27を完成させた。VF27はGが凄すぎてコージェネターでも耐えられない、その為コクピットに緩衝液を充填させる方法をとる。当然量産なんて無理で、今のところはソキウス用の3機を作る予定に留めている。しかしこれで終わらないのがマッドがマッドたる所以だ。ズゴック+VFでビッグロをすつ飛ばしてヴァル・ヴァロが完成してしまった。プラズマ・リーダーは無いが大型クローアーム*2、メガ粒子砲*2、内蔵ビームガン*10、2連装ミサイルランチャー*4、110mmモーターガトリングガン*4と非常に怖い装備がある。更に複合フィールド発生装置、TP装甲なんて物も使うから核エンジンを使わなけ

ればならなくなった。値段が性能に比べて安いのもあって、軍部はこれを採用せざるおえなかった。ネオ・オーブ軍のチートは止まらない。

此処で簡単に状況を纏めよう。Z A F Tはネオ・オーブに宣戦、連合は宣戦なしでそれに従従。Z A F Tと連合は停戦していない。地上で連合は同士討ちで戦力は少ない、Z A F TもP Uに叩かれて涙目状態。宇宙では連合は大規模基地はアルザツヘル基地のみ、Z A F Tはダイダロス、ゴンドワナ、メサイアと戦力は充分だが補給能力は壊滅。最後にP Uは地上、宇宙共に戦力に不足はない、生産能力にも余裕がある。三つ巴でP Uだけが有利な状況だ。

サハクはスカンジナビア王家を支援し、もう一つの財閥を作る事になった。将来、サハクのみで経済を支配するならいずれ墮落する、それを防ぐために競争は必要だ。ある程度大きくなったら支援を止めて王家に任せる、当然サハク財閥の脅威になるほど支援するつもりはない。

グダグダなままC・E73年は過ぎていった。連合は経済崩壊なまま、プラントはコロニーを壊されてどちらも暗い。だがP Uは明るい。被害は殆ど無く、取引などで得た利益は莫大だ。そしてジャンク屋連合の人もこの雰囲気飲み込まれた。一部はこれを見てネオ・オーブの管理下に入るのも悪く無いと考えている。

C・E74年、最初の出来事は連合の侵攻であった。連合軍はダイダロスへ向けて発進する。それをZAFは鹵獲したレクイエムで攻撃し、基地ごと破壊した。コープランド大統領は戦死。デュランダルはこれを持ってネオ・オーブに終戦を迫るが未だ良い返事は得られない。ネオ・オーブはZAFより前にレクイエムの情報を掴んでおり、対策は完璧だ。

ネオ・オーブが忙しくなるとともにロイも復帰する。

SIDE ロイ

はあ、自分の疲労って意外と気が付きにくいものだ。四人には感謝しないと、ついでにウナトも。しかし将来修羅場になる予感がするんだがどうしよう？

あれは後回しだ。一番問題なのはあのマッド達だ。なに怖い兵器作ってんだよ、フィールド展開して突っ込むだけでMS隊は終わりだろ。しかも一番怖いのはこの値段だ、VF10機分では安すぎる買い物だ。まあ、整備が難しいので主力にはならないだろう。マッド達には更なる予算だな。後名前をヴァル・ヴァロにしないと。

デュランダルの終戦打診か、レクイエムを見せたままでは降伏しろと言っているような物だろう。受けるわけがないな。デュランダルはネオ・オーブを攻撃するだろう、準

備は完璧なので問題は無い。しかし、メサイアか。戦力やネオ・ジエネシスはどうしてもいいが遺伝子分析情報は欲しいな。

S I D E O U T

『やはり終戦は駄目ですか』

司令室でロイがデュランダルと応答する。

「当然ですね、プラント政権をくれるとでも言うのなら別ですが」

『そちらもようやく回復したんですからまた体調を崩したくないのでは？』

「ええ、Z A F T を倒してから休ませてもらいます」

『仕方有りません、あなた方とはお別れしたく有りませんでした』

「……」

ロイはただ微笑む。

『では』

デュランダルが通信を切った。

S I D E ロイ

「コロニーの位置の最終チェックだ！それと採光ミラーを閉じろ！」

すぐに来るだろう。そして戦争の大義名分にもなる。全員緊張しているな。確かに失敗すればコロニーは崩壊するが裏でソロモンが制御補佐してるから問題はないんだよな。

「っ！レクイエムの起動を確認！」

オペレーター、緊張しすぎだ。

「落ち着け！準備は万全だ、問題はない」

「は、はい！」

まあ、無理もないか。

「発射されました！方向は首都です！」

流石だ、無駄がない。いや、無駄に出来る時間が無いのだろう。だから我らも分かるんだよ、デユランダル。

S I D E O U T

レクイエムから発射されたビームはコロニーに到達し、ヤタノカガミに反射される。計算され尽くしたコロニーの位置でビームは方向を変え、レクイエムの第一中継ステーションに向かう。Z A F Tにこれを阻むすべは無く、第一中継ステーションは破壊された。これによりレクイエムはその機能の半分を失ったと言ってもいいだろう。そしてネオ・オーブの報復が始まる。

どこのGだコイツら

SIDE ロイ

まあ、これで終わってくれる程デュランダルは甘くないにだろう。

「姉さん、例の攻撃プランは？」

『先程承認された』

「分かった、直ぐ実行する」

『本当に必要なのか？』

「報復は必要だよ、国民を納得させるためにも」

『そうか』

「では」

デュランダルは他の場所から中継ステーションを持ってくるはずだ。その前にこちらでも攻撃する。

「ジェネシス α を起動せよ」

「了解」

今回も容赦はしない。

「目標はアーモリー市コロニーだ」

「了解」

レクイエムの攻撃でアーモリー市コロニーの市民は全員撤退している。人を殺さないからウチの穏健派もこの攻撃に賛同したんだろう。

SIDE OUT

SIDE デュランダル

あの光は！ジエネシスだど！

「議長、アーモリー市が全壊しました。復興は不可能です」

狙いが首都ではないのがせめてもの救いだ。あれを接収したのは知っていたが、まさか使えるようにしていたとは。ネオ・オーブは世論を敵に回してでもあれを作る必要はないはず、読まれていたのか。これは警告だろう、次にコロニーを狙えば今度は住民がいるコロニーを撃つというわけか。どうする、あれを撃つか？しかし中継ステーションを引つ張って来るまで待つてくれるとは限らない。

くつ、主導権を握られたか。

SIDE OUT

レクイエムの攻撃はネオ・オーブ国民を激怒させたがシエネシス α の攻撃で怒りは収まったようだ。しかし強すぎるシエネシス α を恐れる国民も居る。政府はレクイエム

が壊れればシエネシス α の攻撃能力を放棄すると宣言し。同時に軍では月攻略プランが発動された。月のレクイエムを破壊し、シエネシス α を無力化する事で平和を望むとアピールする訳だ。参加するのは主にネオ・オーブ国軍で、ソロモンからはピースミリアンが出撃する。全てが計画通りなので、準備も速い。

S I D E ラクス

デュランダル議長は首都を狙いましたか。ネオ・オーブの方も危険ですがまずはあちらを何とかしなければなりません。放棄宣言をしたのならば実行に移すでしょう、彼らも政権を失いたくはないでしょうし。直ぐに行かねばなりませんね。

S I D E O U T

その後28機のMSで月に向かったが、ネオ・ジエネシスを使われて、交戦する間もなく逃げ帰ってきました。損害はドム6機。

S I D E ラクス

まさかもう一つ戦略兵器があったとは、不覚です。

S I D E O U T

そして横流し金がまた増え、プラントの回復が遅れる。

S I D E ネオ・オーブ軍

「なんかアークエンジェルが月に攻撃したが一瞬で帰ったらしいぞ」

「は？そんなに戦力ねえだろ」

「ドム27機にフリーダムの後継機が1機だとき」

「ドムってZ A F Tのコンペに負けた奴？」

「少しは改造したらしいな、ザクよりは良い性能持つてる」

「しかし28機ってアホか？」

「アホだな」

「というかこんな話してていいのか？一応月に進行中だろ？」

「いやあれ見ると負ける気がしなくて」

「ピースミリオンか？」

「ああ、ゴンドワナ級なんて目じゃないだろ」

「確かに」

「その上武装も可笑しい」

「なんで知ってるんだお前？」

「諜報部に知り合いがいてね。機密じゃないが公開もされてない情報だ」

「で、武装は？」

「上下両面にびっしりとビーム砲が貼りつけてあるらしい」

「あ?」

「その上前面が 1 列の陽電子砲だそうだ」

「おい」

「更に 1200 の機動兵器まであるらしい」

「俺らいるのか?」

「……流石にダイダロス、メサイア、 Gondwana の同時相手は無理なんじゃないか?」

「出来るんじゃない?」

「実は俺もそう思う」

S I D E O U T

ピースミリオンの存在はネオ・オーブ軍に安堵を齎した。要塞くらいでかい戦艦をあのロイ・サハクが指揮しているとすると Z A F T に同情したくなる。Z A F T は戦力を三つに分けた。本国からの援軍で Gondwana 級を中心とした艦隊、メサイアとその駐留艦隊、その他のレクイエムに居る艦隊。ロイはピースミリオンで Gondwana の艦隊を叩きに行く、ミナはラー・カイラムでメサイア攻略、ギナは二番艦でダイダロス攻略だ。更にステラはミナの援護のため後方で準備している。中継ステーションがまだ届いてないレクイエムは使えない。

だれもが開戦を予感している時、回復したアークエンジェルがまた来た。戦場は「何

しに来たんだお前ら？」的な雰囲気だ。

『これ以上の戦闘は無意味です、直ちに戦闘を中止しなさい』

ラクス・クラインが一般回線で通信する。ロイとデュランダルは崩れた。二人はラクスらによってS A N値がどんどん削られていく。しかしそれでも持ち直して二人は言う。

『国民を守るために此処では引くことは出来ない』

これが合図となり戦闘が開始する。アークエンジェル組は一番無防備に見えるピースミリオンに向かう。

S I D E アスラン

何故議長は同盟を組んでいた連合を撃つんだ？これで戦争は終わると思ったのに。やはり議長も……

キラ達も頑張っているのに俺は何をしているんだ。しかし、ネオ・オーブを撃退出来れば戦いは確実になくなる。キラもあの巨大戦艦の相手をしに向かった、俺も頑張らな

S I D E O U T

発進したアスランは突っ込みどころ満載な理論を展開していた。

世界が決まった日

ピースミリオンは遺憾なくその実力を発揮している。無数のビームで敵のMSを撃ち落とし、陽電子砲で敵を圧倒する。更に人間では有り得ない機動を扱うゴーストで死角や射程外のMSを殲滅する。ZAFTにはピースミリオンを止めるすべはない。当初は一番無防備に見えたピースミリオンだったが蓋を開いてみれば最凶だった。所詮人間の反応能力しか持たないキラはゴーストに押されっぱなしだった。この状況でミーティアなど装備してたら間違いなく瞬殺だ。このままでは30分も持たないだろう。なおロイは出撃していません。

レクイエムは既に破壊されている。ダイダロスは防衛兵器があるという事で機動兵器は若干少ない。それが致命的だった。ギナが絶好調で暴れまわっています。どうせ基地は要らないからラー・カイラムとマゼラン改で砲撃しまくっています。ついでにヴァル・ヴァアロが月面で直接攻撃している。更にソキウスがVF27を使って攻撃する。やはり過剰戦力であった。

それでもメサイアのZAFTの状況が最悪だ。後方のステラがソーラーシステムを展開し、開戦早々にネオ・ジエネシスと陽電子リフレクターを破壊した。そしてミナに

よるビームの嵐が始まる。近づく敵は全てバラバラになる。時々バスターライフルで攻撃するので艦船も厄災を免れない。デュランダルはここにインパルス、セイバー、ステイニー、レジエンドを投入するもアマテラスとハウメアもいるので対抗できない。ハウメアは敵艦隊内部に潜入し、一気に改造ドラグーンで破壊する。アマテラスは最高の火力でどんだん撃つ、更に光圧推進で移動するので捉えられない。あとはウイングガンダムゼロカスタムだが、あれは味方でも近づきたくない。レイがミナに挑むがドラグーンをすべて潰され、機体も修理不可能な損傷を受け、直ぐにメサイアに不時着した。ブラストインパルスとセイバーの火力＋機動力のコンビでミナを止めようとするが意味がなかった。ファンネルの前ではセイバー如きの機動力ではどうにも成らない、ブラストインパルスは機動力が更に低いので頻繁に被弾していつて何度もシルエットを交換した。ステイニーはアマテラスの相手をしようとするが機体性能差で追いつかない。ハウメアはフリーにされて着実に戦果を上げている。ここでもヴァル・ヴァロはひどい事をしていた。フィールド展開してひたすら敵MSに突っ込む。TPSと陽電子リフレクターがあつてはどんな攻撃も効かない。艦船にはその火力で攻撃する。パーフェクトだ。

ソーラーシステムによって防衛機能を失ったメサイアが最初に落ちた。外の艦船や

MSは敗退し、ネオ・オーブ軍がメサイアに侵入、データを根こそぎ貰っていく。内部も撤退が完了していて、デュランダル、レイ、タリアの三人しか残っていないかった。デュランダルは司令室に敵が突入したのを見て自爆しようとしたが、ミナからロイの伝言「レイを治すからお前は捕まれ」を聞いて踏み止まる。自分はどうか聞いても終わりののでせめてレイには明るい未来を残したかったのだろう。デュランダル、レイ、タリアの三人は捕まった。

メサイア陥落とともにZAFТは撤退を開始した。ネオ・オーブ軍は追撃する。ゴンドワナ級は陽電子砲に撃沈された。アークエンジェル組は何も出来ないままだった。ドムでは相手に成らないし、キラも翻弄されている。ドムを次々と失い、撤退を余儀なくされた。

アスラン・ザラはアークエンジェルに逃げた。奇跡的にミネルバのMSパイロットは死者なし。この戦闘でZAFТ宇宙軍も壊滅。メサイアとダイダロスはネオ・オーブ軍が撤退後に自爆させ、ゴンドワナ級も無くなった。議長が囚われたのでプラントは混乱を極めた。アークエンジェル組はドム全てを失い、ヒルダ、マーズ、ヘルベルトと何故か出撃したバルトフェルドが戦死、エターナルは二つのミーティアを失うも何とか帰還（見逃した）。アークエンジェルはビーム兵器しか使わないこの部隊と相性が良かったので大破で艦の最重要部はなんとか守れた。しかしマードックが戦死。彼らは何故か

Z A F Tと一緒にプラントへ帰る。

連合はネオ・オーブと終戦条約を結んだ。連合は多くの資源採掘権を譲渡する事になり、ネオ・オーブの影響は更に増す。残りのロゴス幹部はどうしてもネオ・オーブに残りたいと言うのでサハク財閥に入る。ロイはかなり嫌がったがロゴス幹部も必死だ。誰もあんな国には帰りたくなかった。最終的に彼らはサハクに多大な財産と利権を渡し、サハクに雇われた。能力的には優秀なので脅して裏切らないようにした。サハクの大々的な参入もあって、連合の経済は回復を始める。これはチャンスとばかりにスカンジナビア王国と赤道連合も参加する。今後連合政府は長い間P Uの支配下にあるだろう。

プラントはアーモリー市を失ったが経済的にはまだ致命的では無かった。しかし戦争で消えていった若者は多く、備蓄食料も少ない。議長が囚われた事により政治混乱も発生する。連合とは別の意味でピンチだった。そしてこの時に大洋州連合が裏で動き出す。

やっぱり人材って重要だ

帰ったZ A F T軍を待ってたのは政変だった。クライン派がナイトメアでアブリリウスを制圧、ラクス・クラインが演説。とにかく力強い指導者が欲しかった民衆はこれに支持した。軍は反発する者もいたがイザーク・ジュールを筆頭に支持する者も居る。反対派は中心人物が居なかつたのですぐに瓦解した。これで歌手による政治が始まる。

大洋州連邦はZ A F Tの敗退ぶりを見てP Uに接近し始めた。しかし親プラントの政治家が多い大洋州連邦にP Uは利益を見出せず、加盟させるつもりはない。直接戦争した訳ではないので希望はあるとみた上層部はプラントに非協力的になつていく。

ラクス・クラインは戦争終結を宣言、プラント市民は喜んだ。なお、この宣言は一方的であり、P Uと連合は認めていない。P Uと連合の否定の発表はプラントで規制され、市民に届かなかつた。しかし、今のP Uにプラント侵攻の意志はない。シロウトに政治させたほうが後々利益がでるからだ。

ネオ・オーブは公約通り、ジェネシス α の γ 線発射部を解体した。それに伴い、名前をジャンク α に変えた。

数多の戦争で難民、脱走兵が増えた。放棄した兵器、横流しされた兵器が彼らの手に

渡り、海賊となる者が多く、貿易の邪魔に成る。それを解決するためにサハクで傭兵会社を設立、メガフロートとジャンク α を拠点に民間輸送船の護衛を開始する。

ラクス・クラインの政治感覚の無さに絶望したデュランダルはロイの取引に応じた。デュランダルは名前を替え、サハクに雇われる。サハクはメサイアから得たデータで遺伝子を分析し個人の適正を探し出す企業を設立。デュランダルは技術部を統括する。タリアと結婚しウナトのお隣さんになった。レイはロイが手を合わせて触つただけで治つた。タリアとデュランダルはこれを見てロイに逆らうまいと心に決めた。タリアは息子を秘密裏に呼んで、四人で暮らしている。レイはシンと共にミナ直属になり、タリアは主婦になった。

デュランダルとロイは月にミアアを迎えに行つた。デュランダルはラクスらより対処する物が多すぎて暗殺とかは無かつた。ミアアはネオ・オーブへ行き、自身の行いを公表する。ネオ・オーブ国民は彼女を高く評価した。自身を偽つてまでプラント市民の支えとなり、市民の暴走を止めた功労者と言うのが印象だ。実際、行動だけ見ればそうなる。ラクスではなく彼女自身が認められた事により、ラクスへの執着とアスランへの好感が無くなった。彼女はミアア・キャンベルの名でネオ・オーブでデビューする。ちなみに住居はデュランダルの隣。

旧オーブ市では情勢が安定したので選挙が行われた。ユウナは参加せず、首都で議員

となる。セイラン邸に着いたユウナは付近住民を見て引きつった。サハク邸がセイラン邸

の隣にあるので、世界征服出来そうな面子だった。後ユウナとミーアがくつついた。結構いいカップルだと思う。

S I D E ロイ

いつかは出てくるとは思っていたがここまで早いとはな……

前の戦闘で明らかに可笑しい動きをするVF25を二つ見つけた。後ろに撃つて命中させたり、敵の躲す方向に向けて発砲したり。覚醒したニュータイプだろう。報告は軍や政府上層部が既に見た。かなり慌ててるな。それも仕方ないか、確認できた最初のニュータイプだからな。

しかしコイツらどうする？他国には喉から手が出る程欲しい実験材料だ。大々的に公表して守るか、情報を隠蔽か改竄した守るか。奴ら自身の考えを聞いてみるか。

ニュータイプは出てきたことで人種革命も本格的に始めないと。また仕事が増えるのかよ。

S I D E O U T

情勢が少し安定したと思ったら、アフリカ共同体と南アフリカ統一機構がまた戦争始めた。長年の恨みは簡単に消えはしない。南アフリカ統一機構は連合に所属している

が、この状況ではプラント理事国は支援する気はない。そしてアフリカ共同体は「世界安全保障条約」締結国だ。政治的に支援は微妙に出しにくい。

汎ムスリム会議と南アメリカ合衆国が「世界安全保障条約」の解除を始めた。南アメリカ合衆国は連合脱退も視野に入れている。南アメリカ合衆国は半ば強制的に連合加盟させられた国だ。連合加盟国のくせに反連合感情が高いときてる。この行動は順当だった。汎ムスリム会議はこれを機に完全なる中立に戻ろうとしている。

プラントの食糧事情はヤバイ。ヤキン・ドゥーエ戦役で食糧問題を発見したデュランダルはネオ・オーブとの戦争の可能性を考慮して大量の食料を貯めた。ネオ・オーブとの戦争が始まるとともにネオ・オーブからの輸出が止まったがこの備蓄のお陰でしばらくは食料価額は安定している。しかし今回の終戦はラクスが一方的に宣言しただけなのでネオ・オーブは認めていない。ネオ・オーブからの食料輸入が出来無くなって、更にネオ・オーブに頭を下げたくないラクスは大洋州連邦に更なる輸出を求め拒否された。大洋州連邦の食糧事情もそう楽観的ではない、そしてPUに加盟したい大洋州連邦のプラントへ支援が消極的になる。

外交は多分難しい

兵器生産を再開させるため、ラクス・クラインは父と同じくマイウス市の一部を兵器生産基地に改造した。これにより、マイウス市がPUの攻撃対象に入る。

連合は経済回復と戦力回復を同時に行なっていた。そして連合とプラントの戦争はまだ正式に終結していない。戦闘はそう遠く無い未来に再開される。

プラントは兵員を確保するために徴兵制に逆戻りした。戦争が既に終わったと信じているプラント市民は一部が軽い気持ちで入隊した。

宇宙拠点を手に入れるため、プラントはDSSDを接収する。DSSDはZAFト資本で建設されたため、反抗も少なく、順調に拠点化されていく。

大洋州連邦がカーペンタリア基地の撤退をプラントに要請するも、プラントは武力をもつて脅してこれを拒否する。これにより大洋州連邦は反プラント感情が上昇していく。

大洋州連邦の状況を見たプラントは、アフリカ共同体に接近する。交渉は梃子摺ったが、お互いに満足な結果を得た。プラントが技術と戦力を提供する代わりにアフリカ共同体は食料と水を提供することになった。ラクスは義勇軍としてアークエンジェルを

派遣した。搭載機はインフィニット・ジャステイス（アスラン・ザラ）、デステイニー・インパルス*3、ハイパーデュートリオンの整備ブロックを搭載したため他のMSを載せられなかった。超疑問的に指揮官はカガリ・ユラ・アスハだ。

「世界安全保障条約」の締結国であるアフリカ共同体がプラントの義勇軍を受け入れた事を連合は「最悪な裏切り行為」と発表。宣戦と共に「全締結国で討つべし」とも言った。しかし南アメリカ合衆国と汎ムスリム会議は呼応しなかった。

これを見てプラントは南アメリカ合衆国と汎ムスリム会議に接近する。

目まぐるしい変化の中で、PUは連合進出に忙しかった。ロイは予想外のニュータイプの出現の早さに対応するため、全コロニーを改造している。

そしてプラントからネオ・オーブへ使者が送られ、両方は会談に至る。なお、ネオ・オーブ側はこれを終戦の交渉だと考えている。

SIDE ラクス

ふふっ。最近は何もかも上手くいきますわ。大洋州連邦にはそっぽを向かれましたが仲良くなってくれそうな国が三つも見つかりましたわ。まだ大々的に貿易するまでは行きませんがいざれ助けしてくれるでしょう。カガリさんのもアスランに押し付けましたし。バルトフェルドさんの戦死で暗くなった空気がこれで一扫されました。あとはネオ・オーブの食料輸送を再開させることですね。

SIDE OUT

コペルニクスでプラントとネオ・オーブの重要会議が開かれる。プラントの参加者は最高評議会議長のラクス・クライン、国防委員長のイザーク・ジュール、護衛のキラ・ヤマト他数名。ネオ・オーブ側は外交官のロイ・サハクと大統領のフィリップ・ジャツカ、護衛のステラ・R・サハク他数名。今回の交渉は主にフィリップとラクスが行う。

簡単な挨拶の後、ラクスが切り出す。

「プラントとしてはネオ・オーブからの食料輸入を再開させたいのです」

ネオ・オーブは開戦してからプラントと大西洋連邦への食料輸出を停止した。この前は更にアフリカ共同体へに輸出も止めた。

「（噂どおりの我儘っぷりだな）貴国とはまだ戦争中なので論外ですな」

「しかし、プラントは既に戦う意志が有りません。戦争は終結した筈です。」

「（このピンクドンだけ政治知らないんだよ？）ほう？ではそちらには当然謝罪の意志はあるんでしょうね？我が国は一方的に侵略された訳ですから」

「それは前議長の責任です、プラントになすりつけないでください」

「（来るんじゃ無かった）話になりませんな。プラントが謝罪と賠償をしない限り食料輸出は考慮しない」

会談は直ぐに終わった。

「待ってください！」

待つ訳がなかった。

S I D E イザーク

失敗だった。こんなに酷いとは。最近では連合側の内部分裂につけこんで外交勝利を得てきたが、ラクス・クラインでは本格的な外交は無理だったか。こんな一方的な交渉、俺でも無駄だと分かる。パトリック・ザラ、シーゲル・クラインは政治家としては優秀だったのに、なんでこの二人は駄目なんだ？期待した俺もバカだったな。このままプラントが潰されたら俺の責任か？どうすればいいんだ？

S I D E O U T

ラクス・クラインの外交は失敗、プラントの食糧問題は解決できなかった。プラントは更に南アメリカ合衆国と汎ムスリム会議に接近しようとする。しかし、アフリカではそれを台無しにする出来事が起こった。

アークエンジェルの活躍でアフリカ共同体は快進撃が続く。戦場は南アフリカ統一機構領内になり、アークエンジェルはカガリの指揮の下で工場地帯、資源採掘基地など

も手当たり次第攻撃して行った。その中には資源採掘権を得たネオ・オーブの採掘基地も多い。これにネオ・オーブは激怒し、アフリカ共同体へ宣戦布告、軍の派遣を決定する。連合もこれに同調し、援軍を派遣する。これで「世界安全保障条約」はその意味を完全に失った。

大革命の始まり

SIDE ロイ

これでプラントを制圧しても世論を気にする必要が無くなった。ラクス・クラインはよく働いてくれた。あのピンクの外交ではプラントを救えない、デュランダルなら別だったろうが。しかし、あいつらコペルニクスにササノヲとツクヨミ（イズモ級）を隠していたとはな、返してもらったが。そろそろDSSDを攻略するか。そういえば原作みたいに攻撃されてないな、なんでだろう？

ミナチームをアフリカに派遣しよう。南アフリカ統一機構の了承は得たので正式に派兵できる。連合はファントムペインを使うか。ん？ネオ・ロアノーク、スヴェン・カル・バヤン、ミューデーイー・ホルクロフト、シヤムス・コーザ、此処にいたのか。しかも指揮はこちらに任せるのか、中々いいな。

大統領にあのプラント担当の外交官を変えてもらおう。このまま私が相手してるとプラント消滅させない保障がない。たしかドSの奴が一人がいたな、あいつに苛めてもらおうか。

最後に明日のチェックだ。

SIDE OUT

翌日、コトー・サハクが「人類進化プラン」を発表。ロイがコロニー基幹部に取り付けたセンサーで全国民に対する検査をしたが、その結果でニュータイプ素質を持つ者が1・5万人いることが判明した。コトー・サハクは同数のナチュラルをイノベーター化する宣言した。この未知の挑戦は困難を極めるだろうが、国民は興奮してしようがない。

これはまだ国家プロジェクトではないので人員の選定はサハクが独自で決めることになる。もちろん選定された人の意思は尊重するし、費用は全部サハクが持つ。ロイは選定標準、機密保護方法、管理方法などを教えたが量が多すぎて中々進まない。それでも全員頑張ってるし、確実に前進しているのでロイはテコ入れとかはしない。

ネオ・オーブはミナを中心の部隊とラー・カイラムをアフリカに派遣し、連合もネオ・ロアノークを中心としたファントムペインと陸上戦艦ボナパルトを送り出す。これでアフリカの心配は要らなくなった。

一応、ネオ・オーブは採掘基地を壊された件でプラントに講義したんだが、以下ラクスの発表

『アフリカのアークエンジェルの行動は市民の自発的行動であり、プラント政府は一切関与していません。故にネオ・オーブの抗議を受ける理由もありません』

原作のユウナ以下の言い訳だった。

ネオ・オーブはDSSD攻略の準備を始める。同時に大洋州連合が我慢しきれ無くなって宣戦してからカーペンタリアへの攻撃を開始した。ネオ・オーブこれ幸いと考え、カーペンタリアへの軌道爆撃を開始する。ジブラルタルも影響を受けて防御を硬くする。

大洋州連合のプラント系企業も徐々に排除され、PU系企業が発展する。

状況を見て、ラクス・クラインはエターナルを使ってネオ・オーブへゲリラ戦を仕掛ける。勿論「市民の自発的行為」だ。デステイニー（ハイネ）、ストライクフリーダム（キラ）を使うがアミノミハシラにはギナがいるし、ソロモンは論外、本国にはロイがいて、隙など無い。結局は無意味に終わった。

ネオ・オーブがZAFТに対し軍事行動を開始したのを見て、南アメリカ合衆国と汎イスラム会議はプラントとの交流が少なくなっていく。支援されてる身でPUに逆らう事は出来ない。更にPUは南アメリカ合衆国の連合脱退と汎イスラム会議の条約解除に介入しないと発表したので反対感情も少なかった。

準備している間、ロイは宇宙海賊が増えると言う情報を得た。傭兵のお陰で被害はまだないが、このまま増えれば防ぎきれない。ロイは即座にソロモンからプトレマイオ

ス（＋トローラス*8）を30隻出し、徹底的に航路付近を掃除した。補給が殆ど必要なく、実力も異常なまでに強いので海賊は大量に殲滅された。調査の結果、Z A F T軍の一部が暴走したのが原因だと分かった。後日、プラントから「Z A F Tがネオ・オーブから攻撃を受けた、弁償しろ（意訳）」との表明があった。ロイと各国（プラント以外）の元首はまたS N A値が削られた。

連合とネオ・オーブの援軍で南アフリカ統一機構は狂喜したがアフリカ共同体の首脳陣は連日顔色が真っ青だ。功労あるアークエンジェル組を自分達が排除すれば士気はどん底に落ちる。しかしこのまま連合とネオ・オーブの相手までするなど勝てる筈がない。快進撃の今、停戦交渉などしても納得しない者も多いし、南アフリカ統一機構側も受けないだろう。アフリカ共同体は水面下で必死にネオ・オーブと交渉する。ネオ・オーブさえ撤退すれば連合とZ A F Tが潰し合い、アフリカ軍同士で戦えると考えたからだ。しかし、ネオ・オーブの目的はアークエンジェル組なのでそれを殲滅するまでは撤退しないとの一点張りだ。アフリカ共同体の悩みは終わらない。

プラントは今、コペルニクス、アフリカ共同体との貿易で食糧問題は何とか一息つけたがアフリカ共同体の動きで状況がまた悪化する可能性が高い。

ロイが超嫌がらせでラクス・クラインとロンド・ギナ・サハクの政略結婚でついでに

終戦条約と食料輸出の交渉をすると提案した。プラント上層部はかなりの数がこの提案に飛びついたが本人とキラ・ヤマトに猛烈な反発によって無しとなった。元々嫌がらせなのでロイに落胆はない、しかしプラントはこの一件でラクス・クラインと上層部がお互い不信になる。現状をはっきり認識している上層部としては政略結婚は上に立つ者の義務と捉えていて、それが出来ないラクスは議長に相応しくないと考えるようになる。ラクスは上層部が自分を排除するために動いていると思うようになった。プラントは混乱し始める。

メシア

パイロツト：レイ・ザ・バレル

説明：ガンダムヴァーチエをモデルにVFとMSを完璧に融合させて創りだされた試作機。そのため分類がまだ決まらない。見た目は赤いヴァーチエの後ろにドラグーン付きの金色の輪を背負った感じ（輪のイメージはスターゲイザーのを参考にしてください）。移動速度も速いが超火力が特徴、固定砲台として開発された。総合性能はハウメアやアマテラスを上回る。

光圧推進システム：後の輪はドラグーンユニットだがヴォワチュール・リュミエールの技術も使っている。

ミラージユコロイド：ステルス機能と幻影機能。

アクティブステルス：ミラージユコロイドと併用するとハンパないステルス性を発揮する。

ピンポイントバリア：重要機関を保護するためにバリアを展開する。

複合フィールド発生装置：機体を包む陽電子リフレクトフィールドとビームフィールドを同時発生させることが出来る。実弾もビームも怖くない。

VPS：近接戦闘用です。

ハイパーデュートリオン*2：内一つは複合フィールド発生装置専用で防御能力が更に高くなった。

変形機構：陣地転換以外に使い道がない。

武装：

小型試作陽電子砲：GNバズーカ位の大きさで冷却装置付きで掃射用。動かなければ30秒でチャージが出来る。マッドの最新作。

試作レーザースナイプガン*2：肩に付いてて狙撃専用。ビームでは無くレーザーなので各種フィールドを突破できる。射程が恐ろしく長いが威力がいまいちなので装甲を融解させるまでには時間がかかる、そのため戦闘中のMSを狙撃するのは難しい。射程を短く設定すると威力が上がるので逆に使い易い。

ドラグーン：地上ではただのビーム砲でむしろ防御用兵器。
クスイファイアス3レール砲*2：腰のあれ。
胸部拡散ビーム砲：大出力のビーム砲です。

戦争なんだが……これってどうよ？

アフリカでミナチームとファントムペインが合流した。

S I D E ネオ

やれやれ、今度はアフリカか。しかもネオ・オーブの指揮に従えだど？上の奴らは何考えてるんだ？なにか取引があったんだろう。ロンド・ミナ・サハクなら勝つには問題ないだろうが、しかし…

お！来た来た。ヘー中々美人じゃないの。

「ようこそ。地球連合軍第81独立機動群のネオ・ロアノーク准将です。宜しくお願致します」

「ネオ・オーブのロンド・ミナ・サハク少将だ。こちらこそ」

一目で分かる、こいつは有能だ。

「我々はサハク少将の指揮下に入ります」

「うむ、では早速作戦会議に入ろう」

「はっ！オペレーター、スクリーンに出してくれ」

さて、俺たちをどう配置する？

「敵はここ、つまりアークエンジェル付近の部隊が迂闊にも突出している。そこを斜めの両方面から叩く」

「戦力を集中させないのですか?」

「我らでは連携は無理だろう。アークエンジェルの次の目標は東側の補給基地だと思うるのでラー・カイラムをそっちに配備する。貴官らは南から突出した部隊を攻撃せよ」

妥当だ。しかも我々を使い潰す気は無いようだ。運が良かった。

「分かりました。しかし相手はあの不沈艦です、本当に援護は必要ないんですか?」

「ああ、残念ながらそちらのGでは対抗できないだろう」

確かに、敵はあのジャステイスの発展型だ。

「了解しました」

今回の任務は簡単かもしれない。

SIDE OUT

シン、レイ、効は気分転換の為に街に出かけた。ミナも最初は渋ったがこの三人なら大丈夫だろうと考え、許可した。ただし、変装してだが。シンがはしゃぎ、レイが適度に押さえて、効が見守る。彼らは兄弟みたいに仲がいい。

食べ歩きしていたら、シンがピンク短髪の頭を見つけた。見慣れたそれにシンは驚き

を隠せない。即座にレイと効を路地裏に引っ張って相談する。

「レイ！ルナマリアがいた！」

「！あいつもアークエンジェルに乗ってたのか！」

「知り合いか？」

「Z A F Tでは俺、レイ、ルナマリアの三人が同期なんです」

「……そうか。しかし、今は敵だ。私情を挟むと死ぬぞ」

「わかって……います……」

「レイ、お前は どうしたい？」

「……話がしたい」

「俺もです」

「……いいだろう。ただし、警戒は怠るなよ」

「はいー！」

ルナマリアは一人でカフェテリアで食事をしていた。断りもなく男三人が同じテーブルに座る。ルナマリアはシンを見ると最初は驚いたが、直ぐに「この裏切り者！」と言って殴りかかった。シンが咄嗟に首チョップ、ルナマリアが気絶した。

「……」

「……」

「……」

これはかなり気まずい。

S I D E ミナ

「それで運んで来たど？」

「はい……」「……」「……」

これは、褒めるべきか？ 敵パイロットを鹵獲したとか言つて。しかしやってることはただの誘拐だな。

「とにかく、敵パイロットの可能性が大きいので返す訳にはいかん。捕虜として扱う」

「やっぱりそうなりますか……」

心配そうだなシン、惚れた女か？

「妹が良く働いてくれてるんだ、亡命する意思があれば私からロイに言おう。悪いようにはしない筈だ」

「分かりました、直ぐ行きます！」

行動速いなおい。やっぱり惚れてるな、コイツ。

「はあく、他には?」

「いえ」「ありません」

「その気があるならシンを手伝ってやれ、人材としては申し分ない」

「はい」「それは命令ですか?」

効、傭兵の癖がまだ抜けないのか?

「いや、やる気あるならでいい」

敵MSは一機減ったと考えるべきか?

S I D E O U T

S I D E アスラン

「ルナマリアが戻ってこないだど!?!」

「落ちて着けカガリ!通信機を落としただけかもしれないだろ」

いや、恐らくは攫われたんだろう。

「でもっ!」

「大丈夫だ。既に搜索隊は出した、直ぐに見つかる」

ルナマリアはカガリを嫌っていたな、まさかそのせいで脱走を?いや、ルナマリアはそんな奴じゃない、やはり何かあつたんだろう。

無事でいてくれ。

SIDE OUT

ほぼ同時刻、C・Bで技術革新が起きた。ロイが原理を伝え、マッドが開発したヒツグス場の限定中和による質量封じ込め装置が完成する。これに推進装置を組み合わせればフロートシステムが出来る。直ぐにMS、VF用フロートユニットの開発が始まる。フロートユニットが完成すればMSの地上での推進剤使用量が激減するだろう。

サハク財閥はそれだけでは満足せず、民間用航空機企業を成立し、フロートユニットの民間転用を考える。この会社の最初の仕事は大型客船「ソレイユ」の開発だ。ロイ・サハクが設計した宮殿見たいな豪華客船を作ることでのその技術力を示すためだ。

なおナイトメア用フロートユニットは開発しない。戦争では使えないし、治安維持に空飛ぶナイトメアは必要無いからだ。

アークエンジェルはルナマリアの失踪で混乱している。プラントに余分のパイロットなど居る筈もないのでこのままではテストインパールスが一機使えなくなる。アスランは傭兵を雇うべきかアフリカ共同体から派遣してもらわなければならない、カガリがその努力を台無しにするとも知らずに。

終わりはいつも呆気無い

S I D E ミナ

時間か。

「敵が射程内に入るまで後10分です！」

「レイ、準備はどうだ？」

『ステルスは完璧です』

「敵が来たら直ぐに推進システムを狙え」

『了解』

「我らは同時にハイパージャマーを解除し、出撃する。シンはインフイニット・ジャステイスの相手を、効は周りの雑魚を倒せ。レイもアークエンジェルの足を潰したら雑魚相手だ。他は私が対処する」

『了解』

これで充分だろう。私も準備するか。

S I D E O U T

シンはルナマリアを説得出来なかった。家族がプラントに居るので中々頑固だ。こ

うして見るとメイリンはやっぱりアグレッシブだ。ルナマリアはただの捕虜として扱
う事になる。

アークエンジェルにて。

「もうすぐ基地だ。アスラン、準備をしてくれ」

『もう出来てる』

「いつも通り中央突破だ」

『…ああ』

少しは作戦を考えて欲しいアスランだった。

突然、スラスターが爆発した。

「！何が起きた!?!」

「突然爆発しました!?!っ！敵MS発見!七時方向です!」

レイがレーザーでスラスターを破壊したのだ。

「緊急着陸だ!それとMSを出撃させる!」

レイはそのまま周りのアフリカ共同体の軍へ攻撃する。同時にウイングガンダムゼ
ロカスタム、アマテラス、ハウメア発進。ハウメアもアフリカ共同体の軍の方へ向かう。
ウイングガンダムゼロカスタムとアマテラスはアークエンジェル組を攻撃する。イン
フィニット・ジャステイスとデステイニーインパルス*2は発射口を破壊して出てく

る。レイと効が向こうで愉快してる頃、シンとアスランが戦っていた。連日の戦闘でアスランは疲れているので普通にシンが押ししている。一方、アークエンジェル+デステイニーインパルス*2は非残だ。ファンネルは飛ばせないがビームは出せるので翼から次々とビームを放つ。空から地上のアークエンジェルを撃つ姿は正に天使が裁きを下しているようだ。するとデステイニーインパルス*2はそれに逆らう罪人で近づくととも出来ない。残念ながらインフィニット・ジャステイスは光圧推進システムを使っていないのでアマテラスの敵にはなりえない。それは最初に左腕を失った、次に左足。そこ迄来ると三機目のデステイニーインパルスが現れる。一般回線で「アスラン！」と叫んで突っ込んでくるのはカガリだった。しかしアスランに取ってはただの足手まといだ。シンはアスランの相手をしている片手間でカガリを攻撃する。コーダイネーター用OSを上手く扱えないカガリはただの的だ。5分、たったそれだけでアフリカ共同体の軍は敗退し、アークエンジェルはその全機能を止めた。抵抗するのも残りはカガリとアスランだけ、それもシン一人に押されている。ミナが降伏勧告を始める。カガリは怒鳴り返し、迂闊にも敵から目を逸らした。回避が疎かになり、エンジンがビームに貫かれる。ピンク色の煙と共にカガリ・ユラ・アスハこの世から消え去った。アスランが種割れしたがぼろぼろのインフィニット・ジャステイスでは何も出来ない。無数のビームを受けて爆発した。アークエンジェルクルーは鹵獲され、大天使は消し去られた。

S I D E ネオ

おいおいマジかよ。10分経たずにあのアークエンジェルを落としたのか。ネオ・オーブの新型MSは化物か？

しかし、アークエンジェル。なんか腑に落ちない。俺はあの艦に乗った事があるのか？

S I D E O U T

アークエンジェル組が壊滅したのでラー・カイラムはまた宇宙に上がる。次はD S S Dの攻略だ。

プラントでは更なる混乱が起こる。ラクス・クラインは自分のやり方に反発する者を問答無用で異動させた。一番異常なのは国防委員長でありながらD S S Dに派遣されたイザーク・ジュールだ。ネオ・オーブの実力をよく知る者ほど本国から遠ざけられる。最終的に本国ではネオ・オーブを侮る者ばかり残ってしまった。

大洋州連合はついにカーペンタリアからZ A F Tをたたき出した。物資が滞りぎみなZ A F Tは持久戦に耐えられなかった。しかし、ジブラルタルの支援もあつて残存戦力はジブラルタルに集まる。だがジブラルタルの物資も充分ではない。ここで連合が

へブンスベースの再建を開始し、ついでにジブラルタルに戦略爆撃を実行する。出撃したい司令官だが今は物資が足りなく、占領地に割ける戦力もない。我慢するしかなかった。

ネオ・オーブでは軍にいる二名のニュータイプが大々的に宣伝された。勿論彼らの了承を貰ったの事だ。軍のエースでニュータイプなので、英雄に祀り上げるには丁度いい。具体的なニュータイプを見た国民は全てに疑いをなくした。また、PU構成国と連合は公式に新しい進化の方向を認め、それに協力したいと申し出る。ネオ・オーブはこの申し出を断った。協力させると高確率で実験体を要求もしくは攫うからだ。ネオ・オーブは全ての知識がロイの頭の中にあるので実質的に実験は必要ない。対外的に実験と言う過程が必要なので、終戦後に二人のエースには簡単な人道的な実験が幾つかある。

残りの国はプラント以外が未だ意見を保留している。プラントはこの件を無視した。

チート知識の使い方

アークエンジェル組が壊滅し、付近のアフリカ共同体の軍の被害も甚大。そしてネオ・オーブとファントムペインの実力を見たアフリカ共同体は即座に交渉してきた。ネオ・オーブが仲介に入り、南アフリカ統一機構に有利な形で交渉が始まる。

ロイは遠い最後の戦いの為に準備をする。ソロモンに核バルスエンジンを取り付ける事とマストライバーシップの製造だ。DSSDの攻略がまだだが戦略家なら先を見て当然だ。

赤道連合とスカンジナビア王国がDSSD攻略とプラント侵攻へ参加したいとネオ・オーブと交渉をした。両国共戦後の発言力が欲しいのだ。実力的に戸惑ったネオ・オーブだが、両国は指揮権を渡すと言う。同盟国として無駄に戦力を消耗してほしくないネオ・オーブは申し出を受けた。ついでにいらぬイズモ級二隻をプレゼントした。後は適当な衛星を一つ拠点にするために探してきた。

DSSD攻略の準備はそろそろ完了する。あとはミナチームが戻るのを待つだけだ。連合も作戦に参加したかったようだが今はジブラルタルの攻撃で精一杯だ。アフリカから帰ってきたファントムペインはジブラルタル戦線に投入される。

ラー・カイルムがネオ・オーブに帰還し、大量の捕虜をおろした。ルナマリアは監視つきでメイリンに任せられた。他は通常の捕虜として扱われる。ロイはついでのネオ・オーブの事を教えて洗脳してみる。

ミナチームは三日程休みを貰った。シンは相変わらずルナマリアの説得、そんなシンを見たアスカ一家はニヤニヤ笑う。レイは弟と遊び、効は元傭兵仲間と飲む。突然思い出したロイは効の網膜の管理コードを消した。効は更にやる気を出した。しかしミナとギナはちゃんと仕事はするがロイの作ったゲームにはまってる。ロイがその知識と知恵を使って人間のツボを徹底的に突いた恋愛シミュレーションゲームが二本。ミナとギナに試してもらったがここまでハマるとは予想外だった。これは表には回せないだろう、下手するとマジで出生率に響きそうだ。後にこの二作はサハクの門外不出の幻のゲームとなる。これにつられて情報を売るバカまでいる始末、最強のゲームだろう。

S I D E イザーク

ここをどう守れって言うんだ！対空防御が無いし、使えそうな兵器はアポロンAだけ。シビリアンアストレイなんぞ、ネオ・オーブのVFの相手にも成らない。此処の奴らはネオ・オーブの恐ろしさをよく知っているがそれに萎縮している。本国のやつらは侮ってやがる。笑えないくらい両極端だ。

「イザーク！」

「ん？ディアツカか…」

「そろそろ休め！お前は働きすぎだ。」

「仕方あるまい、この程度の戦力で守れと言うんだ。少しでも万全にしておかないと」

「出来る訳ないだろう！」

「それでもだ」

「くっ、シミュレーターやってくる！」

苦勞を掛ける、ディアツカ。それでも俺はZ A F T軍人なんだ。

まず、エースと言えるパイロットは俺、ディアツカ、シホしか居ない。MSはガンダムタイプがカオスインパルス、アビスインパルス、ガイアインパルス、スターゲイザーの四機。他はザクとグフが少数、追加のシビリアンアストレイ。時間さえ稼げそうもない。アポロンAに頼るしか無いか。しかしネオ・オーブがなんの対策もしていないとは思えない。アポロンAなら連合の陽電子リフレクターを突破できる。先制攻撃されると考えるのが妥当だろう、警戒を上げるべきだ。

しかし、あのピンクの戦略はどうなっているんだ？

S I D E O U T

アフリカ共同体の戦争が収まり、ネオ・オーブの実力を見た上層部はプラントとの貿易を止めた。それにより、プラントの貿易相手はコペルニクスのみになる。プラントの

食糧事情は危機に陥るがロイの指示で裏切り者を装った一派がプラントへ高額で食料の販売をする。大統領の了承もあるこの行動は特殊工作の一環なので収入は国家予算に回される。まだまだ搾り取るつもりでロイだった。

万端な準備をした連合艦隊がDSSDへ向かう。今回、ソロモンの戦力は使わない。ギナが指揮する赤道連合艦隊、ミナが指揮するスカンジナビア艦隊、それとネオ・オーブ軍艦隊の三つで作戦を実行する。DSSDには超戦力過剰だ。

ロイはプラント制圧作戦を準備していた。DSSDの作戦では連合艦隊が担当し、プラント本国の敵はソロモンを使って倒す。ロイがミナ、ギナ、ネオ・オーブ軍に下した命令は圧倒的戦力で敵を怖れさせると言う事と逃げるZAFTはあんまり追わなくてもいいの二つ。この二つの作戦でロイはこの世界の問題を解決するつもりだ。

SIDE ラクス

ふふつ。まさかネオ・オーブ内部に裏切り者が居たとは思いませんでしたわ。プラントの防衛網は間もなく完成します。DSSDのZAFTは時間稼ぎくらい出来るでしょう。撤退許可は出しましたがせめてそのままプラント本国へ来れ無い位の損害を与えてもらわなければ意味がありません。ネオ・オーブは決して一枚岩では有りません、倒せますわ。

皆さん冷めてます

DSSDの攻略は予想通り簡単だった。最初にアポロンAのプロパルションビームをメシアで防いだのが決定的だった。一突きでZAFは崩れ、プラント方面に逃げ出す船が続出する。連合艦隊はそれを無視して残って抵抗する優秀な軍人を先に攻撃する。イザークは即座に撤退命令を下し、ジュール隊が殿に残る。しかし連合艦隊は撤退する艦隊やジュール隊よりもトロヤステーションへの攻撃を重視している。崩壊するトロヤステーションはZAFに嘗てのユニウスゼブンを思い出させ、逃げる将兵に更なるトラウマを刻む。最終的にトロヤステーション、Bリング、アポロンAなどのDSSDの施設は全て藻屑になった。これでZAFは全ての要塞を失い、再建も不可能になる。殿のジュール隊はイザーク・ジュール、ディアッカ・エルスマン、シホ・ハーネンフースがインパルス系3機と共に鹵獲される。スターゲイザーはどっかで撃墜された。

SIDE イザーク

俺は、また油断したというのか。せめてアポロンAは通用すると思ったのに、奴ら防ぎやがった！議長は此処での決戦を望まない事は分かっていたがせめて防衛兵器を少

しても回してくれたら時間ぐらい稼げたかも知れない。くっプラントはこのまま終わるのか？

S I D E O U T

S I D E ラクス

まさか時間稼ぎさえ出来ないとは。アスランの戦友は無能ですね。しかし連合艦隊が一時撤退してくれたのは幸運でした。これでプラントの防衛を完璧に出来ますわ。そう言えばアスランとカガリさんが行方不明でした。大丈夫でしょう、イージスの自爆でも大丈夫だったんですから。

S I D E O U T

アスランとカガリは普通に爆発に巻き込まれて死んでいます。

D S S D の陥落後、サハクは強引な交渉を始める。プラント制圧作戦はネオ・オーブのみで実行する、更に歩兵の直接制圧以外はサハクの私兵が担当すると言う。ネオ・オーブ大統領はロイから戦略を聞かされ、これに同意するがP U 構成国は不満がある。苦勞して艦隊を宇宙に運んだのにこれだけの活躍では戦後の発言力に響くと考えた。これに対し、ネオ・オーブはスカンジナビア王国と赤道連合の宇宙拠点の建設に協力すると言って宥めた。ロイは各国大使に「ぶっちゃけ邪魔、巻き込まれたくなければ後ろで待機してろ（意識）」といって帰ってもらった。サハクの意見は通った。その代わり直

接制圧部隊は三国混合となる。

ロイはソロモンを月ープラント航路に置き、プラントとコペルニクスの貿易を完全に止める。更に逆方向にピースミリオンを配置して逃げ道を閉じる。そのままジブラルタルが陥落するまで待つ。ネオ・オーブからの食料密輸はこれで更なる利益を出す。

ロイはスカンジナビア王国にこれが最後のチャンスと言つてジブラルタルの攻撃を促した。スカンジナビア王国と連合は一時的に協力しジブラルタルに容赦なく爆撃する。結果、ジブラルタルのZ A F Tは直ぐに本国に撤退する。

Z A F Tは終結し、一息ついた頃。ロイはプラント制圧作戦を発動する。まず、食料密輸を止める。そしてマストドライブバーシップを使い、超遠距離からプラントに向けて大量の隕石を発射する。ロイは防衛戦準備が出来てるプラント本国で戦闘するつもりはない、このまま炙り出すつもりだ。

ネオ・オーブはプラントのメディアを一時的にジャックし、プラント制圧を宣言する。更に攻撃目標を発表、その中にはマイウス市とユニウス市、兵器設計局、造船所などがあつた。ロイは最終的にはプラントのコロニーも攻撃するつもりだ。

プロパガンダと食料問題でプラントは過去最大の混乱が起こつた。攻撃目標付近の住民は直ぐに逃げ始める。戦争は終わったんじゃないのかと問い合わせる人間が多くなり、生産が完全に止まる。ラクスは直ぐに演説し、「一団となって困難に立ち向か

いましょう」と言って宥める。更に「騙すつもりはありませんでした」とか「全ては平和のためです」とか「我々は必ず勝利します」とか色々言って引き込む。これだけは得意のラクスは見事混乱を解決し、国民を一致団結させた。彼らはラクスの言う事を信じた。既に詰んでる事を知らずに。

ラクスはこの結果に満足し、敵について考えを巡らせる。このまま隕石の相手をしても埒があかないと考え、ついに全戦力をもって出撃する。本国には防衛兵器以外の戦力は一切無くなった。そしてアーモリー市の残骸も運ぶ。

S I D E ロイ

アーモリー市の残骸って考えてることがバレバレだぞ。

まあいい、こちらでもソロモンをプラントに近づけよう。交戦位置はプラントの防衛兵器が使えなく、アマツがプラントコロニーへ飛んでいける場所が望ましい。少しずつ押していく必要があるな。

「ステラ、私たちの任務はコロニーの攻撃だ」

「うん」

「採光ミラーなどのインフラを優先的に攻撃して。ただし崩壊させたら駄目」

「分かった」

「最後の仕上げは私がやるからできるだけ離れてね」

「一人で大丈夫？」

「大丈夫」

微笑んで安心させる。

あ、撫でられた。むう、ナノマシンの調整がまだなんだがな。

S I D E O U T

一応の終結

ラクスは艦隊以上の速度でアーモリー市の残骸をソロモンに向けて飛ばす。この怪しすぎる物体をロイはDXで消滅させた。作戦？が失敗し、Z A F T艦隊は即座に後退した。

S I D E ラクス

「な、なんですかあれは」

「落ち着いて、ただのビームだよ」

レクイエム並の威力があるのにただのビームな訳が無いですわ。

「一端後退します、キラは対策を考えてください」

こう言うのは軍人のキラに任せるしか有りませんね。

S I D E O U T

Z A F T艦隊が後退し、ソロモンが前進する。そのままロイが目指した戦場に到達する。そしてソロモンからマスドライバースhipが再び発進され、隕石攻撃が始まる。今度は命中精度が高いがZ A F T艦隊が迎撃したので命中することはない。このままでは弾薬が尽きてしまうのでZ A F Tはこれといった作戦もないまま決戦に挑まなければ

ば成らなくなった。

Z A F Tは直ぐにM Sを発進させた。同時にソロモンもM Dを展開する。Z A F Tはやっぱり中央突破。ロイはO O小隊とW小隊を両翼に配備し、三機のD Xを中央に置く。Z A F T部隊は三機のツインサテライトキャノンを浴びながら戦闘しなければならなくなった。気分的には「これなんて無理ゲー？」な感じ。ソロモンは温存したビルゴII、プトレマイオス、トラスを出す。クスイーガンダムとアマツ+ヴァイエイト+メリクリウスも発進。戦況を見て温存なんてしてる場合じゃないと考えたラクスはストライクフリーダム（+ミーティア）とデステイニー（+ミーティア）を出す。最も始まつちやいけない戦争が始まる。

ストライクフリーダムとデステイニーは中央戦線に配置されている。これは少しだけロイの意表をついた。両翼の圧力が強いZ A F Tは二機を両翼に回し、包囲を防ぐと思つたからだ。ロイは即座に作戦を修正、ステラとメリクリウス、ヴァイエイトにこの二機の相手をさせる。アマツはそのままコロニーに向かう。しかしキラがロイを追う。この行動は可笑しい、デステイニー一機では中央突破も不可能だ。キラはドラグーンユニットとミーティアをパージして追いかけるがアマツには追いつけない。それでも正確すぎる攻撃で牽制しようとしている。どうやら最初から種割れしているようだ。

両翼では圧倒的とも言える状況でMDが押し込んでいる。ビルゴイーの防御力とトौरアの機動力は敵の攻撃を寄せ付けけない、更にMS並みの動きをするプロレマイオスからグラビティブラストなんて凶悪なもんが発射されるのでたまったもんじゃない。包囲陣は順調に完成されつつある。

中央ではミーティアで機動力が落ちたデステイニーがMFアンネルの斉射を受けてしまった。元々ハイネはミーティアを使うことに反対していた。しかし議長の「勿体無いかから使いなさい」の一言で使う羽目になった。その結果がこれだ。ハイネはミーティアを盾にすることでMSの損傷を抑えた。しかし（エースはハイネ）一人で突破せよとの命令を思い出してやる気を無くす。彼はキラが戻ってくるまで現状維持に努めることにする。だがそれは無理だろう。度重なるDXの砲撃でまとまった戦力は既に無い、そしてZAFТは敵MSの対処法も発見できずにいる、そろそろ判定ではなく物理的に全滅するかもしれない。

コロニーに到達したアマツは採光ミラーへの攻撃を開始する。防衛兵器はコロニーに当たるので使われていない。しかしストライクフリーダムはそんな事気にせずにアマツに攻撃する。

S I D E ロイ

可笑しい、コイツは可笑しい。脳のリミッターを解除していい時間はとうに過ぎて

る、それにキラはこんな性格では無かった筈だ。しかしちよつと興味ある。一般回線で通信してみよう。

「おい、キラ・ヤマト」

『うわあああああああ！』

は？

『があああああああ！』

誰こいつ？ しかも操縦に問題はないし、通信を受けるくらいの理性はある。どういう状況なんだ？

どうでもいいや。種割れの時間が長すぎたからだろう。

ナノマシンの最終チェック……完了。

さて、戦争を終わらせよう。

S I D E O U T

アマツが月光蝶システムを発動。プラント全コロニーへナノマシンが散布される。このナノマシンは元よりも威力を小さくしてある。ロイは別に大量殺戮がしたいわけではない。ナノマシンがストライクフリーダムとコロニーを襲う。弱体化したナノマシンはある程度分解したら自爆するように設定されている。しかし精密機械のMSとコロニーにとってこれで充分だった。ストライクフリーダムは関節から侵入したナ

ノマシンに攻撃され、機能停止する。コロニーは採光ミラーが全て使用不能になり、他のインフラも大量に破壊され、コロニーの外壁も数枚分解された。コロニー内部ではアラートが鳴りまくった。頭のいいコーディネーター達にはこれがどれだけ危ないかが分かる。このまま分解されれば彼らは生身で宇宙に放り出される、シエルターなんぞ意味はない。

ロイは最後の外壁が突破される前に月光蝶システムを終了させた。ストライクフリーダムは使えない、アマツは自由になる。ロイはそのまま軍事コロニーになったマイウス3とマイウス4を単機で破壊し、アプリリウスへ向かう。

ロイが大量破壊してる頃、ソロモン軍はZ A F Tの包囲を完成した。エターナル以外のZ A F Tは全て破壊される。ラクスがエターナルで何か騒いでるが、DESTINYが撃墜されてからZ A F Tは統制を失った。そこからは一方的な殺戮だ。この戦況は多角度から映像に収められた。

エターナルはバーニアと全武装を破壊され、拿捕される。ステラがロイに通信し、アプリリウスへ向かってる最中のロイは後方待機していた歩兵制圧部隊を使う。そのまま全市のファーストコロニーが占拠され、プラントは完全に制圧される。

異世界に行きたい

戦争は終わった。ロイはプラントを恐怖の呑底にたたき落とした。Z A F T軍の生還者はエターナル乗組員とキラ・ヤマトのみ。彼らはこのまま裁判にかけられる。ラク・ス・クラインが超ウザかったがネオ・オーブに移したので支持者なんて居ない。キラは精神治らないくらい壊れてたのでどうするか迷っている。

ロイはソロモン軍が全てナチュラルで構成されていると発表する。D S S Dで量で負け、プラント制圧戦で質の差を見せつけられたプラント国民はこの発表でコーディネーターのプライドを木っ端微塵に砕かれた。これでコーディネーターとナチュラルの対立は世界範囲で激減した。

プラントの権利は理事国に戻った。だが幾つかの条件がネオ・オーブから出された。

1. 賠償金はプラントが支払えなかった場合、理事国が負担する。
2. 婚姻統制の廃止。
3. コーディネーター夫妻が養子を引き取る場合はナチュラルでなければならぬ。

これでプラントはコーディネーター国家という性質を失うだろう。

プラントはボロボロだった。インフラがかなり破壊され、予備の設備で生活している状態だ。コロニーの修理は多大な時間と資源が必要になるだろう。こんなもんロイは

要らない、なので権利を理事国に売った（裏）。

ラクスの色んな行いとそれに対する評価が公表された。プラント市民はそれでもラクスを信じる者も居たが、殆どはこれでラクスを見限った。プラント国内でラクスシンパによるテロが起こったがロイにはどうでもいい事だ。ついでにロイはラクスに家庭教師を付けた、自分の行動がどういふ風に父と仲間の死に繋がったかをじっくり教え込ませてる、ついでにアスランやカガリの最後の映像とかも何度も見せる。それでどう考えるかは別だが極刑を免れないだろう。

戦争終結と言うことでスカンジナビアから結婚の催促が来た。ネオ・オーブもこれに同調し、ロイの知らぬ間に進んでいくが。書類記入段階で年齢が足りないことが発覚、全員頭にはてなマークが付いていた。ロイは14歳、何故気づかなかったんだと全員が考えた。ロイがこれを聞いてすぐに呆れと共に準備したパーティーを終戦祝いパーティーに変える。直ぐ近くで三人の少女がほっとしたのは秘密だ。

アークエンジェルクルーは連合に送還されそこで軍事裁判だ。イザークらは正式な捕虜なのでプラントに戻している。彼らはネオ・オーブを見てプラントの進む方向を見つけたと言っている。ホーク家は丸ごとネオ・オーブに移住した。喧嘩してるのバカらしくなって、メイリンがいい仕事に付いてるし、プラントは駄目っぽいし、皆でこっちで住もうと言う話になった。ホーク家はデュランダルさんのお隣になりました。ルナ

マリアはシンの副官になり、たまにシンにアタックされる。ちなみに両親達はすでに合意している。

ネオ・オーブでまた政治改革が始まる。まず、「人類進化プラン」をネオ・オーブ政府が主導することになる。そして軌道に乗ったデュランダルは遺伝子分析企業を使って税収制度も変える。遺伝子分析を元にした税収では遺伝子適正に合った職業を選択すると税率が高くなる。これは完全平等を実現するためではなく、才能と言う要素をできるだけ排除して努力で収入を決めるのを目的にした制度だ。遺伝子分析が間違えると大変なのでロイも技術協力を申し出た。

S I D E ロイ

戦争が終わってしまった。やることが一気になくなってしまったよ。最近寝る時間も充分だし、遊びの誘いも多い。マリアとか、ステラとか、メイリンとか、マユとかってあれ？私つてもしかしてとんでもなく羨まれる立場にいる？ま、いっか。

次は何をしよう？ボソソジャンプを公開しよう。演算装置はこちらの手の内だ。つまりジャンプするには私の許可がいる。問題ないな。これでその気になれば核を転移させることも出来ると知られるが、経済を支配されてる時点で文句を言う奴も居ないだろう。うん、これだな。丁度よくセレーネ・マクグリフ博士が来たし、深宇宙探索は彼女に任せよう。

後は、ゲーム会社か？ミナとギナの尊い犠牲（主に名譽的に）でゲームも行けると分かった。なんかゲームで世界を操縦できる気がしてきた。まあ、今は社会混乱は起こってないし、人種差別を無くすことを考えよう。人外と恋愛するゲームさえいくらでもあるんだ。人種くらいどうでもなる。

この国はまだ熟成が必要だ。移民が多く、様々の人種が集まっている。しばらくは平穩な生活でこの国を好きになってもらわないと肝心なときに全員逃げる。はあ、異世界行きたかったんだけどな、何十年かかることやら。

真剣に不老化でも考えるか？なんか老害になりそうで嫌だな。しかし魔法とかも見てみたいし、このまま一人で行く訳にもいかないし、他の人達も巻き込みたくない。ゆっくり考えるか。

S I D E O U T

C. E 89、プラント最高評議会議長のイザーク・ジュールは再び理事国に宣戦布告する。この戦争は人種とは関係ないただの独立戦争になる。ロイはまた戦争の中で悪巧みして利益を搾り取る。彼の異世界の旅はまだまだ遠い。